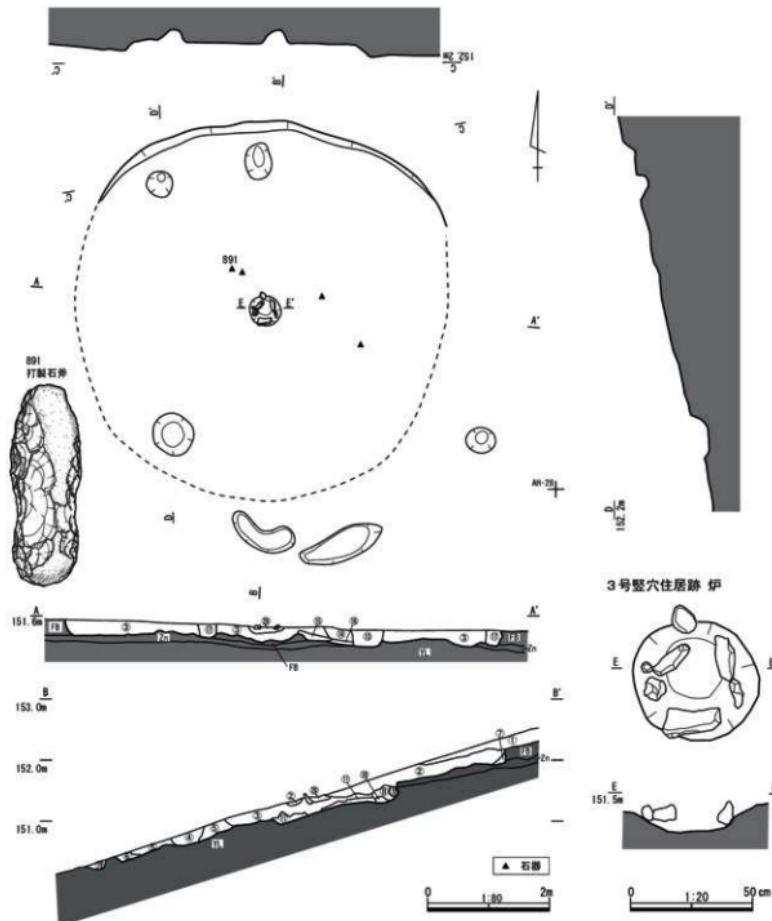


3号堅穴住居跡(SB03)



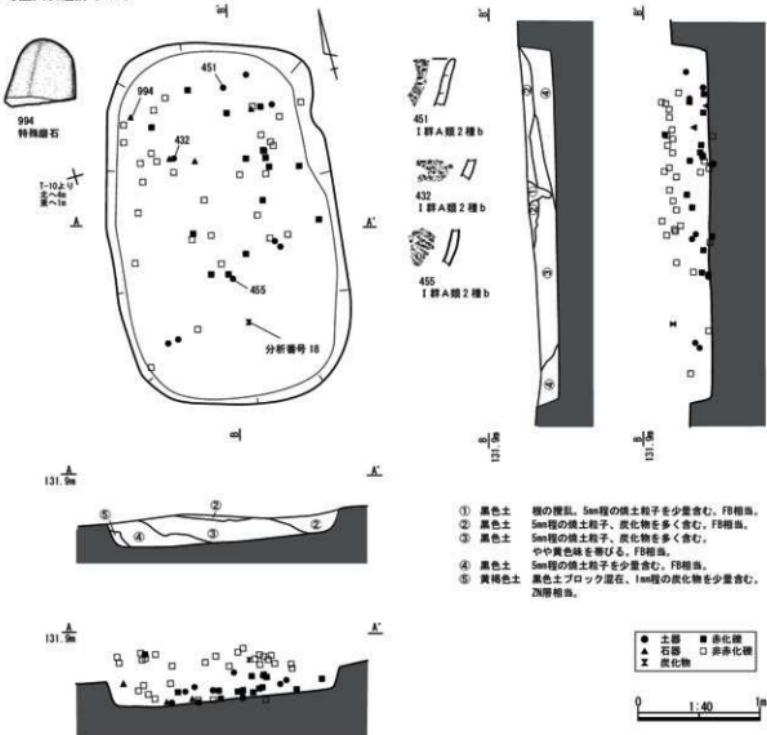
- ① 棕褐色土(10YR4/4)と黄褐色土1(10YR5/6)の混土。
KEPと1mm程の褐色スコリアを少量含む。粘土質。
 - ② 棕褐色土(10YR4/4)中に褐色土(10YR4/4)ブロックを含む。1~3mmの褐色スコリアを含み、全体に汚れている。KUとFBの混土。住居の壁土と考えられる。
 - ③ 黄褐色土(10YR2/3)やや硬質の1~3mmの褐色スコリア・1mm程の炭化物を含む。FB主体。粘土質か?
 - ④ 黄褐色土(10YR2/2)を主体に、黒褐色土(10YR2/3)・褐色土(10YR4/4)・1~4mmの褐色スコリアを含む。泥炭土に多くなる。粘土質か?
 - ⑤ ③と同じだが、やや明るく硬質。粘土質か?
 - ⑥ 黄褐色土(10YR2/3)とぶい黄褐色土(10YR5/4)の混土。やや硬質。粘土質か?
 - ⑦ ②とZnの混土。
 - ⑧ 黑褐色土(10YR2/2)やや硬質。
- ⑨ YLのブロック。やや明るい。
 - ⑩ 黑褐色土(10YR2/2)と黄褐色土(10YR5/6)の混土。やや硬質。
 - ⑪ 黄褐色土(10YR4/6)と棕褐色土(10YR2/4)の混土。粘土質か?
 - ⑫ 黑褐色土(10YR2/2)1~4mmの褐色スコリアを含む。しまりやや硬質。
 - ⑬ 黄褐色土(10YR2/2)に覆瓦するが、やや明るく、10mm程のブロックを少量含む。
 - ⑭ にぶい黄褐色土(10YR4/3)とYLの混土。
 - ⑮ 黑褐色土(10YR2/2)の混土。
 - ⑯ 黄褐色土(10YR2/2)1~4mmの褐色スコリアを含む。
 - ⑰ ③に類似。網間に汚されている。
 - ⑱ 黑褐色土(10YR2/3)1~3mmの褐色スコリアを含む。
 - ⑲ TLがやや上がっている。3mm程のスコリアを少量含む。
 - ⑳ 黑褐色土(10YR2/2)1mm以下の細土粒・炭化物を多く含む。炉の壁土。

第104図 純文 3号堅穴住居跡

第16表 繩文 整穴住居跡

造構名	造構番号	地区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	最大深 (m)	平面形態	帰属時期	備考
3号堅穴住居跡	SB03	1区	AG/AF-27	(6.0)	(6.0)	(0.2)	円形	繩文	炉・小穴

1号整穴状造構 (SB01)



第105図 繩文 1号整穴状造構

第17表 繩文 整穴状造構

造構名	造構番号	地区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	最大深 (m)	平面形態	帰属時期	備考
1号堅穴状造構	SB01	4区	T-10	2.97	1.92	0.28	長方形	繩文	

3 土坑（第106～119図 第18表）

当該期と判断される土坑は62基検出されている。共伴遺物に乏しく、時期決定は形状、検出層位及び覆土から判断した。平面形状及び断面形状、深度等から以下のとおり分類可能であるが、特に深度については後世の削平または道構検出面により異なるため、一概に判断することはできないが、覆土が類似するものは時期差が少なく、検出深度の相対的深浅もある程度首肯できる範囲と判断した。

平面形状

- A 長短比が小さい（0.75以上）もの（円形、隅丸方形に近いもの。不整形のもの含む）
- B 長短比が大きい（0.75未満）もの（楕円形、隅丸長方形に近いもの。不整形のもの含む）

検出深度

- 1 0.35m以上のもの
- 2 0.35m未満のもの

※長短比=短径/長径

（1）A1 長短比が小さく、検出深度が0.35m以上となるもの（可能性が高いもの含む）

土坑97（SP097）

平面楕円形を呈する土坑である。わずかに丸みを帯びた底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面中央には逆茂木痕の可能性をもつ平面円形の小穴が確認される。検出面は第Ⅰスコリア層であるが、覆土に漸移層相当土を含むことから、実際の掘削面は漸移層に近い部分と推測される。

土坑94（SP094）

平面楕円形を呈する土坑である。やや丸みを帯びた底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面中央には逆茂木痕の可能性をもつ平面円形の小穴が確認される。検出面はニセローム層であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むことから、実際の掘削面は富士黒土層に近い部分と推測される。

土坑149（SP149）

トレチで一部を欠損するが平面円形を呈すると推定される土坑である。比較的平坦な底面から直立て立ち上がる壁面を有する。底面には逆茂木痕と考えられる小穴が3基、直線的に並んで検出された。中央のものがやや大きく深く、両端の2基がやや小さく浅い。検出面は休場層上位である。

土坑64（SP064）

平面隅丸方形を呈する土坑である。やや丸みを帯びた皿状の底面から直立て立ち上がる壁面を有する。底面には逆茂木痕の可能性をもつ4つの小穴が認められる。検出面は漸移層である。土層帶の観察から、富士黒土層、漸移層相当土が自然堆積した後、土坑壁面の崩落土が顕著に堆積した状況がうかがえる。

土坑148（SP148）

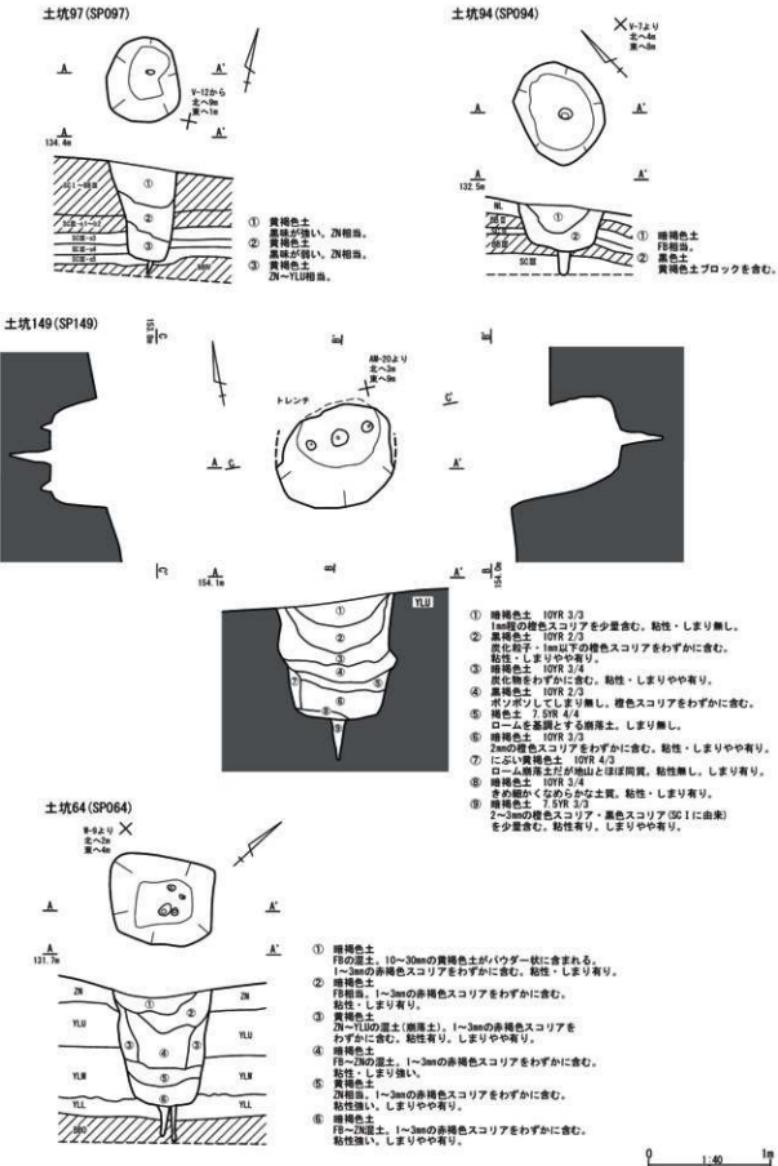
平面円形または隅丸方形を呈すると推測される土坑である。トレチ掘削後に断面で検出されたため全体の形状は不明である。平坦な底面から上外方に開き気味に立て立ち上がる壁面を有するが、現地調査担当者の土層帶の観察によると、壁面上半は壁面崩落により壁面傾斜が緩くなったとされている。本来の壁面の立て上がりは土坑下半壁面のとおり直立気味であった可能性が高い。検出面は休場層上位である。

土坑75（SP075）

平面不整楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立て立ち上がる壁面を有する。

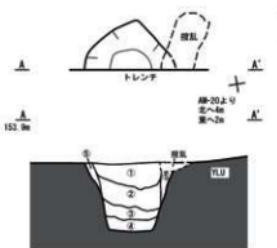
土坑82（SP082）

平面楕円形を呈する土坑である。土坑東半にテラス状の平坦面が認められる。平坦な底面から上外方に開いて立て立ち上がる壁面を有する。検出面は休場層上位である。



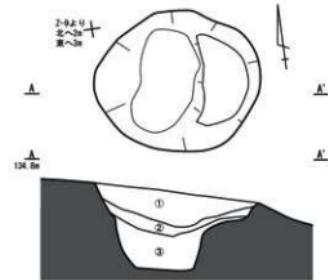
第106図 純文 土坑1

土坑148(SP148)



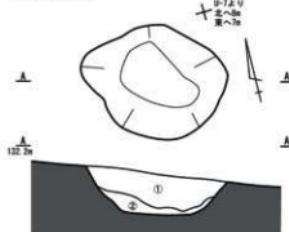
- ① 黄褐色土 10YR 3/4
黒褐色土(2段相当)と黄褐色土の混成層灰化物・褐色スコリアを
わずかに含む。粘性・しまりや有り。
- ② 黑褐色土 10YR 2/3
1mm以下の褐色スコリアをやや多く含む。粘性・しまりや有り。
- ③ 黄褐色土 10YR 3/3
1mm程の褐色スコリアを少量含み、ロームを含むボソボソした土。
粘性・しまり有り。
- ④ 黄褐色土 10YR 3/4
少量の藍色土を含む。ロームを含むボソボソした土層。ややしまり有り。
- ⑤ ぶらい黄褐色土 10YR 4/3
ロームを多量含む無機土層。粘性有り。しまり無し。

土坑82(SP082)



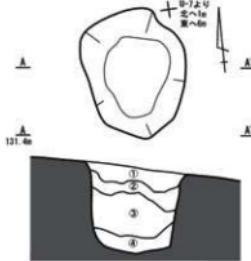
- ① 黄褐色土
少量の褐色スコリアを少量含む。ZH相当。
- ② 黄褐色土
ZH相当。5mmの褐色スコリアを多く含む。しまり有り。
- ③ 黄褐色土
ZHとYLの混合。

土坑72(SP072)



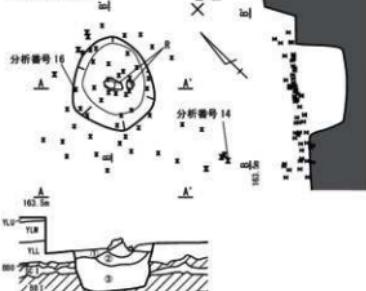
- ① 黒褐色土 10YR2/3
1~3mmの褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 黑褐色土 7.5YR2/2
1~3mmの非褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。

土坑75(SP075)



- ① 黄褐色土 10YR 3/3
1~3mmの赤褐色スコリア・1~2mmの炭化物をわずかに含む。
粘性・しまり有り。
- ② 黄褐色土 10YR 4/4
1~3mmの褐色スコリア・1~2mmの炭化物をわずかに含む。
- ③ 黄褐色土 10YR 2/3
1~3mmの赤褐色スコリア・1~2mmの炭化物をわずかに含む。
粘性・しまり有り。
- ④ 黄褐色土 10YR 2/3
1~3mmの褐色スコリア・1~2mmの炭化物をわずかに含む。
粘性・しまり有り。

土坑26(SP026)



- ① 棕褐色土
ZH層に相当。1~3mmの赤褐色スコリア・
炭化物をわずかに含む。粘性やや有り。しまり有り。
- ② 棕褐色土
ZH層~YL層に相当。1~3mmの赤褐色スコリア・
炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ③ 棕褐色土
YL層~TL層に相当。1~3mmの明赤褐色スコリア・
炭化物を含む。粘性・しまり有り。

土坑23(SP023)



- ① 黒褐色土 7.5YR 2/2
1~3mmの明赤褐色スコリア
を含む。
1~3mmのYL粒子をわずかに
含む。
- ② 黑褐色土 7.5YR 3/4
ZH層と 7.5YR 3/4
1~3mmの赤褐色スコリア
を含む。

第107図 縱文 土坑2

土坑26 (SP026)

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。休場層下位での検出であるが、覆土に漸移層相当土を含むこと、土坑検出面や上から礫及び炭化物が出土しており、これらが土坑と関連するとすれば、本来はより上位から掘削されたものと判断される。検出面付近から礫（輝石安山岩）2点と炭化物が57点出土した。炭化物2点（8278・8279）について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、それぞれ $7,920 \pm 30$ yrBP、 $7,890 \pm 30$ yrBPという結果を得た（附図参照）。

土坑152 (SP152)

円形を呈すると推定される土坑である。比較的平坦な底面から上外方に大きく開いて立ち上がる壁面を有する。検出面は休場層上位である。

土坑244 (SP244)

平面円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から上外方に直線的に開く壁面を有する。検出面は第Iスコリア層であるが、覆土色調が富士黒土層～漸移層に類似することから、実際の掘削面は漸移層に近い部分と推測される。ホルンフェルス製の剥片が2点出土している。

土坑5 (SP005)

平面不整円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立気味に立ち上がる。底面中央から少し西側には平面円形を呈する落ち込みが認められる。土層堆積状況では土坑と落ち込みの間に切り合い関係は認められないことから、同一造構として報告する。

覆土上面付近からスクレイパー1点及び、多孔質安山岩の礫1点が出土している。

土坑115 (SP115)

平面不整形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。検出面は休場層下位であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位であったと判断される。覆土から砂岩（細粒）製の剥片1点が出土している。

(2) A2 長短比が小さく、検出深度が0.35m未満となるもの**土坑72 (SP072)**

平面不整円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開いて立ち上がる壁面を有する。

土坑23 (SP023)

平面隅丸方形を呈する土坑である。底面は皿状を呈し、壁面は上外方に開き気味に立ち上がる。

土坑30 (SP030)

隅丸に近い梢円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開き気味に壁面が立ち上がる。土坑34と密接して検出された。検出面は休場層下位であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むため当該期に含めた。本来の掘削面はより上位にあると判断される。覆土に輝石安山岩の礫2点を含む。

土坑34 (SP034)

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開き気味に壁面が立ち上がる。土坑30と密接して検出された。土坑30と同様、検出面は休場層下位であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むため、当該期に含めた。本来の掘削面はより上位であると判断される。

土坑18 (SP018)

平面円形を呈する土坑である。底面は平坦で、上外方に開き気味に立ち上がる。

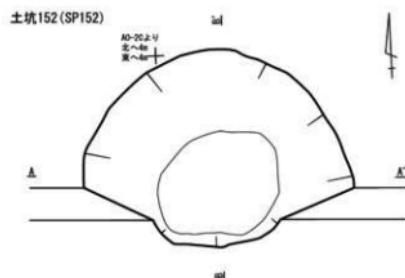
土坑22 (SP022)

隅丸に近い梢円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。

土坑257 (SP257)

平面梢円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開いて立ち上がる壁面を有する。

土坑152(SP152)



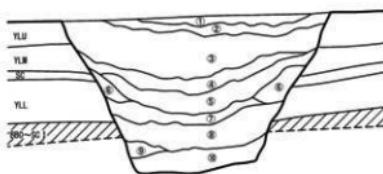
[a]

[a]

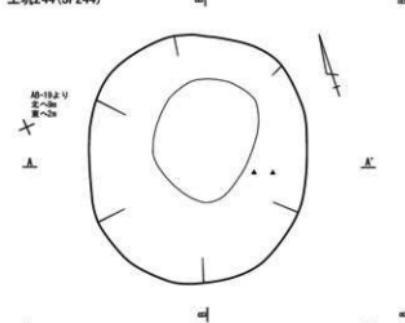
[a]

[a]

土坑152

① 黄褐色土 7.STR 4/2
5mm程度の赤色スコリアを多く含む。粘性・しまり無し。② 黄褐色土 7.5TR 4/2
径5~6mmの赤色スコリアを含む。粘性・しまり無し。③ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリア、径1mmほどの赤色スコリアを含み、径10mmほどの中等色土粒を極く部分的に含む。粘性・しまりや有り。④ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリアがや欠けるが、粘性は増す。⑤ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリア、径1mmほどの赤色スコリア、径5~6mmの中等色土粒を多く含む。しまりや有り。⑥ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリア、黒色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。⑦ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリア、黒色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。⑧ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリアを少量含む。⑨に比べてさらに粘性・しまり有り。⑨ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリアを少量含む。⑧に比べてさらに粘性・しまり有り。⑩ 黄褐色土 10TR 5/6
やや粗い。径5~6mmの赤色スコリアを少量含む。⑨に比べて粘性が増す。

土坑244(SP244)



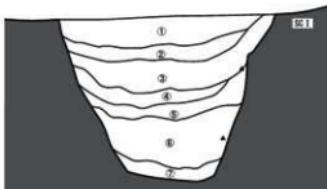
[a]

[a]

[a]

[a]

土坑244

① 明黄褐色土 10YR 6/6
5mm程度の赤褐色スコリア・1~2mmの黒色スコリアを多量含む。粘性や無し。しまり無し。② 黄褐色土 10TR 4/4
①層に比べてやや細かさを帯びる。③ 黄褐色土 10TR 4/6
微細な橙褐色スコリア・黄色スコリア黒色土スコリアを多量含む。粘性・しまり有り。④ 黄褐色土 10TR 4/4
③層に比べて混入物が大軽化する。粘性や無し。しまり無し。⑤ にかい 黄褐色土 10TR 4/2
5~6mmの赤褐色スコリア・微細な黄色スコリア黒色土スコリアを含む。粘性・しまり有り。⑥ にかい 黄褐色土 10TR 4/3
⑤層に比べて粘性・しまり無い。

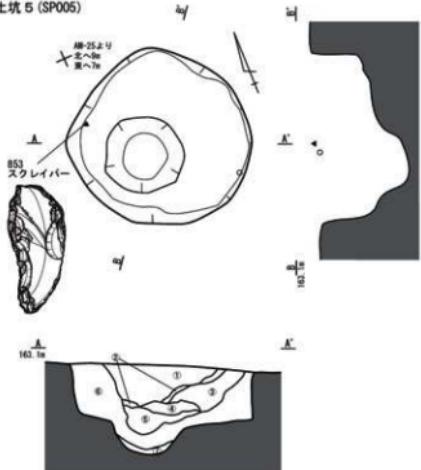
⑦ 反褐色土 10YR 4/1

微細な赤褐色スコリア・粘土質黃褐色スコリアを多量含む。しまり無し。



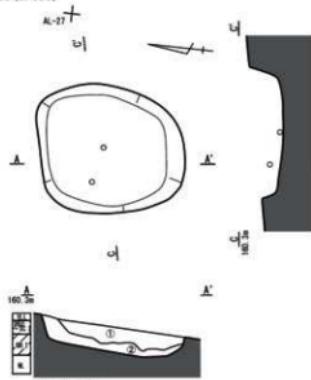
第108図 繩文 土坑3

土坑5(SP005)



- ① 黒褐色土 7.SYR 3/2
1~5mmの炭化物、赤褐色スコリアをわずかに含む。
粘性や有り、しまり有り。
- ② 黒褐色土 7.SYR 3/2
1~2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
粘性、しまり有り。
- ③ 黒褐色土 7.SYR 3/2
1~2mmの炭化物、1~3mmの赤褐色スコリアを
わずかに含む。粘性有り。しまりやや有り。

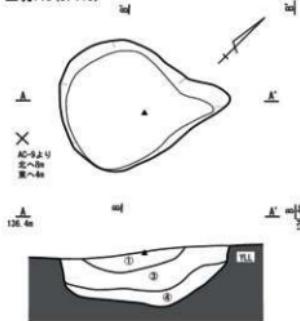
土坑30(SP030)



- ① 黒褐色土
FB付近 1~4mmの赤褐色スコリア、1~2mmの炭化物を
わずかに含む。粘性、しまり有り。
- ② 黒褐色土
27~31LU組合。1~4mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
粘性有り、しまり無し。

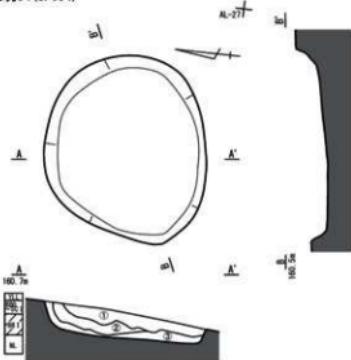
- ④ 黒褐色土 7.SYR 3/2
1~2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
粘性無し、しまりやや有り。
- ⑤ 黒褐色土 7.SYR 3/2
1~2mmの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ⑥ 黒褐色土 10TR 3/4
1~2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ⑦ 黒褐色土 7.SYR 4/6
1~2mmの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。

土坑115(SP115)

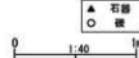


- ① 黒褐色土とFBの混土 7.SYR 3/4
黒褐色土にFBが混じる。粗く、しまり無し。
2~3mmの赤褐色スコリアを多く含む。
- ② 黑褐色土 7.SYR 4/4
粗く、しまり無し。2~3mmの褐色スコリアを少量含む。
- ③ 黑褐色土 7.SYR 4/4
粗く、しまり有り。2~3mmの褐色スコリアを少量含む。
- ④ 黑褐色土 7.SYR 4/4
やや粗く、しまり有り。2~3mmの褐色スコリアを少量含む。
- ⑤ 黑褐色土 7.SYR 4/4
非常に粗く、しまり無し。2~3mmの褐色スコリアをわずかに含む。

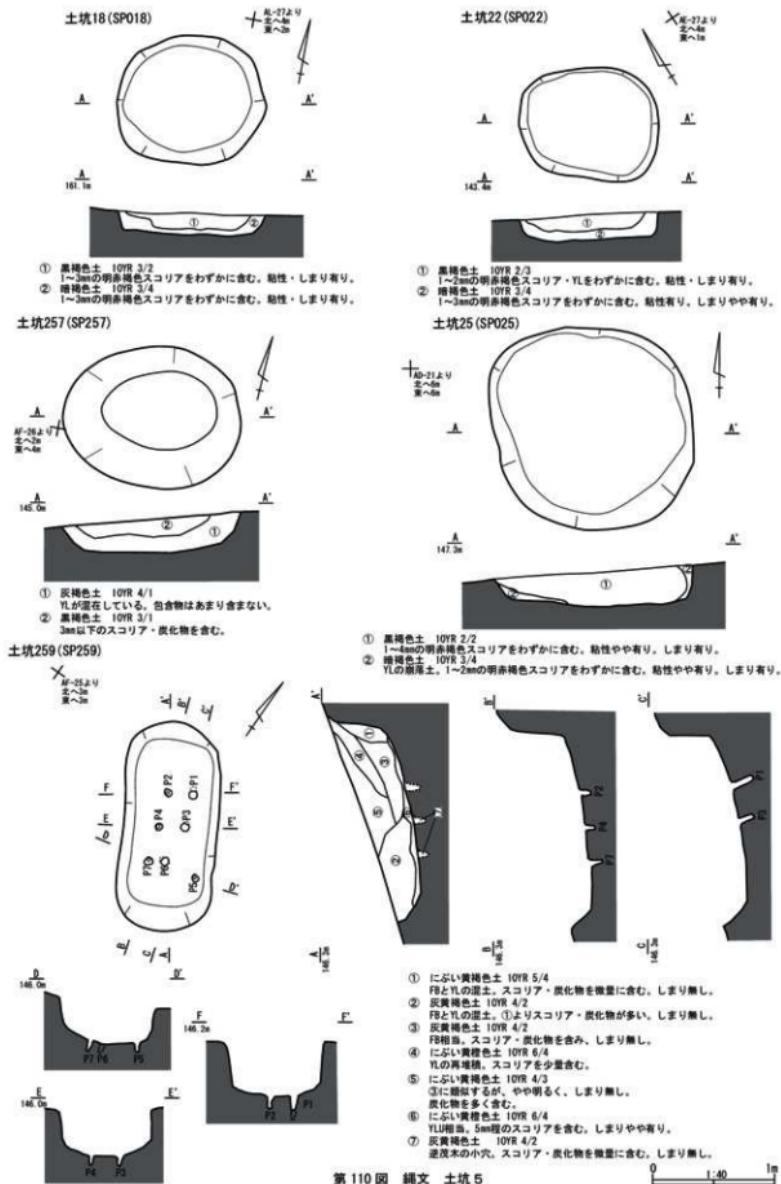
土坑34(SP034)



- ① 黒褐色土
FB付近 1mm以下のKIPを、1~2mmの赤褐色スコリアを
わずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 黑褐色土
1~7mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
粘性・しまり有り。
- ③ 黑褐色土
YLU~TL組合。1~2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
粘性・しまりや有り。



第109図 緯文 土坑4



第110図 繩文 土坑5

土坑25 (SP025)

平面不整円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に壁面が立ち上がる。

(3) B1 長短比が大きく、検出深度が0.35m以上となるもの（可能性が高いもの）**土坑259 (SP259)**

平面長楕円形を呈する土坑である。浅い谷部で長軸を等高線にほぼ直交させる形で掘削されている。皿状の底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面には逆茂木痕と考えられる小穴が7基検出された。

土坑65 (SP065)

平面長楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面に平面円形を呈する小穴が検出されており、逆茂木痕の可能性が高い。浅い谷部で長軸を等高線にほぼ直交させて掘削している。検出面は休場層中位であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むことから、本来の掘削面はより上位にあるものと考えられる。西約8mにはほぼ同規模の土坑76（後述）がほぼ同一標高で方向を揃えて掘削されている。

土坑76 (SP076)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。底面に平面円形を呈する小穴が18基検出されており、一部には逆茂木痕の可能性を持つものと考えられる。浅い谷部で長軸を等高線にほぼ直交させる形で掘削されている。検出面は休場層上位であるが、覆土に富士黒土層または漸移層相当土を含むことから、本来の掘削面はより上位である可能性が高い。前述の土坑65とほぼ同一標高で方向を揃えて掘削されている。

土坑88 (SP088)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面には5基の小穴が確認でき、逆茂木痕である可能性があるものを含むと考えられる。尾根先端斜面部で長軸を等高線にほぼ並行させて掘削している。検出面は第Iスコリア層～第III黒色帶であるが、覆土に富士黒土層または漸移層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位であったと判断されること、平面形状などから当該期の土坑と判断した。覆土から輝石安山岩の礫が1点出土している。

土坑71 (SP071)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。谷斜面部で谷筋に合わせるように長軸を等高線に直交させて掘削している。覆土から土器2点、輝石安山岩製の台石1点が出土している。

土坑154 (SP154)

平面長楕円形を呈すると推定される土坑である。皿状の底面から上外方に開き気味に立ち上がる壁面を有する。谷斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は休場層上位である。覆土から輝石安山岩製の台石1点、玄武岩の礫1点が出土している。

土坑252 (SP252)

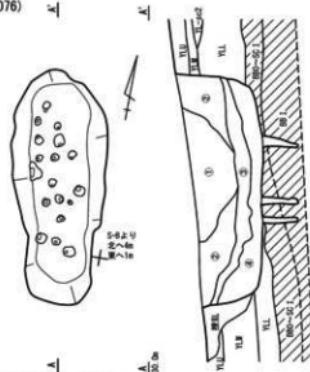
平面長楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立して立ち上がる壁面を有する。斜面地で長軸を等高線に斜行させて掘削している。検出面は富士黒土層である。覆土からI群D類1種土器が出土している。

土坑153 (SP153)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。谷頭部で長軸を等高線に斜行させ掘削している。検出面は富士黒土層である。

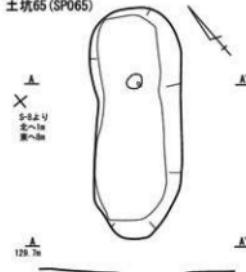
土坑251 (SP251)

土坑76(SP076)



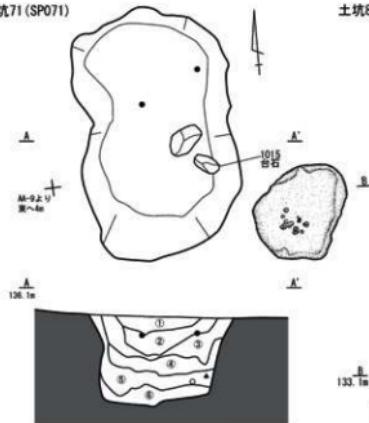
- ① 棕褐色土 IOYR 3/3
1~3mの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 棕褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。
- ③ 黒褐色土
1~3mの赤褐色スコリアを含む。粘性有り。
- ④ 黑褐色土
1~3mの赤褐色スコリアを含む。1~2mの灰白色スコリアをわずかに含む。粘性無し・しまり有り。
- ⑤ 黑褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。

土坑65(SP065)



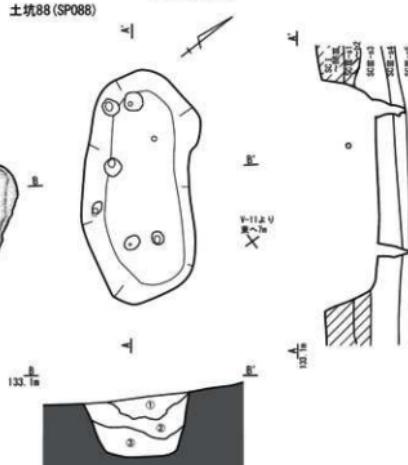
- ① 棕褐色土
FB相当。1~3mの赤褐色スコリアを炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② FB相当。1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。
- ③ 黑褐色土
FB相当。1~3mの赤褐色スコリアを含む。粘性有り・しまり有り。
- ④ 黑褐色土
FB相当。1~3mの赤褐色スコリアを含む。粘性有り。しまり無し。
- ⑤ 黑褐色土
FB相当。1~3mの赤褐色スコリア・2~3mの棕褐色スコリア・1m程の炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。

土坑71(SP071)



- ① 棕褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。
- ② 棕褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ③ 棕褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ④ 黑褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ⑤ 黑褐色土 IOYR 2/3
1~3mの赤褐色スコリア・1~2mの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ⑥ 棕褐色土 7.5YR 4/6
1~3mの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ⑦ 棕褐色土 7.5YR 4/6
1~3mの赤褐色スコリアを含む。粘性・しまり有り。
- ⑧ 棕褐色土 7.5YR 4/6
1~3mの赤褐色スコリアを含む。粘性・しまり有り。

土坑88(SP088)



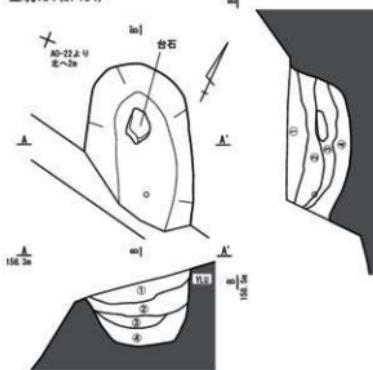
- ① 棕褐色土 7.5YR 4/3
1~2mの赤褐色スコリアを含む。4~5mの黄褐色土を部分的に含む。粘性・しまり有り。
- ② 黄褐色土 7.5YR 4/6
3~4mの赤褐色スコリアを含む。4~5mの黄褐色土をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ③ 明黄褐色土 10TR 6/6
1~4mの棕褐色スコリアを含む。粘性有り。

▲ 石器
● 土器
○ 骨

0 1/40 1m

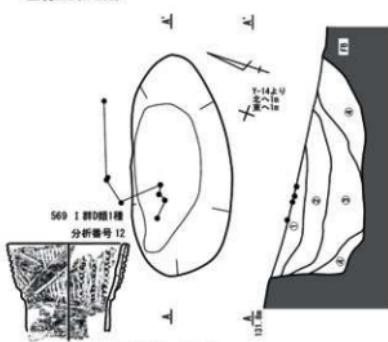
第111図 縄文 土坑6

土坑154(SP154)



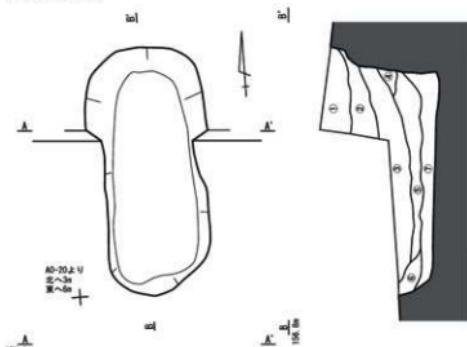
- ① 赤褐色土 10YR 3/2
2~3mmの赤色スコリア・微細な黄色粒子を含む。粘性・しまり無し。
- ② 赤褐色土 10YR 3/2
2~3mmの赤色スコリア・微細な黄色粒子を含む。粘性有り。しまり無し。
- ③ 赤褐色土 10YR 3/4
1~2mmの赤色スコリア・微細な黄色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。
- ④ 赤褐色土 10YR 3/2
3~4mmの赤色スコリア。黒色粒子を少量、微細な黄色粒子を多く含む。粘性やや無し。しまり有り。

土坑252(SP252)



- ① 黒褐色土 10YR 2/3
微細な褐色スコリア・黄色スコリアを含む。わずかに2~3mmの黄色スコリアを含む。粘性・しまり無し。
- ② 黒褐色土 10YR 2/3
1~2mmの褐色スコリア・黄色スコリアを含む。しまり有り。
- ③ 黒褐色土 10YR 2/3
1~2mmの褐色スコリア・微細な黄色スコリアを多量含む。粘性・しまり有り。
- ④ 黒褐色土 10YR 2/2
1~2mmの褐色スコリア・黄色スコリアを多量含む。粘性・しまり有り。

土坑153(SP153)



- ① 黒褐色土 7.5YR 3/1
2~3mm赤色スコリアを含み、微細な黄色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。
- ② 黒褐色土 10YR 3/3
1~2mmの赤色スコリアを少量含み、微細な黄色粒子を含む。粘性やや無し。しまり無し。
- ③ 黑褐色土 10YR 3/2
1~2mmの赤色スコリアを少量含み、微細な黄色粒子を含む。粘性・しまり有り。
- ④ 黑褐色土 10YR 3/2
1~2mmの赤色スコリアを少量含み、微細な黄色粒子を含む。粘性・しまり有り。
- ⑤ 黑褐色土 10YR 3/2
微細な黄色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。
- ⑥ 黑褐色土 10YR 3/2
微細な黄色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。
- ⑦ 黑褐色土 10YR 3/4
微細な黄色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。
- ⑧ 黑褐色土 10YR 4/3
微細な黄色粒子を多く含む。粘性・しまり有り。



0 1.40 1m

第112図 線文 土坑7

平面長楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から上外方に開いて立ち上がる壁面を有する。土坑の南側の一端にはテラス状の平坦面が中段に形成されている。谷底部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は富士黒土層である。覆土からホルンフェルス製の剥片1点が出土している。

土坑248 (SP248)

平面長楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。谷底部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は富士黒土層である。覆土から土器1点、ホルンフェルス製の剥片2点が出土している。

土坑85 (SP085)

平面長楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立した壁面を有する。底面には平面円形を呈する小穴が12基確認されており、逆茂木痕である可能性があるものを含むと考えられる。谷底部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は休場層上位である。

土坑58 (SP058)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な狭い底面から上外方に開いて立ち上がる壁面を有する。底面には平面円形の小穴が11基認められており、逆茂木痕である可能性があるものを含むと考えられる。谷斜面部で谷筋に沿って長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は漸移層である。

土坑54 (SP054)

平面楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。土坑底面には逆茂木痕の可能性をもつ平面円形～楕円形の小穴が2基認められる。尾根先端斜面部で長軸を等高線に斜行させて掘削している。検出面は第Iスコリア層であるが、覆土が富士黒土層相当土であることから本来の掘削面はより上位であったと考えられる。覆土は単一層で比較的短時間に埋没した可能性が高い。

土坑70 (SP070)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面には平面円形を呈する小穴が6基確認されており、逆茂木痕である可能性があるものを含むと考えられる。谷底部で長軸を等高線にほぼ直交させて掘削している。検出面は漸移層である。

土坑150 (SP150)

平面楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。底面で逆茂木痕の可能性を持つ小穴が4基検出された。尾根先端斜面部で長軸を等高線に直交させて掘削している。

土坑87 (SP087)

平面楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。底面中央付近には平面円形の小穴1基が認められ、逆茂木痕である可能性がある。谷斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は第I黒色帶であるが、覆土に漸移層及び休場層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位であると判断される。

土坑83 (SP083)

平面長楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立した壁面を有する。緩斜面で長軸を等高線に並行させ掘削している。

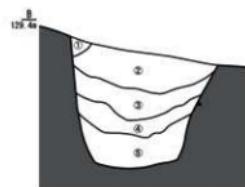
土坑61 (SP061)

平面長楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。谷部で長軸を等高線に斜行させて掘削している。検出面は漸移層である。

土坑67 (SP067)

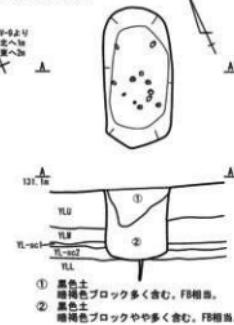
平面楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。検出面は休場

土坑251(SP251)



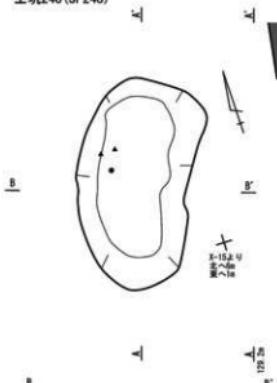
- ① 黒色土
- ② 棕褐色土 7.5YR 4/1
1~2mmの褐色スコリア・黄色スコリアを含む。
粘性・しまり無し。
- ③ 棕褐色土 7.5YR 4/1
①層に比べてややしまり有り。
- ④ 棕褐色土 7.5YR 4/1
③層に比べてややしまりアリ。
粘性・しまり有り。
- ⑤ にじむ棕褐色土 10YR 5/4
2~3mmの褐色スコリア・1~2mmの黄色スコリアを含む。
しまり有り。

土坑85(SP085)



- ① 黒色土
棕褐色ブロック多く含む。FB相当。
- ② 黒色土
棕褐色ブロックや多く含む。FB相当。

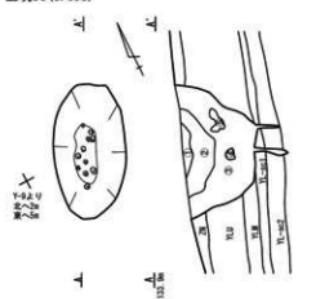
土坑248(SP248)



- ① 棕褐色土 2.5Y 5/2
1~3mmの褐色スコリア・黄色スコリアを含む。1mm程の
黒色スコリアをわずかに断続的に含む。粘性・しまり有り。
- ② 棕褐色土 2.5Y 5/2
①層に比べてややしまり。粘性を増す。
- ③ 棕褐色土 2.5Y 5/2
2~3mmの褐色スコリアを多く含む。微細な黄色スコリア・
黒色スコリアを少含む。粘性・しまり有り。
- ④ 黑色土

FB下位のスコリア層と黑色土層の混合土層。粘性・しまり有り。

土坑58(SP058)

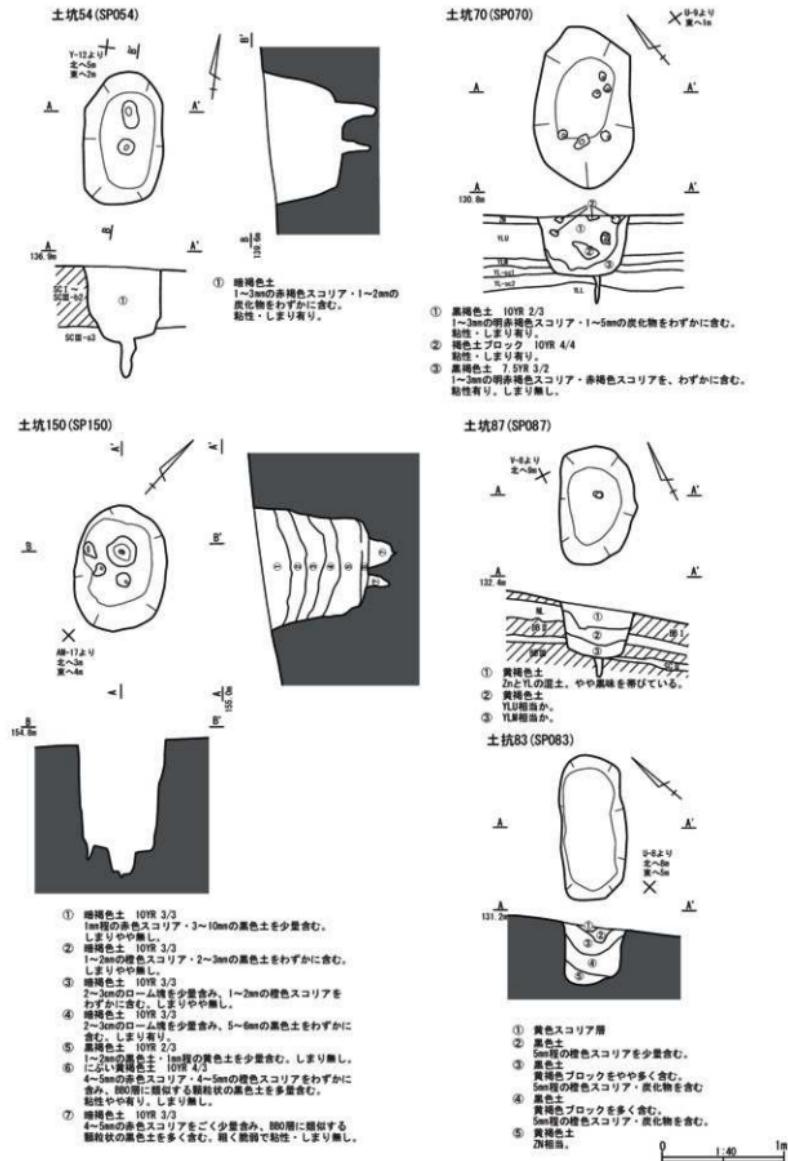


- ① 棕褐色土 10YR 3/3
1~3mmの褐色スコリア・黄色スコリア・1~2mmの炭化物を
わずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 棕褐色土 10YR 4/4
1~3mmの赤褐色スコリア・1~2mmの炭化物わずかに
含む。粘性有り。しまり無し。
- ③ 棕褐色土 10YR 3/3
1~3mmの褐色スコリア・1~2mmの炭化物を含む。粘性・しまり有り。
- ④ YL層塊土ブロック
- ⑤ 棕褐色土 10YR 4/6
粘性有り。しまり有り。



0 10m

第113図 縄文 土坑8



第114図 縱文 土坑9

層上位である。

土坑246 (SP246)

平面長楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。尾根先端斜面部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は第II黒色帯であるが、覆土に漸移層及び休場層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位であったと判断される。

土坑111 (SP111)

平面楕丸に近い楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立した壁面を有する。尾根先端部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は休場層下位であるが、覆土に富士黒土層と休場層の混土を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと判断される。

土坑16 (SP016)

平面楕円形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。尾根先端斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。覆土からホルンフェルス製の剥片1点、輝石安山岩の礫1点、炭化物が出土している。覆土にカワゴ平バミスを含む。

土坑44 (SP044)

平面楕円形を呈する土坑である。TP47西壁面にかかる形で検出された。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。尾根先端部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面はニセローム層であるが、覆土に漸移層相当土を含むことから、本来はより上位に掘削面を持つと考えられる。底部は第IIIスコリア帯スコリア1に達している。覆土から輝石安山岩の礫が3点出土している。

土坑110 (SP110)

平面楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開いて立ち上がる壁面を有する。谷斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。

土坑113 (SP113)

平面長楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。尾根先端部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は休場層直下黒色帯であるが、覆土に富士黒土層または漸移層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位にあったと推測される。

土坑69 (SP069)

平面楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。谷部斜面地で長軸を等高線に並行させて掘削している。

土坑62 (SP062)

平面不整形形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。谷部で長軸を等高線に斜行させて掘削している。検出面は漸移層である。

土坑60 (SP060)

平面不整形形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。谷部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は漸移層である。

(4) B2 長短比が大きく、検出深度が0.35m未満のもの

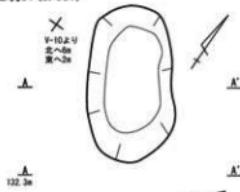
土坑68 (SP068)

平面楕円形を呈する土坑である。凹凸がある底面から上外方に開き気味に立ち上がる壁面を有する。谷部で長軸を等高線に斜行させて掘削している。検出面は休場層であるが、覆土に富士黒土層または漸移層相当土を含むことから、本来の掘削面はより上位であった可能性が高い。

土坑66 (SP066)

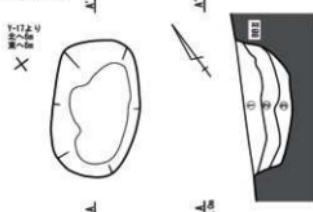
平面楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から外方に大きく開いて立ち上がる壁面を有する。斜面

土坑61(SP061)



- ① 暗褐色土
FB相。1~3mmの赤褐色スコリア・1~2mmの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 暗褐色土
FB相。1~3mmの赤褐色スコリア・1~2mmの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ③ 暗褐色土
YLの崩落とFBとの混土。1~3mmの赤褐色スコリアを含む。粘性・しまり有り。
- ④ 暗褐色土
FB相。1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。

土坑246(SP246)



- ① 明黄褐色土 2.5Y 5/3
1~2mmの赤褐色スコリア・黑色土スコリア・微細な黄色スコリアを多量含む。粘性・しまり有り。
- ② 明黄褐色土 2.5Y 5/3
①層に比べてよりしまり有り。
- ③ 暗褐色土 2.5Y 5/7
1~2mmの赤褐色スコリア・1mm程の黒色スコリアを多量含む。粘性・やや崩落・しまり有り。

土坑16(SP016)



- ① 暗褐色土 7.5Y 4/4
1mm以下のカワゴ平バミスを含む。粘性やや有り。しまり無し。
- ② 黒褐色土 10YR 2/2
1~4mmの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり無し。

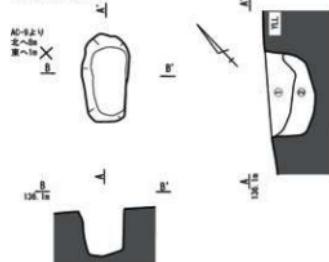
第115図 縄文 土坑10

土坑67(SP067)



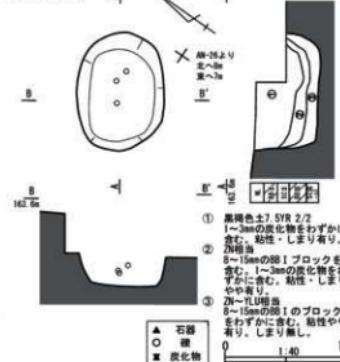
- ① 暗褐色土 10YR 3/3
1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 黑褐色土 10YR 2/3
1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ③ 暗褐色土 10YR 4/4
1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ④ 暗褐色土 10YR 2/3
2~3mmの赤褐色スコリア・1~2mmの炭化物を含む。粘性・しまり有り。

土坑111(SP111)



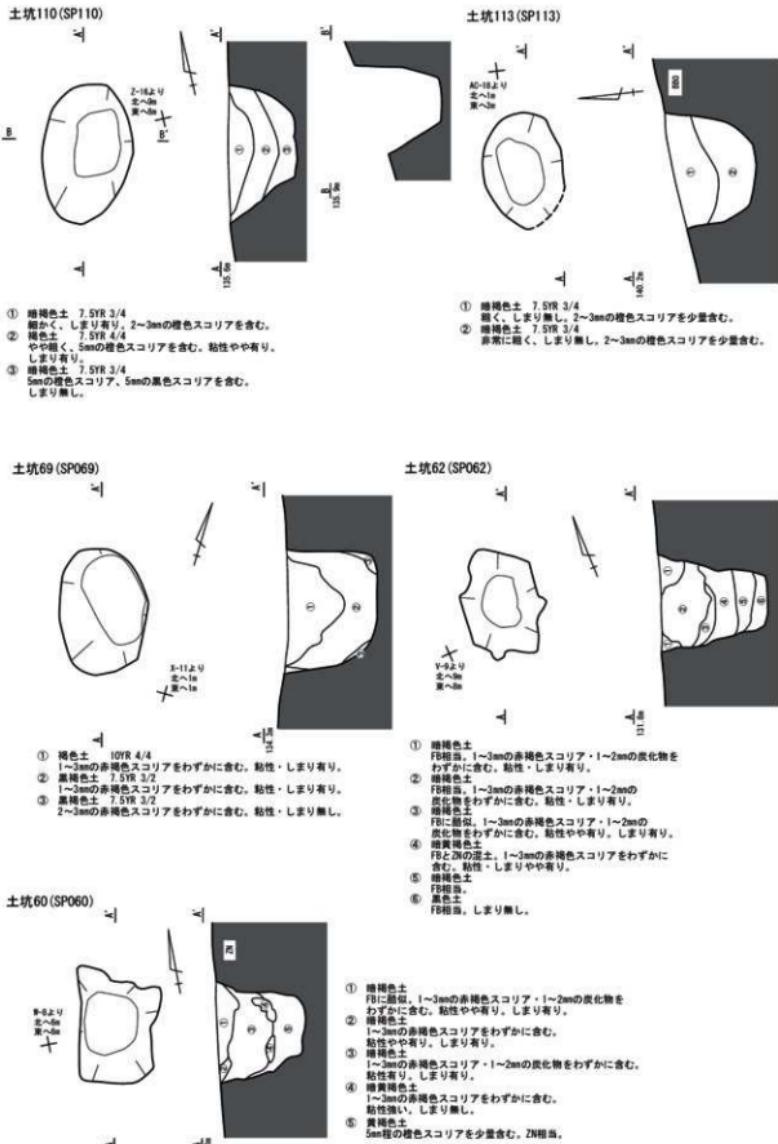
- ① 黄褐色ローム質土 10YR 5/6
FBとYLの混土。2~3mmの赤褐色スコリア・1~4mmの赤褐色スコリアを含む。粘性・しまりやや有り。
- ② ぶら黄褐色ローム質土 10YR 5/4
FBとYLの混土。①よりも細く、やや硬質。スコリアの含有は①よりかなり少ない。粘性・しまり有り。

土坑44(SP044)



- ① 黒褐色土 7.5Y 2/2
1~3mmの炭化物を含む。粘性・しまり有り。
- ② 2階相当
6~15mmの鉢口 I のブロックを下げる。1~3mmの炭化物を含む。粘性・しまり有り。
- ③ 石器 破片 炭化物

0 1.40 m



第116図 縄文 土坑11

部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は休場層である。覆土から輝石安山岩の礫1点が出土している。

土坑89 (SP089)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から開き気味に立ち上がる壁面を有する。尾根先端斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。覆土からホルンフェルス製の剥片1点が出土している。

土坑114 (SP114)

平面不整な長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有する。尾根先端部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は休場層下位であるが、覆土に富士黒土層と休場層の混土を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと判断される。

土坑92 (SP092)

平面隅丸長方形を呈する土坑である。比較的平坦な底面から上外方に立ち上がる壁面を有する。谷部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は第Ⅰスコリア層～第Ⅰ黒色帶であるが、覆土に漸移層及び休場層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位にあると判断される。

土坑43 (SP043)

平面楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立気味に立ち上がる壁面を有するが、西壁面は緩やかな立ち上がりを呈しており、土坑埋没の過程で壁面の崩壊が早く進んだ可能性がある。斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は休場層直下黒色帶であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位にあったと推測される。底面はニセローム層に達している。

土坑247 (SP247)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。尾根先端斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は第Ⅱ黒色帶であるが、覆土に漸移層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位であったと判断される。

土坑11 (SP011)

平面楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から上外方に立ち上がる壁面を有する。尾根先端部で長軸を等高線に並行させて掘削している。

土坑145 (SP145)

平面長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開き気味に立ち上がる壁面を有する。谷斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。検出面は富士黒土層である。玄武岩製の石皿1点が出土している。

土坑21 (SP021)

平面楕円形を呈する土坑である。皿状の底面から外方にゆるやかに立ち上がる壁面を有する。斜面部で長軸を等高線に並行させて掘削している。

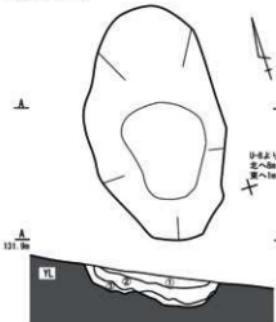
土坑78 (SP078)

平面不整な楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に開き気味に立ち上がる壁面を有する。覆土からI群A類2種b土器1点のほか土器3点、ホルンフェルス製の剥片3点及び輝石安山岩、多孔質安山岩、多孔質玄武岩、砂岩（細粒）の礫39点、炭化物が出土している。炭化物については樹種同定を実施し、コナラ属アカガシ亜属という結果を得た（附図参照）。

土坑79 (SP079)

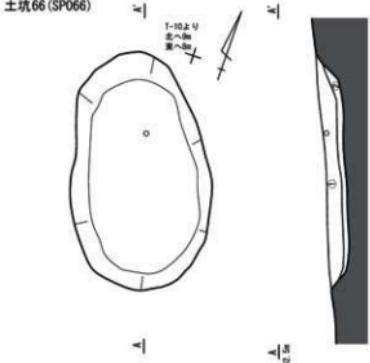
平面不整円形を呈する土坑である。平坦な底面から壁面は直立気味に立ち上がる。南東側の不整形な部分は上外方に立ち上がることから、壁面崩落等により同箇所の平断面形が崩れた可能性があり、本来は直立気味に立ち上がる壁面を有していたと推測される。覆土及び遺構上面からは土器2点、ホルンフ

土坑68(SP068)



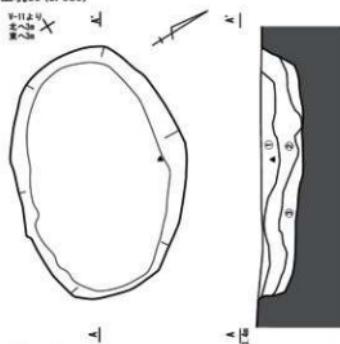
- ① 棕褐色土 10YR 4/4
1~3cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 黒褐色土 10YR 2/3
1~3cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ③ 黑褐色土 7.5YR 3/2
1~3cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。

土坑66(SP066)



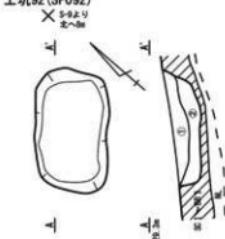
- ① 棕褐色土
黄褐色土。1~3cmの赤褐色スコリア・1~2cmの炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 黑褐色土
Zn相当。1~3cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・しまり有り。

土坑89(SP089)



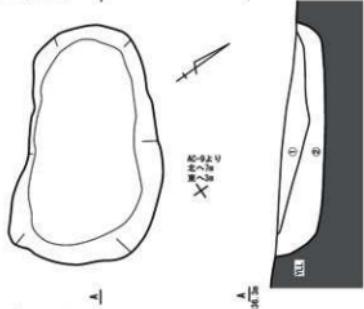
- ① FB 相当。
- ② Zn 相当。①の基色土に明黄色のブロックを含む。
- ③ TL 相当。①より明るい基土に明黄色のブロックを含む。

土坑92(SP092)



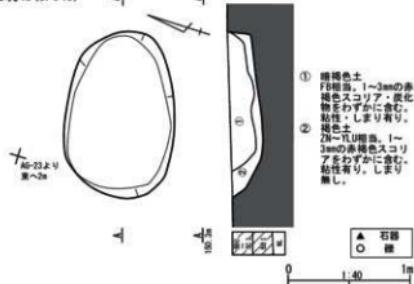
- ① 黄褐色土
Zn-YLJU相当。
- ② 黑褐色土
YLJU相当。

土坑114(SP114)

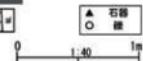


- ① FB-YLJU
FB-YLJU相当。5cmの棕褐色スコリア・黑色スコリアを多く含む。
- ② FB-YLJU
FBが基じる。非常に粗く、しまり無し。2~3cmの棕褐色スコリア・5cmの黑色スコリアを少度含む。

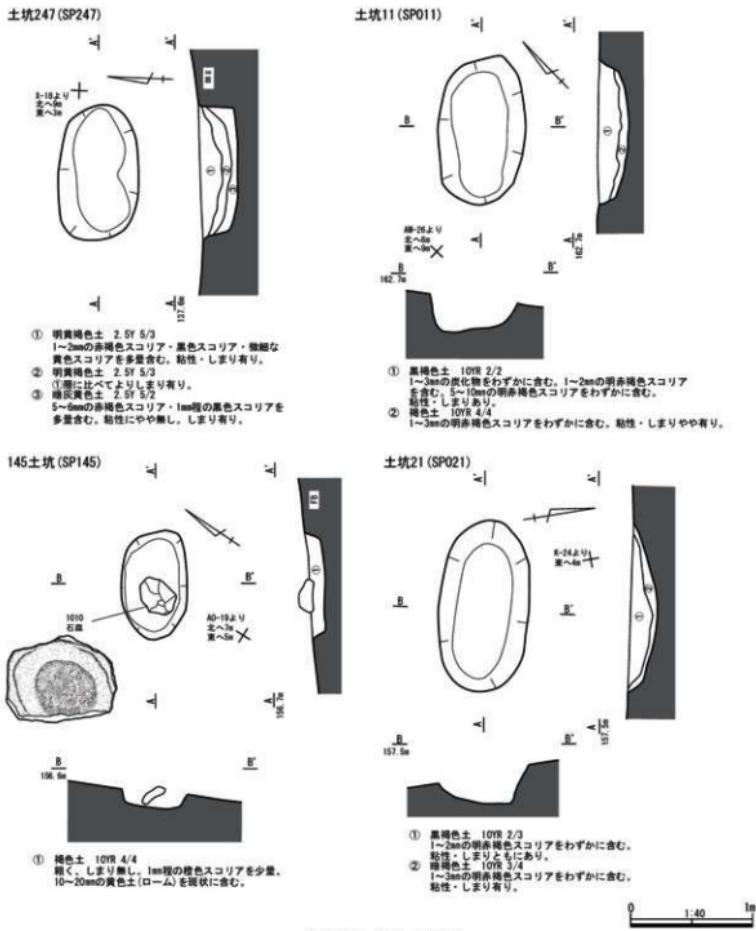
土坑43(SP043)



- ① 棕褐色土
1~3cmの赤褐色スコリア・炭化物をわずかに含む。粘性・しまり有り。
- ② 黑褐色土
Zn-CU相当。1~3cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性有り。しまり無し。



第117図 純文 土坑12



第118図 繩文 土坑13

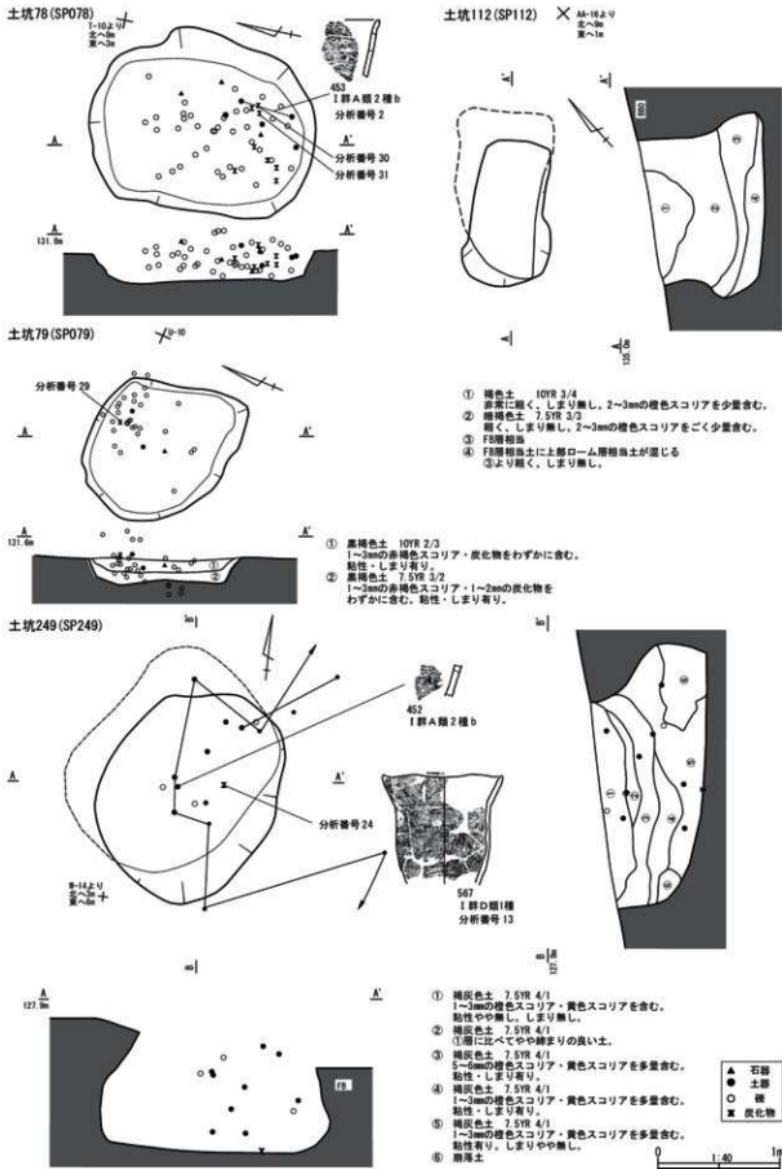
エルス製の剥片及び輝石安山岩、多孔質安山岩、多孔質玄武岩、火山礫凝灰岩の礫29点、炭化物が出土している。炭化物は樹種同定を実施し、クリという結果を得た（附編参照）。

土坑112 (SP112)

平面不整な隅丸長方形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がった後、内傾し再び直立する断面袋状の壁面を有する。谷部で長軸を等高線に直交させて掘削している。検出面は休場層直下黒色帶であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むことから本来の掘削面はより上位にあると判断される。

土坑249 (SP249)

平面不整椭円形を呈し、開口部よりも底面の方が広がる断面袋状を呈する土坑である。比較的平坦な



第119図 繰文 土坑14

底面から南東側はほぼ直立、その他の面は直立後内傾して立ち上がり、断面袋状を呈している。検出面は富士黒土層である。覆土からI群A類2種b土器、I群D類1種土器、玄武岩の礫3点、炭化物が出土している。炭化物については樹種同定を実施し、シキミという結果を得た（附録参照）。

第18表 織文 土坑一覧

造構名	造構番号	地区	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	最大深 (m)	平面形態	小穴数	長短比	出土遺物
土坑97	SP097	6区	V-12	0.69	0.60	0.75	橢円形	1	0.87	
土坑94	SP094	6区	V-7	0.85	0.65	0.36	橢円形	1	0.76	
土坑149	SP149	3区	AM-20	0.98	0.91	1.04	円形か 開丸方形	3	0.93	
土坑64	SP064	6区	W-9	0.87	0.74	0.92	開丸方形	4	0.85	
土坑148	SP148	3区	AM-20	0.75	0.40	0.57	円形+橢丸形		0.53	
土坑75	SP075	6区	U-7	1.07	0.86	0.71	不整橢円形		0.80	
土坑82	SP082	6区	Z-9	1.36	1.16	0.65	橢円形		0.85	
土坑26	SP026	1区	AN/AO-24	0.74	0.67	0.37	円形		0.91	礫2点、炭化物多数出土
土坑152	SP152	3区	AO-20	2.21	1.62	1.33	円形か 開丸方形		0.73	
土坑244	SP244	5区	AB-19	2.03	1.79	1.37	円形		0.88	測定2点
土坑5	SP005	1区	AM-25	1.54	1.46	0.76	不整橢円形		0.95	スクレイバ-1点、礫1点
土坑115	SP115	4区	AC-9	1.40	1.05	0.50	不整形		0.75	測定1点
土坑72	SP072	6区	U-7	1.21	0.91	0.33	不整橢円形		0.75	
土坑23	SP023	1区	AE-26	1.00	0.98	0.22	開丸方形		0.98	
土坑30	SP030	1区	AL-26	1.25	1.06	0.34	開丸橢円形		0.85	礫2点
土坑34	SP034	1区	AK-26	1.53	1.33	0.36	円形		0.87	
土坑18	SP018	1区	AI-27	1.24	1.06	0.24	円形		0.85	
土坑22	SP022	1区	AE-26/27	1.16	0.94	0.24	開丸橢円形		0.81	
土坑257	SP257	1区	AF-26	1.45	1.16	0.25	橢円形		0.80	
土坑25	SP025	1区	AD-21	1.70	1.68	0.30	不整橢円形		0.99	
土坑259	SP259	1区	AF-25	1.71	0.72	0.43	長橢円形	7	0.42	
土坑65	SP065	6区	R/S-8	1.89	0.75	0.38	長橢円形	2	0.40	
土坑76	SP076	6区	S-8	1.83	0.78	0.65	長橢円形	18	0.43	
土坑88	SP088	6区	U/V-11	1.94	0.94	0.49	長橢円形	5	0.48	礫1点
土坑71	SP071	6区	Z/AA-9	2.08	1.30	0.74	長橢円形		0.63	土器2点、台石1点、礫1点
土坑154	SP154	3区	AO-22	1.36	0.87	0.63	長橢円形か		0.64	台石1点、礫1点
土坑252	SP252	5区	Y-13/14	1.76	0.82	0.58	長橢円形		0.47	1群D類1種・4点
土坑153	SP153	3区	AO-20	2.03	0.98	0.97	長橢円形		0.48	
土坑251	SP251	5区	X-14	2.18	1.21	0.95	長橢円形		0.56	測定1点
土坑248	SP248	5区	X-14/15	1.67	0.88	0.83	長橢円形		0.53	
土坑85	SP085	6区	V-9	1.15	0.57	0.58	長橢円形	12	0.50	
土坑58	SP058	6区	Y-9	1.10	0.59	0.62	長橢円形	1	0.54	
土坑54	SP054	6区	Y-12	1.08	0.66	0.61	橢円形	3	0.61	
土坑70	SP070	6区	T/U-8/9	1.32	0.82	0.49	長橢円形	6	0.62	
土坑150	SP150	3区	AM-17	1.03	0.75	1.16	橢円形	4	0.73	
土坑87	SP087	6区	V-8	0.97	0.63	0.40	橢円形	1	0.65	
土坑83	SP083	6区	U-8	1.18	0.55	0.50	長橢円形		0.47	
土坑61	SP061	6区	V-10	1.27	0.72	0.63	長橢円形		0.57	
土坑67	SP067	6区	V-8	1.14	0.88	0.89	橢円形		0.77	
土坑246	SP246	5区	Y-17	1.14	0.72	0.38	長橢円形		0.63	
土坑111	SP111	4区	AC-9	0.72	0.40	0.41	開丸橢円形		0.56	
土坑16	SP016	1区	AL-27	1.36	0.86	0.46	橢円形		0.63	測定1点、礫1点、炭化物
土坑44	SP044	1区	AN-26	0.96	0.70	0.53	橢円形		0.73	礫3点
土坑110	SP110	5区	Z-16	1.16	0.73	0.71	橢円形		0.63	
土坑113	SP068	5区	AC-18	0.96	0.65	0.25	長橢円形		0.68	
土坑69	SP069	6区	X-10	1.04	0.73	0.75	橢円形		0.70	
土坑62	SP062	6区	V-9	0.92	0.66	0.88	不整形		0.72	
土坑60	SP060	6区	W-8	0.97	0.69	0.74	不整方形		0.71	
土坑68	SP068	6区	U-8	1.92	1.13	0.39	橢円形		0.59	
土坑66	SP066	6区	T-10	1.96	1.15	0.19	橢円形		0.59	礫1点
土坑89	SP089	6区	V-11	2.02	1.37	0.34	長橢円形		0.68	測定1点
土坑11	SP011	1区	AM-26/27	1.22	0.72	0.30	橢円形		0.59	
土坑145	SP145	3区	AO-19	0.91	0.56	0.17	長橢円形		0.62	石皿1点
土坑21	SP021	1区	AJ-24	1.40	0.74	0.28	橢円形		0.53	
土坑78	SP078	6区	T-10	1.46	1.36	0.32	不整橢円形		0.93	土器(1群A類2種b・1点、他3点)、 測定3点、礫39点、炭化物多數
土坑79	SP079	6区	T/U-9	1.46	1.14	0.22	不整円形		0.78	土器(押型・無文)各1点、測定1点、 礫39点、炭化物
土坑112	SP122	5区	AA-15/16	1.54	0.75	1.04	不整開丸長方形		0.49	
土坑249	SP249	5区	W-14	1.71	1.37	0.92	不整橢円形		0.80	1群A類2種b・1点、1群D類1 種・8点、礫3点、炭化物

4 焼土 (第120・121図 第19表)

14号焼土 (FP14)

平面瓢箪形を呈する焼土坑である。検出面は漸移層である。土坑内北西側に円形の掘り込みが認められ、その最下層に焼土を多く含み、締まりも強いことから同層上面が焼成面と考えられる。焼成面から南西側に細長く浅く掘り込まれた部分は炉穴使用の際の足場と考えられる。

33号焼土 (FP33)

平面不定形の長楕円形を呈する焼土坑である。検出面は黒色土層である。上層に焼土ブロックを多量に含む。

9号焼土 (FP09)

平面不定形を呈する焼土坑である。検出面は富士黒土層で、西側は搅乱（現代の耕作）により失われている。下層にカワゴ平バミスを含んでいる。

18号焼土 (FP18)

平面楕円形を呈する焼土坑である。検出面は富士黒土層である。

8号焼土 (FP08)

平面楕円形を呈する焼土坑である。検出面は富士黒土層で、覆土は複雑に入り組んでいるが、焼土を多く含み、締まりも強い②層上面及び土坑底面が焼成面と考えられる。①層と③層にカワゴ平バミスを含む。覆土から出土した炭化物について樹種同定を実施し、クスノキという結果を得た（附編参照）。

12号焼土 (FP12)

平面楕円形を呈する焼土坑である。焼土を多く含み、締まりも強いことから⑤層～⑦層上面が焼成面と考えられる。現地調査担当者は円形の炉穴と判断している。

7号焼土 (FP07)

平面楕円形を呈する焼土坑である。検出面は富士黒土層で、焼土を多く含み、締まりも強いことから①層上面が焼成面と考えられる。

17号焼土 (FP17)

平面楕円形を呈する焼土坑である。②層と⑤層が焼土層であるが、両者の焼土の密度には差違が認められる。⑤層は焼土が密であることから、上面が④層の炭層が形成される焼成面となっていた可能性が高い。また、②層は焼土が疎で一部土坑外に広がることから、焼成後に焼成物焼き出し等により伴出された焼土と推測される。

25号焼土 (FP25)

平面不整な楕円形を呈する焼土坑である。②層が焼土層である。

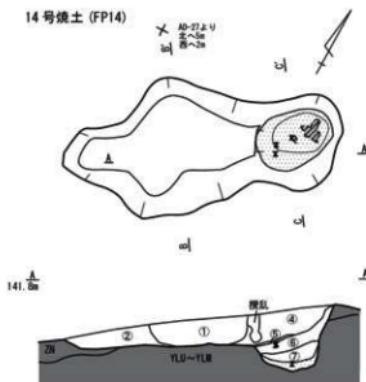
13号焼土 (FP13)

平面不整形を呈する焼土坑である。①層に焼土を多く含んでいる。覆土から出土した炭化物について樹種同定を実施し、コナラ属アカガシ亜属という結果を得た（附編参照）。

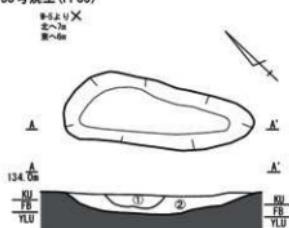
第19表 繪文 焼土一覧

造構名	造構番号	地区	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	最大深 (m)	平面形態
14号焼土	FP14	1区	AD-26	2.31	1.13	0.48	瓢箪形
33号焼土	FP33	6区	W-5	1.9	0.65	0.20	楕円形
9号焼土	FP09	1区	AJ-28	1.49	(0.82)	0.22	不整形
18号焼土	FP18	6区	X-14	1.23	1.01	0.24	楕円形
8号焼土	FP08	1区	AJ-28	1.12	0.78	0.28	楕円形
12号焼土	FP12	1区	AD-27	1.04	0.64	0.22	楕円形
7号焼土	FP07	1区	AN-31	1.00	0.70	0.16	楕円形
17号焼土	FP17	6区	Z-10	1.08	0.78	0.18	楕円形
25号焼土	FP25	3区	AO-18	0.70	0.44	0.25	不整形
13号焼土	FP13	1区	AE-23	0.64	0.60	0.20	不整形

14号焼土 (FP14)

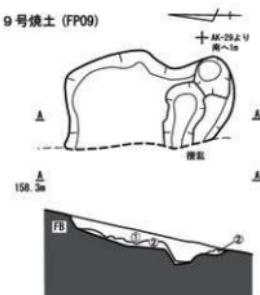


33号焼土 (FP33)

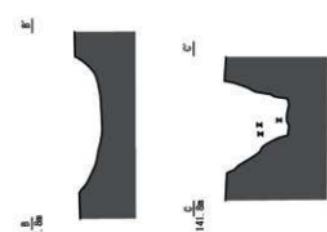


- ① 明赤褐色土 SYR 5/6
焼土ブロックが集中し、赤褐色やや硬化している。
繊維はやや強く、粘性はない。
② 黄褐色土 10YR 5/6
炭化物をまばらに含む。粘性・しまりや弱い。

9号焼土 (FP09)



- ① 褐褐色土
1~3mmの焼土を多く含む。5~8mmの焼土を
わずかに含む。粘性弱い。しまり強い。
② 褐褐色土
1~3mmの焼土をわずかに含む。1mm以下の
カワゴギバミスを含む。粘性無し。しまり強い。

① 褐褐色土層 7.SYR 3/2
1~3mmの赤褐色スリアリを少々含む。FB~2H相当。1~5mmの
炭化物・1~7mmの焼土をわずかに含む。粘性・しまり強い。② 褐褐色土層 7.SYR 3/2
1~3mmの赤褐色スリアリを少々含むFB~2H相当。1~5mmの
炭化物・1~7mmの焼土をわずかに含む。粘性・しまり強い。③ 褐褐色土層 7.SYR 3/2
1~3mmの赤褐色スリアリを少々含む。FB~2H相当。1~5mmの
炭化物・1~7mmの焼土をわずかに含む。粘性・しまり強い。④ 燃成面
堅く焼きたした焼土が多く含む。1~7mmの炭化物をわずかに含む。
周囲は熱して、赤化し、硬化している。⑤ 褐色ローム土層 7.SYR 3/2
1~3mmの赤褐色スリアリをわずかに含む。2H相当。1~5mmの
炭化物・焼土をわずかに含む。粘性やや強め。しまり強い。⑥ 燃成ローム土層 7.SYR 4/6
YLU~8H相当の褐色ローム質土。SC I層からの
焼成土質で、しまり無し。⑦ 燃成面
堅く焼きたした焼土が多く含む。1~7mmの炭化物を含む。
周囲は熱して、赤化し、硬化している。

18号焼土 (FP18)



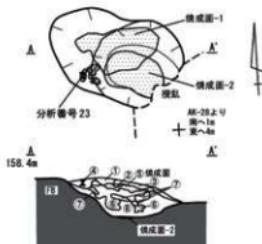
- ① 褐褐色土
FB相当。1~3mmの焼土を含む。1~2mmの
炭化物をわずかに含む。粘性・しまり強い。
② 褐褐色土
FB相当。1~3mmの焼土を少々含む。1~2mmの
炭化物をわずかに含む。粘性強め。しまりやや強い。
③ 褐褐色土
FB相当。1~3mmの焼土をわずかに含む。
1~2mmの炭化物を含む。粘性弱い。しまり強い。



0 1:40 1m

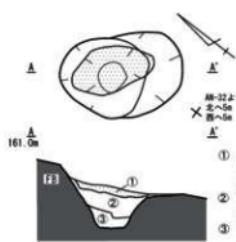
第120図 繩文 焼土 1

8号焼土 (FP08)



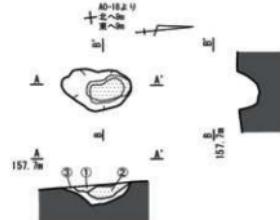
- ① 棕褐色土。7.SYR 3/4
0.5m以下のカワゴ平バシスを含む。1~4mmの炭化物をわずかに含む。
1~4mmの土を少量含む。粘性無し。しまり強い。
- ② 棕褐色土。7.SYR 3/4
0.5m以下のカワゴ平バシスを含む。粘性・しまり強い。
- ③ 棕褐色土。7.SYR 3/4
0.5m以下のカワゴ平バシスを含む。粘性無し。しまり強い。
- ④ 棕褐色土。7.SYR 3/4
「～」の他の土をわずかに含む。1~4mmの土を含む。0.5mm以下のカワゴ平バシスをやや含む。粘性・しまり強い。
- ⑤ 棕褐色土。7.SYR 3/4
「～」の他の土を含む。粘性無し。しまり強い。
- ⑥ 棕褐色土。7.SYR 3/4
「～」の他の土を含む。粘性無し。しまり強い。
- ⑦ 棕褐色土。7.SYR 3/4
「～」の他の土を含む。粘性無し。しまり強い。
- ⑧ 黑褐色土。10SYR 2/3
1~3mmの炭化物をわずかに含む。1~6mmの焼土を多く含む。粘性無し。しまり強い。
- ⑨ 黑褐色土。10SYR 2/3
1~3mmの炭化物をわずかに含む。1~6mmの焼土を多く含む。粘性無し。しまり強い。

7号焼土 (FP07)



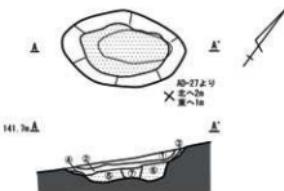
- ① 棕褐色土。SYR 4/6
1mmの炭化物をわずかに含む。1~3mmの
焼土を含む。粘性無し。しまり強い。
- ② 棕褐色土。7.SYR 4/4
「～」の土をわずかに含む。粘性やや強い。しまり強い。
- ③ 棕褐色土。7.SYR 4/4
「～」の土を含む。粘性無し。しまり強い。

25号焼土 (FP25)



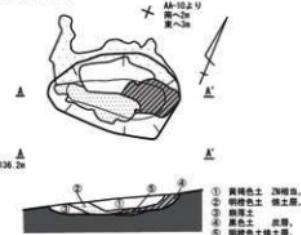
- ① 棕褐色土。7.SYR 4/3
「～」の土を含む。2~3mmの土を多量に
含む。「～」の土を少含む。
- ② 黑褐色土。10SYR 3/3
「～」の土を含む。
- ③ 棕褐色土。7.SYR 3/3
「～」の土を含む。1mmの土を少含む。

12号焼土 (FP12)



- ① 棕褐色土。7.SYR 3/3
1~2mmの炭化物を1%以下含む。1~2mmの焼土を含む。粘性・しまり強い。
- ② 1~3mmの炭化物をわずかに含む。1~2mmの
焼成層。粘性無し。しまり強い。
- ③ 棕褐色土。7.SYR 4/6
「～」の土を含む。粘性無し。しまり強い。
- ④ 棕褐色土。7.SYR 4/6
1~2mmの土を含む。粘性やや強い。しまり強い。
- ⑤ 棕褐色土。7.SYR 4/6
「～」の土を含む。粘性無し。しまり強めで強い。
- ⑥ 棕褐色土。7.SYR 4/6
「～」の土を含む。中間に焼土をほとんど含まない
部分があつた分層した。上の土層とは異なる層であるように
見られた。伊丹の洗浄部に何かを投資していた層ではないかとも
思はれたが、それが何なのかわからなかった。径1~4mm程度の
炭化物を含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
- ⑦ 棕褐色土。7.SYR 4/6
「～」の土を含む。粘性無し。しまり強めで強い。

17号焼土 (FP17)



13号焼土 (FP13)



- ① 棕褐色土。SYR 4/6
1~2mm程度の土を含む。粘性無し。
しまり強めで強い。
- ② 棕褐色土。7.SYR 4/4
「～」の土を含む。粘性やや強い。しまり強い。



0 1:40 1m

第121図 繩文 焼土 2

5 集石（第122～127図 第20表）

2号集石（SY02）

平面不整形の円形を呈する土坑を伴う集石である。土坑内及び土坑周囲に比較的大型の礫と拳大の礫52点が認められる。土坑内の礫は比較的大型のものを含み密集するのに対し、土坑外の礫は拳大のものが散在した出土状況を示している。検出層位は富士黒土層である。礫の半数近くに被熱の痕跡が認められた。土器2点、石核1点、礫器1点、石皿2点が出土した。

出土遺物（第168・184・192図）

874は角柱状の礫を素材とした石核である。長側面の自然面を打面として幅広の剥片剥離を行った後、90度の打面転移を行い、隣接する長側面の自然面を打面として幅広の剥片剥離を行っている。なお、これら剥片剥離に先行して小口面でも剥片剥離を行っている可能性がある。ホルンフェルス製である。

943は扁平な礫を素材として、周縁部に剥離加工を施し刃部とした礫器と判断した。表面裏面には自然面を残す。輝石安山岩製である。

1004・1005は大型扁平で、平面梢円形を呈する礫を素材とした石皿である。表面に磨面が認められ、わずかな凹みが認められる。いずれも輝石安山岩製である。

11号集石（SY11）

平面隅丸長方形に近い形態を呈する土坑中に礫17点が認められる集石である。礫は土坑覆土中～上層を主体にやや散漫に分布している。検出層位は休場層直下黒色帶であるが、覆土に富士黒土層相当土を含むことから、本来の掘削面はより上位にあるものと推測される。土坑壁面は直立気味に上外方に立ち上がる。礫は、若干数被熱の痕跡が認められるものを含んでいるが、土坑覆土に焼土粒は未確認で、炭化物もわずかに認められる程度にとどまる。

1号集石（SY01）

礫16点が集中する。礫はやや散漫な状態で広がり土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は富士黒土層と判断したが、遺構検出箇所での当該土層の堆積が薄く発色も不明瞭であった。礫の半数近くに被熱の痕跡が認められた。

3号集石（SY03）

礫11点が集中する。礫はやや散漫な状態で広がり土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は富士黒土層から漸移層である。数点の礫に被熱の痕跡が認められた。

4号集石（SY04）

礫9点が集中する。礫は密集して検出されたが土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は漸移層である。後述する5号集石と近接して検出された。両集石の間隔は0.3m程度で、等高線には沿った位置関係で検出されている。全ての礫に被熱の痕跡が認められた。台石1点が出土した。

出土遺物（第193図）

1017は扁平な板状の礫を素材とした台石である。機能面中央に敲打痕が認められる。輝石安山岩製。被熱の痕跡が認められた。

5号集石（SY05）

礫10点が集中する。礫は密集して検出されたが土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は漸移層である。前述の4号集石と近接して検出された。全ての礫に被熱の痕跡が認められた。輝石安山岩製の台石1点が出土した。

6号集石（SY06）

礫11点が集中する。礫はやや密集して検出されているが土坑等の掘り込みは未確認である。検出面は漸移層下部である。礫の半数近くに被熱の痕跡が認められた。土器が1点出土した。

7号集石 (SY07)

礫5点が集中する。礫は4点が密集し、残り1点が0.4m程度離れて検出されている。土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は漸移層である。全ての礫に被熱の痕跡が認められた。

8号集石 (SY08)

礫170点が認められる集石である。礫は散漫な分布を示しており、土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は富士黒土層下部～漸移層、休場層である。礫の半数近くに被熱の痕跡が認められた。楔形石器1点が出土した。

9号集石 (SY09)

礫9点が認められる集石である。礫は散在した分布を示し、土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は漸移層である。全ての礫に被熱の痕跡が認められた。

10号集石 (SY10)

礫11点が集中して認められる。礫は密集して検出されているが土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は漸移層である。礫には被熱の痕跡が認められなかった。

16号集石 (SY16)

礫38点が集中して認められる。礫は密集して確認されるが、土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は富士黒土層である。礫には被熱の痕跡が認められなかった。

17号集石 (SY17)

礫45点が集中して認められる。礫は密集して確認されるが、土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は漸移層である。I群A類2種b土器の底部1点のほか、土器1点、ホルンフェルス製の剥片1点、炭化物1点が共伴している。炭化物は樹種同定を実施し、ツツジ属という結果を得た（附編参照）。

18号集石 (SY18)

平面梢円形を呈する土坑を伴う集石で、土坑覆土及び周囲に礫42点が集中している。覆土は暗褐色土1層で炭化物を含む。炭化物について樹種同定を実施し、コナラ属アカガシ亜属クスノキ科という結果を得た（附編参照）。

19号集石 (SY19)

平面梢円形を呈する土坑を伴う集石で土坑覆土に礫8点が集中している。検出層位は漸移層である。

20号集石 (SY20)

礫6点が散在して認められる。土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は富士黒土層から漸移層である。

22号集石 (SY22)

礫77点が集中する。礫は散漫な分布を示し、土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は栗色土層である。

23号集石 (SY23)

礫67点が散在して認められる。土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は栗色土層である。

24号集石 (SY24)

礫27点が散在して認められる。土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は栗色土層である。

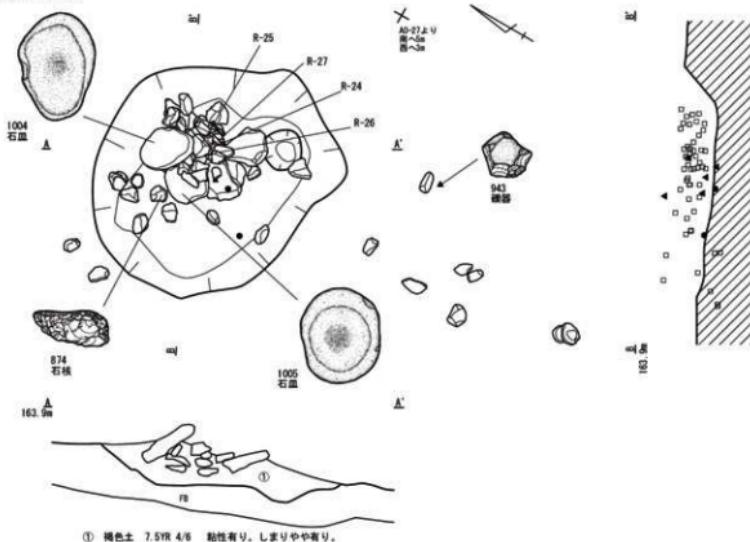
25号集石 (SY25)

礫16点が散在する。土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は栗色土層である。

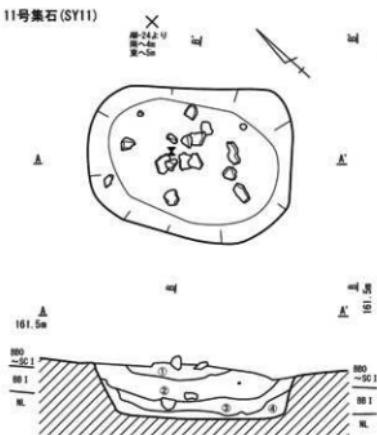
27号集石 (SY27)

礫5点が集中する。土坑等の掘り込みは未確認である。検出層位は栗色土層である。

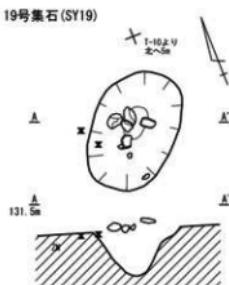
2号集石(SY02)



11号集石(SY11)



19号集石(SY19)

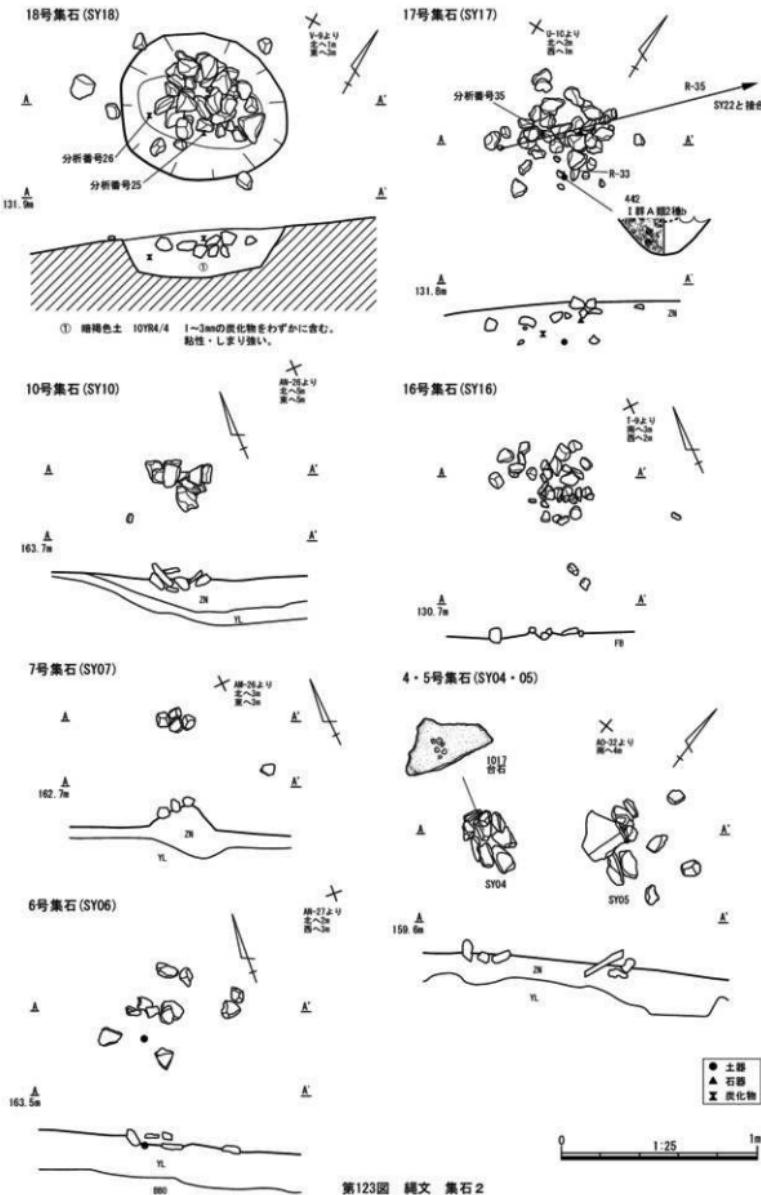


- ① 褐色土 形相当。パウダー状の黄褐色スコリアを含む。
1~3mmの褐色スコリアをわずかに含む。
1~3mmの炭化物をわずかに含む。
黏性有り。しまりやや有り。
- ② 塗褐色土 形相当。1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
黏性。しまり有り。
- ③ 黄褐色土 形相当。パウダー状の黄褐色スコリアを含む。
黏性。しまり有り。
- ④ ローム質土 YLU~YLH相当。体積膨脹からのお落土か。
1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。

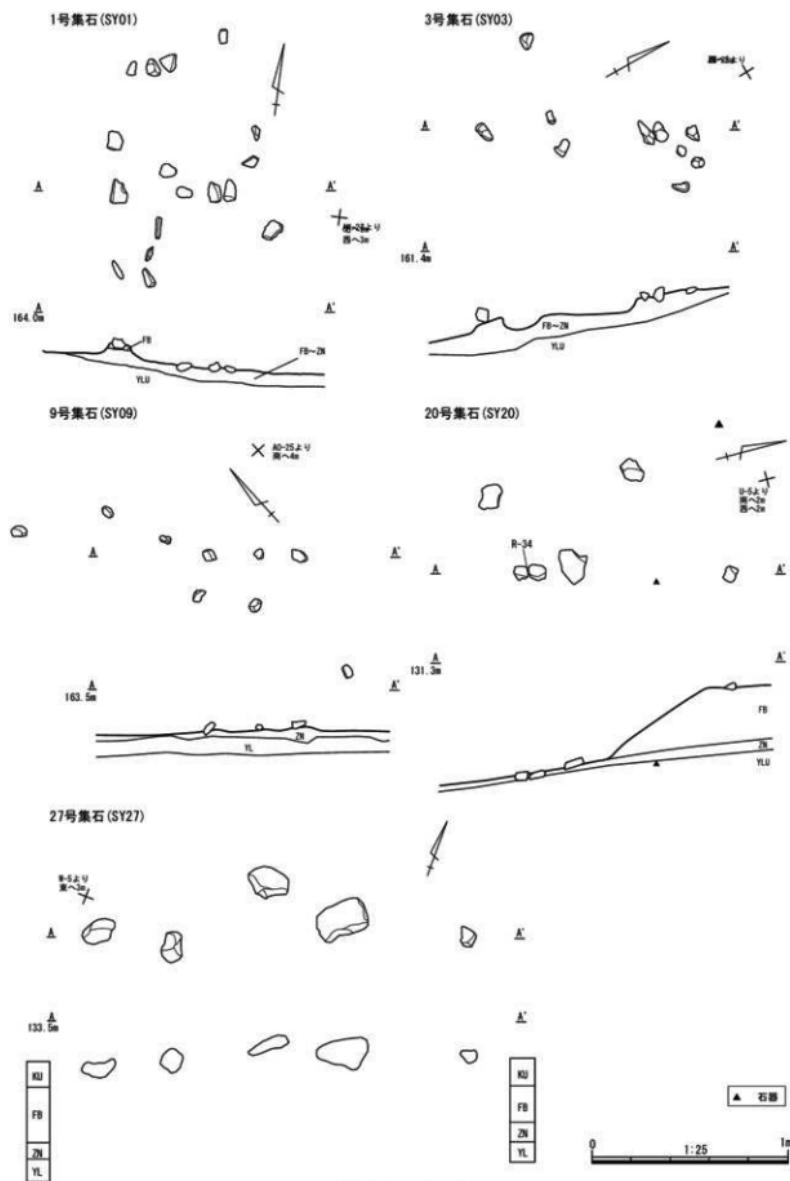
●	土器
▲	石器
□	器
✖	焼化物

0 1:25 1m

第122図 縄文 集石 1

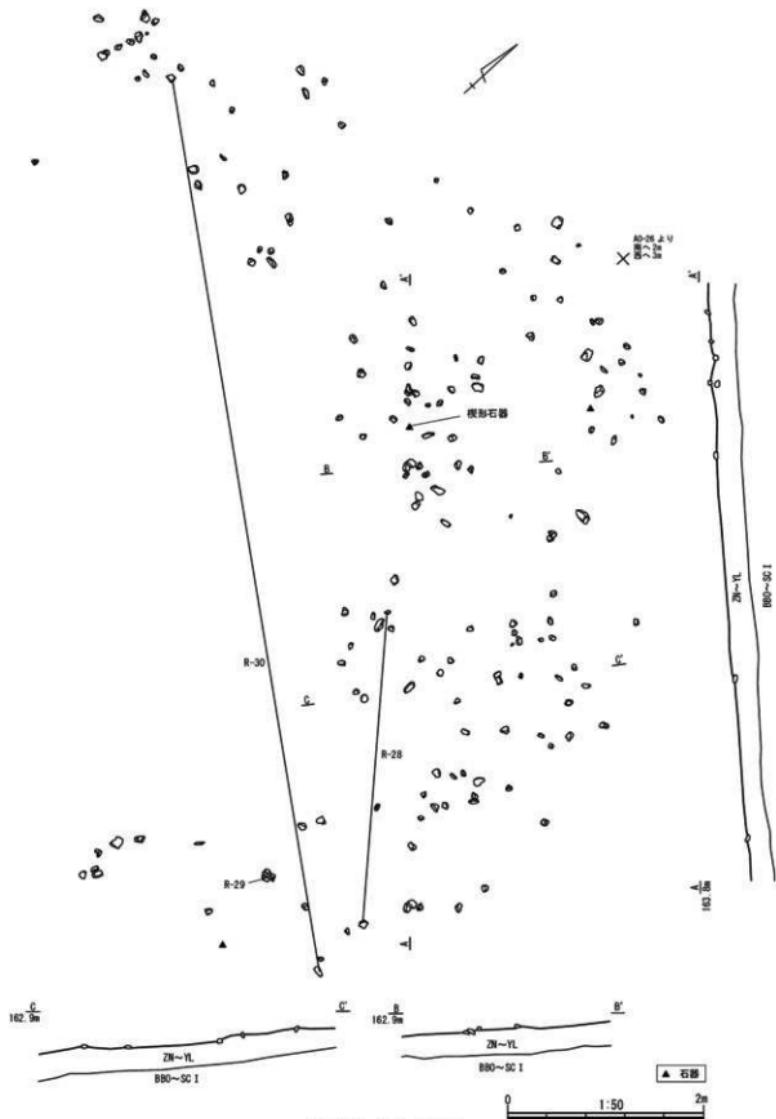


第123図 縄文 集石 2

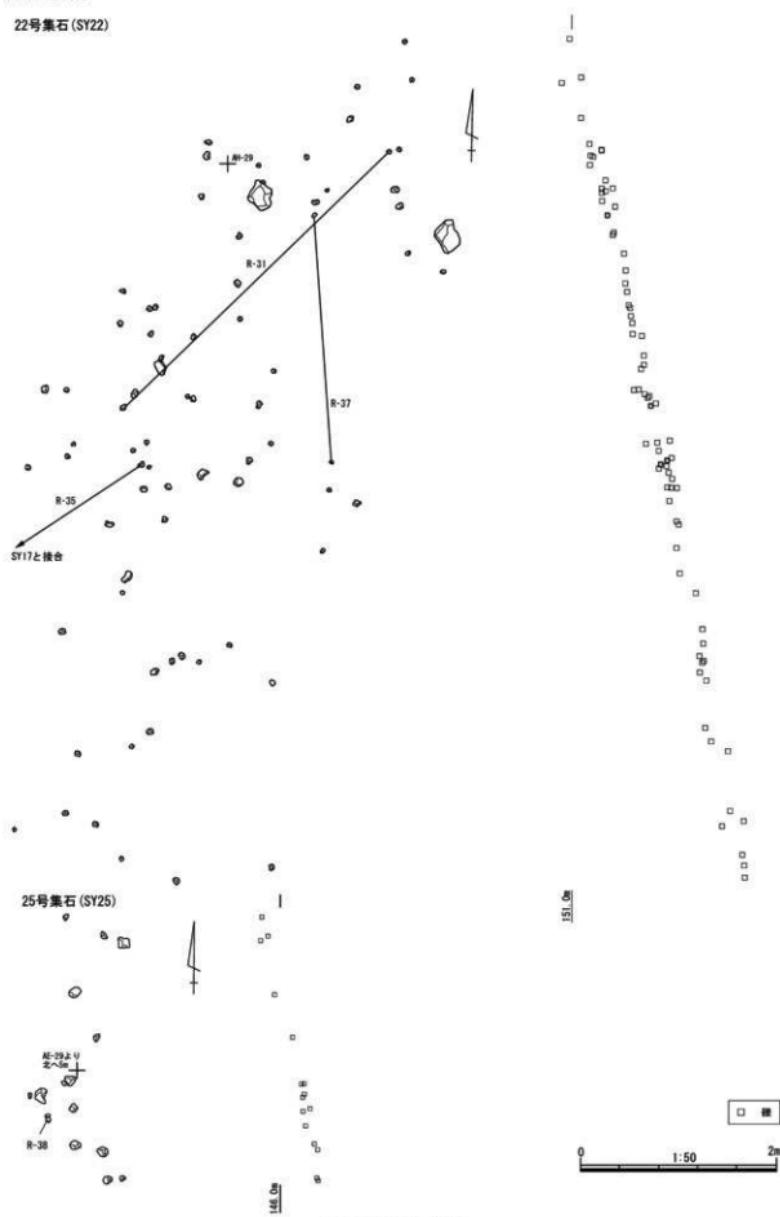


第124図 繩文 集石3

8号集石(SY08)

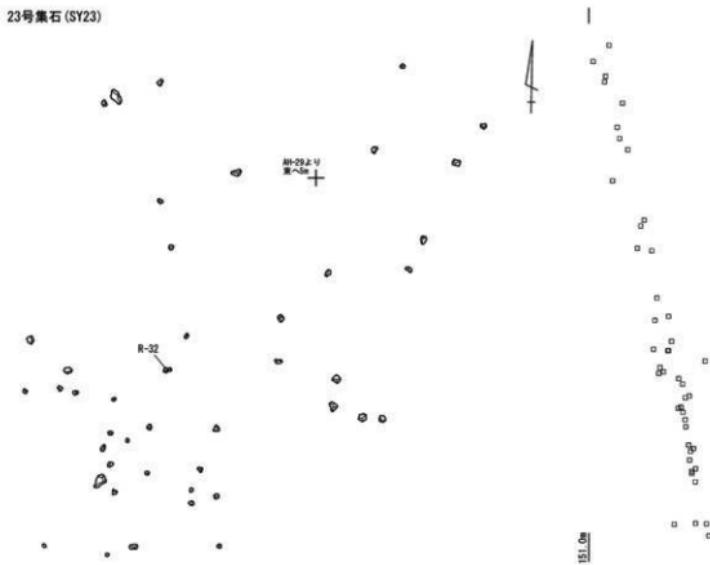


22号集石(SY22)

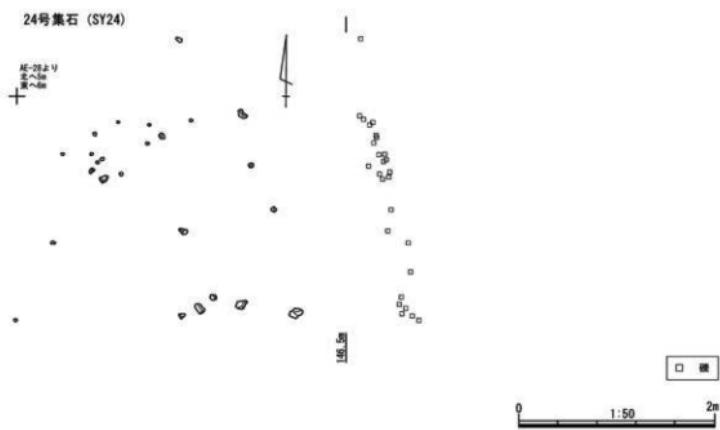


第126図 繩文 集石5

23号集石 (SY23)



24号集石 (SY24)



第127図 繩文 集石 6

第20表 縄文 集石一覧

遺構名	遺構番号	地区	グリッド	検出範囲 (m)	検出層位(点数)				平面形態	掘り込み	出土遺物
					KU	FB	ZN	遺構覆土			
2号集石	SY02	1区	AN-26	2.68×1.13	54				円形	有り	石器6点、土器2点
11号集石	SY11	1区	AM-24	0.78×0.53	2	15			椭円形	有り	炭化物1点
19号集石	SY19	6区	T-9	0.40×0.25			8		椭円形	有り	炭化物2点
18号集石	SY18	6区	V-8	1.10×0.83			42		椭円形	有り	炭化物2点
17号集石	SY17	6区	U-9	0.83×0.65			45				石器1点、土器2点、炭化物1点
10号集石	SY10	1区	AN-26	0.53×0.35		11					
16号集石	SY16	6区	S-8	0.85×0.53	38						
7号集石	SY07	1区	AM-26	0.68×0.20	5						
4号集石	SY04	1区	AN-32	0.38×0.25	8						
5号集石	SY05	1区	AN-32	0.65×0.60	1	9					石器1点
6号集石	SY06	1区	AN-26	0.88×0.55		13					土器1点
1号集石	SY01	1区	AN-26	1.43×1.00	16						
3号集石	SY03	1区	AL-24/AN-25	1.25×0.70	11	1					
9号集石	SY09	1区	AN-24・25	2.00×0.45		9					
20号集石	SY20	6区	T-5	1.38×0.68	6						
27号集石	SY27	6区	V・W-5	2.00×0.56	5						
8号集石	SY08	1区	AM-25	10.50×6.10		173					石器3点
			AN-25・26								
22号集石	SY22	1区	AG-29	6.10×3.50	77						
			AH-28・29								
25号集石	SY25	1区	AE-28・29	2.95×1.20	16						
23号集石	SY23	1区	AG-29・30	6.30×4.35	67						
			AH-29・30								
24号集石	SY24	1区	AE-28	3.35×3.00	27						

第21表 縄文 集石組成表

(点数)

遺構名	石材										重量別												
	A (n p y)	A (n H o)	A n	B a	V A n	V B a	F S S	M S S	L T	Q P	計	A (n p y)	A (n H o)	A n	B a	V A n	V B a	F S S	M S S	L T	Q P	P m	計 (g)
2号集石	32	4	8	5	2				1		52	11904.0	1096.0	3298.0	1878.0	630.0			74.0			18870.0	
11号集石	12		2	1	1	1	1				17	2052.0		426.0	255.0		29.0		160.0			2922.0	
19号集石	6								1	1	8	799.0							6.0	5.0		810.0	
18号集石	36		3	1	2						42	14486.0		820.0	565.0	484.0							16355.0
17号集石	37		3	4	1						45	6646.0		765.0	376.0	225.0							7952.0
10号集石	7		1	2					1		11	2354.0		238.0	1152.0				169.0				3913.0
16号集石	29		2	4			3			38	3462.0		95.0	303.0					154.0				4014.0
7号集石	3		1	1						5	724.0		350.0	50.0								1124.0	
4号集石	6		2							8	3102.0		781.0										3883.0
5号集石	7		1	2						10	3375.7		232.0		841.0								4448.7
6号集石	7		3		1			1		11	1773.0		893.0			300.0							2966.0
1号集石	11		5							16	1402.0		851.0										2253.0
3号集石	6		5							11	654.0			1283.0									1937.0
9号集石	4		5							9	665.0			729.0									1394.0
20号集石	6									6	3070.0												3070.0
27号集石	4		1							5	805.4		845.0										1650.4
8号集石	108	3	2	14	35	3	2	3		170	20751.0	518.0	610.0	2498.0	5979.0	515.0	255.1	423.0					31549.1
22号集石	40		5	13	5	9		4	1	77	15556.0		509.0	1957.0	546.0	1393.0			276.0		30.0	20267.0	
25号集石	15		1							16	3416.0			28.0									3444.0
23号集石	33		9	14	4	4		3		67	4532.0		779.0	2477.0	459.0	753.0			133.0			9133.0	
24号集石	19		5	1				2		27	1640.0		185.6	50.0					26.0			1961.6	

第2節 遺物

1 土器（第128～132図 第22・23表）

本遺跡から出土した縄文時代の土器は3305点である。以下のように分類した。

I群 早期土器群

A類 押型文土器

1 直交施文

- a 山形文
- b 横円文

2 横位施文を行うもの

- a 山形文
- b 横円文
- c 格子目文
- d 变形文

3 縦位施文

B類 燃糸文土器

1 縦位施文

2 斜位施文

3 横位施文

C類 沈線文系土器

1 爪形状刺突文や横位を基調とした太・細沈線文を施文するもの

2 外面にやや粗い斜格子または格子状の沈線文を施すもの

D類 条痕文系土器

1 微隆起線文や沈線文で区画を形成し、内部を微隆起線文や集合沈線で埋めるもの

2 微隆起線文や沈線文で区画を形成し、内部を集合沈線で埋め、文様の交点等に竹管文が加えられるもの

3 無文・その他

E類 口縁部外面に横位突帯をめぐらすもの

1 口縁部外面に1条の突帯をめぐらし、突带上を上下から押圧するもの

2 口縁部外面に複数条の突帯をめぐらし、突带上にキザミを加えるもの

3 無文・その他

II群 前期土器群

A類 縄文を施文し、胎土に纖維を含むもの

B類 羽状縄文または単斜縄文を施文し、雲母を含む薄手硬質の胎土を有するもの

C類 爪形文や縄文を施文し、胎土に纖維を含まないもの

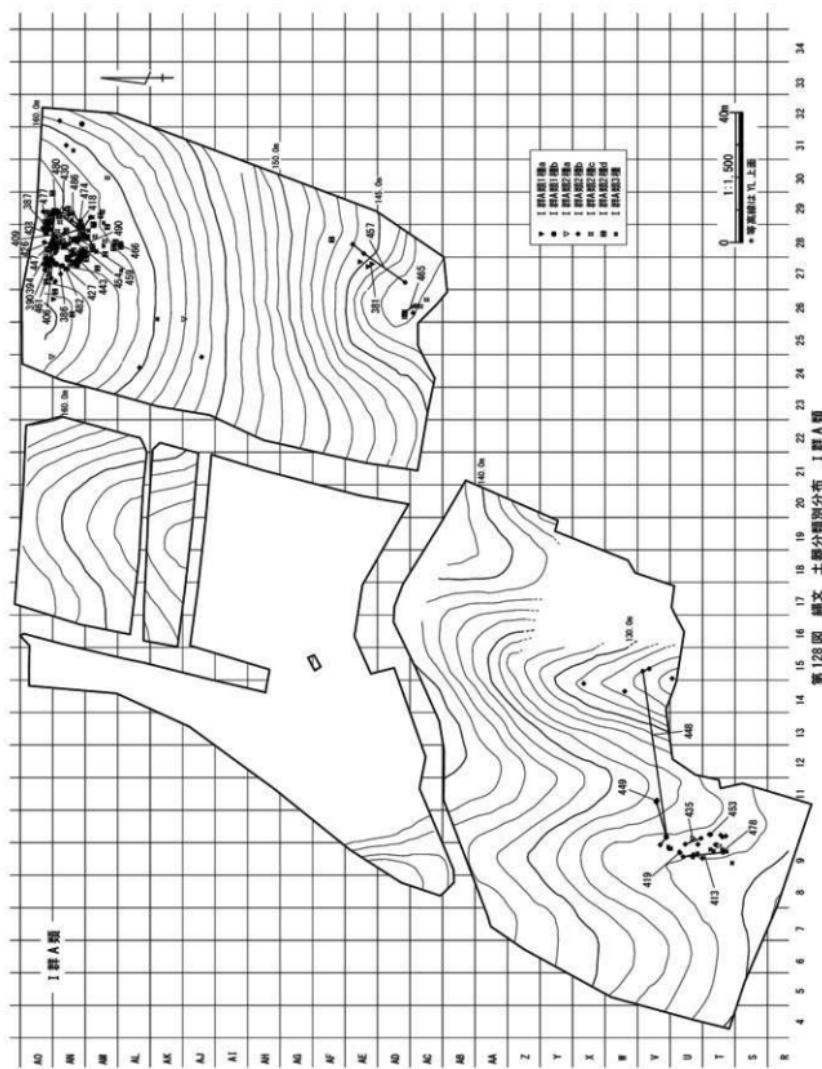
III群 中期土器群

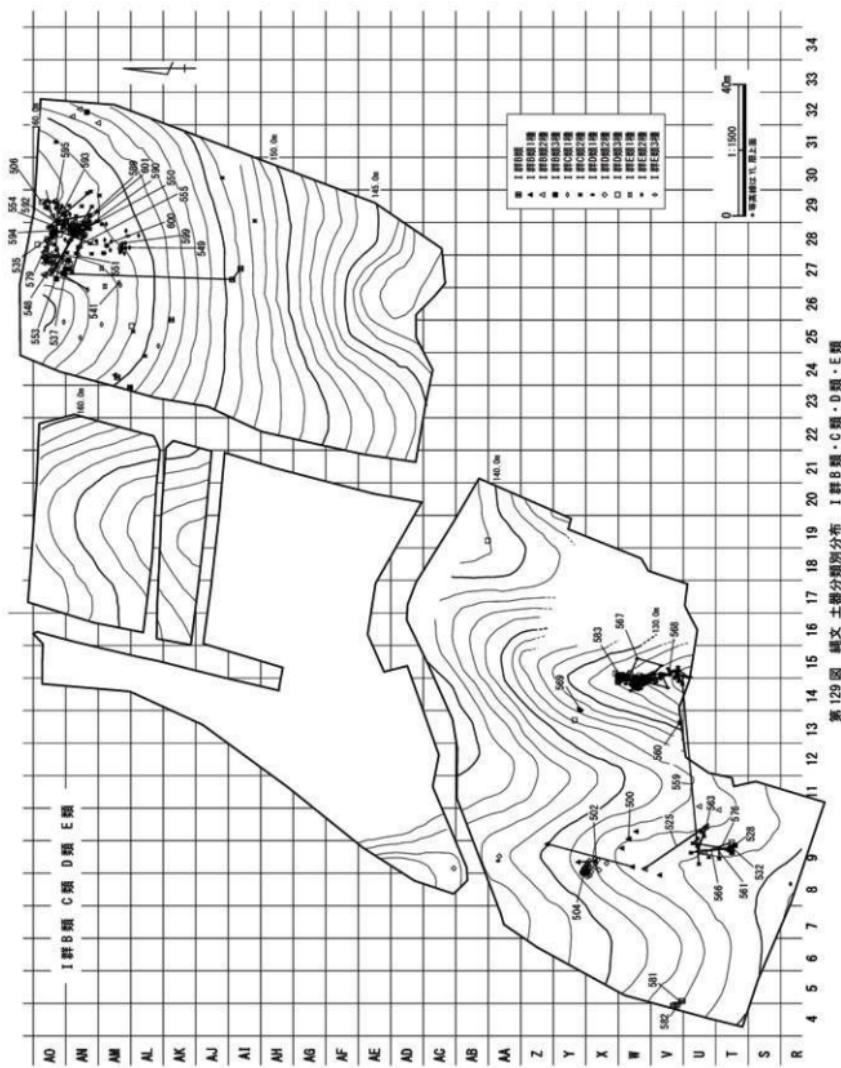
A類 半截竹管状工具による押引文を施文するもの

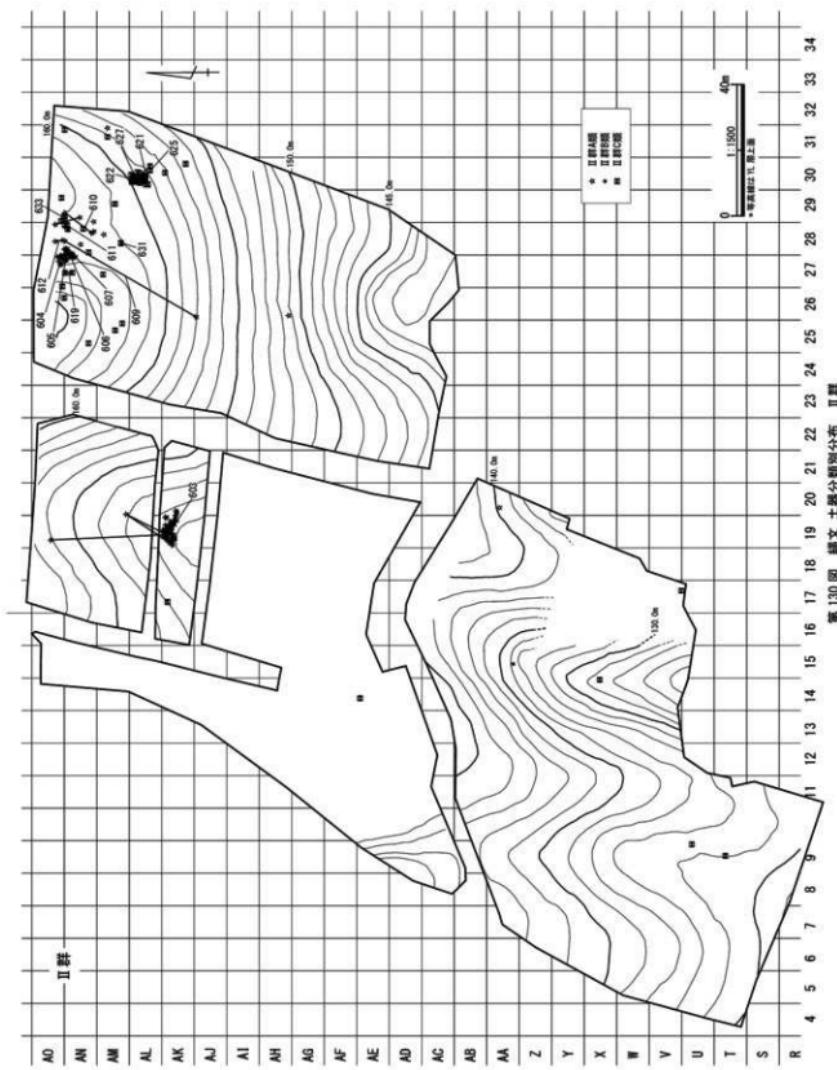
B類 区画内を平行沈線で充填するもの

C類 横帯区画の内部に縄文を施文するもの

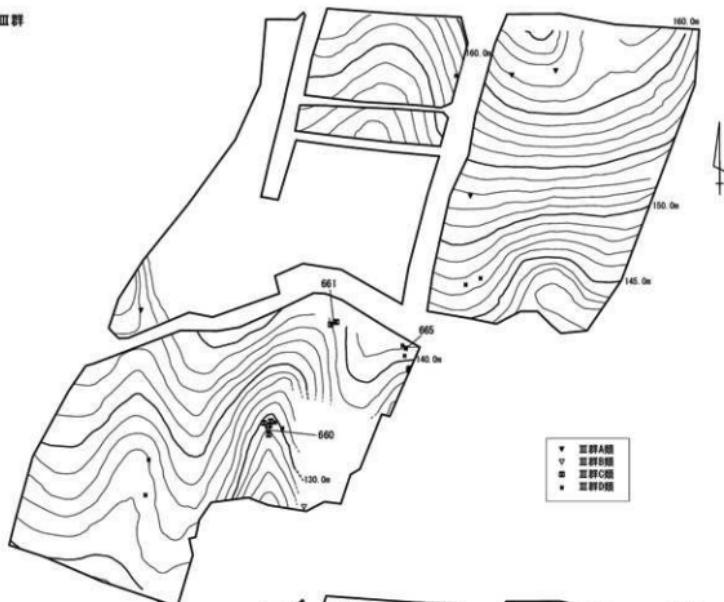
D類 その他



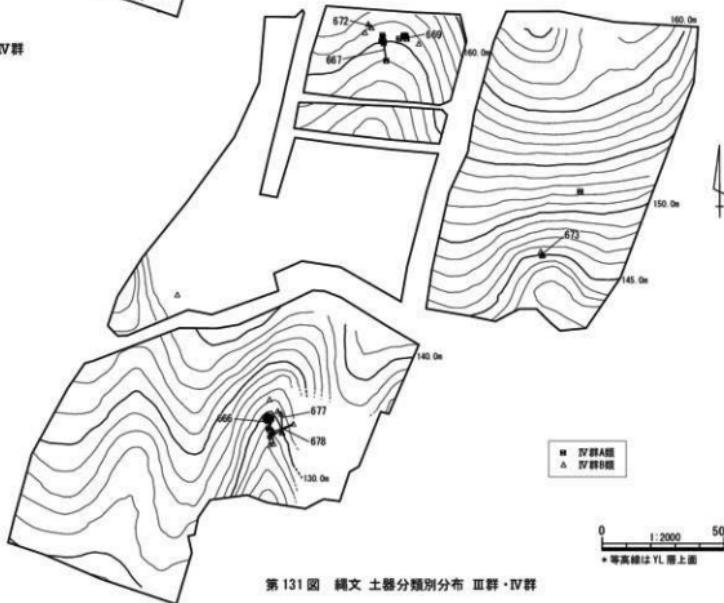




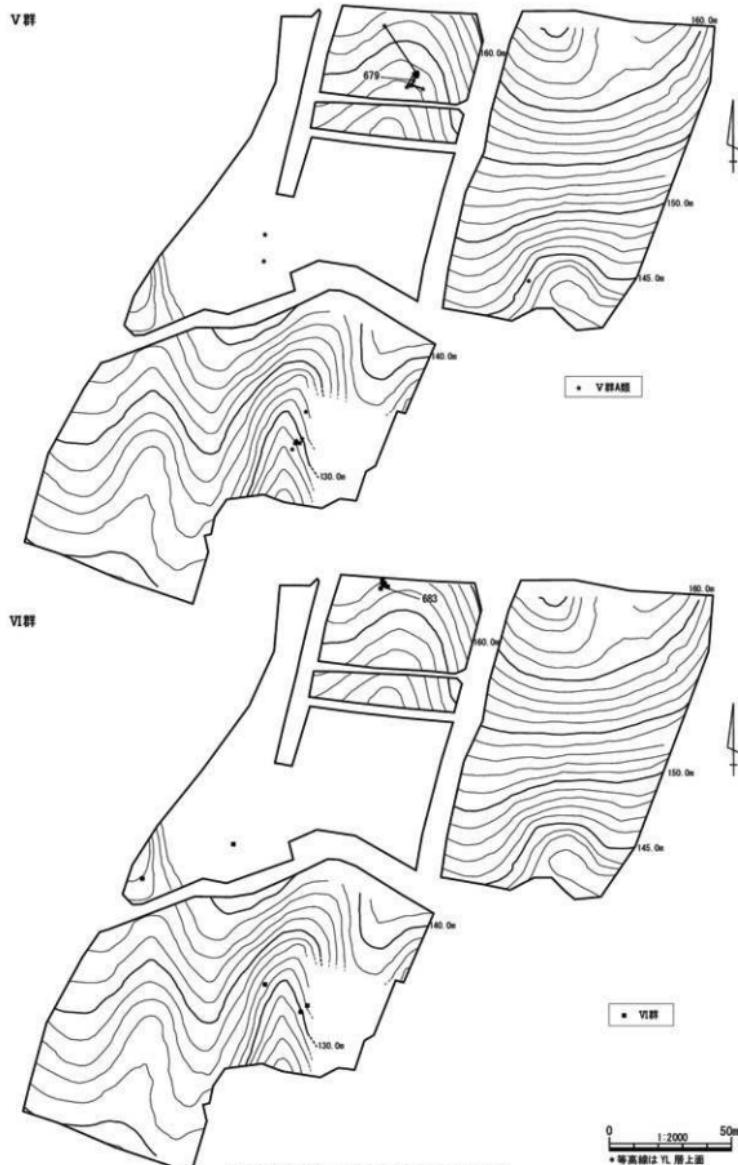
III群



IV群



第131図 繪文土器分類別分布 III群・IV群



第132図 繩文 土器分類別分布 V群 VI群

IV群 後期土器群

A類 宮流式あるいはそれに併行する土器

B類 無文・その他

V群 晩期土器群

A類 口縁部外面に平行線文、胴部に間隔をあけた羽状文を施すもの

VI群 底部・土製品等

I群 早期土器群

A類 押型文土器（第133～136図）

1 直交施文

a 山形文

381はわずかに膨らみを有する胴部から緩やかな括れをもって直線的に開く口縁部を有する。口唇部はナデ調整により角頭状を呈する。口縁部直下及び胴部下半に横回転、胴部中位に縦回転の山形押型文を施文している。口縁直下に補修孔が2箇所認められる。

382は直線的に開く胴部を有する。外面上端に横回転、それ以下に縦回転の山形文が施文されている。383と同一個体の可能性が高い。383は直線的に開く胴部を有する胴部下半に近い部分と判断される。外面に縦回転の山形文が施文されている。直交施文は確認できないが、382と同一個体の可能性が高いことから便宜的にここに含めた。器壁に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、8,830±30yrBPという結果を得た（附編参照）。384は尖底部破片で外面に縦回転施文の山形文が認められる。底部外面は磨滅が著しく、本来の形状は不明である。385は乳房状を呈する尖底部である。外面に縦回転施文の山形文が認められる。

b 楊円文

386・387・388は緩やかに外反する口縁部を有する。口縁部に横回転、胴部に縦回転の楊円文が施文される。386・388は口唇部をナデ調整し角頭状を呈する。387は口唇部に弱い面を持つ丸みを帯びている。386には胴部に補修孔が2箇所認められる。

391・392・393はほぼ直線的に弱く開く口縁部を有し、口唇部は丸く收める。口縁部に横回転、胴部に縦回転の楊円文が施文される。391・393は同一個体の可能性があり、雲母、角閃石を多く含む。

390はわずかに外反して開く口縁部を有する。口唇部はナデ調整により丸く收められる。口縁部内面はナデが不十分なため輪積み痕が明瞭に残されている。口縁部に横回転、胴部に縦回転の楊円文が施文される。繊維が多く含み橙色を呈する胎土は他の資料と異なっている。

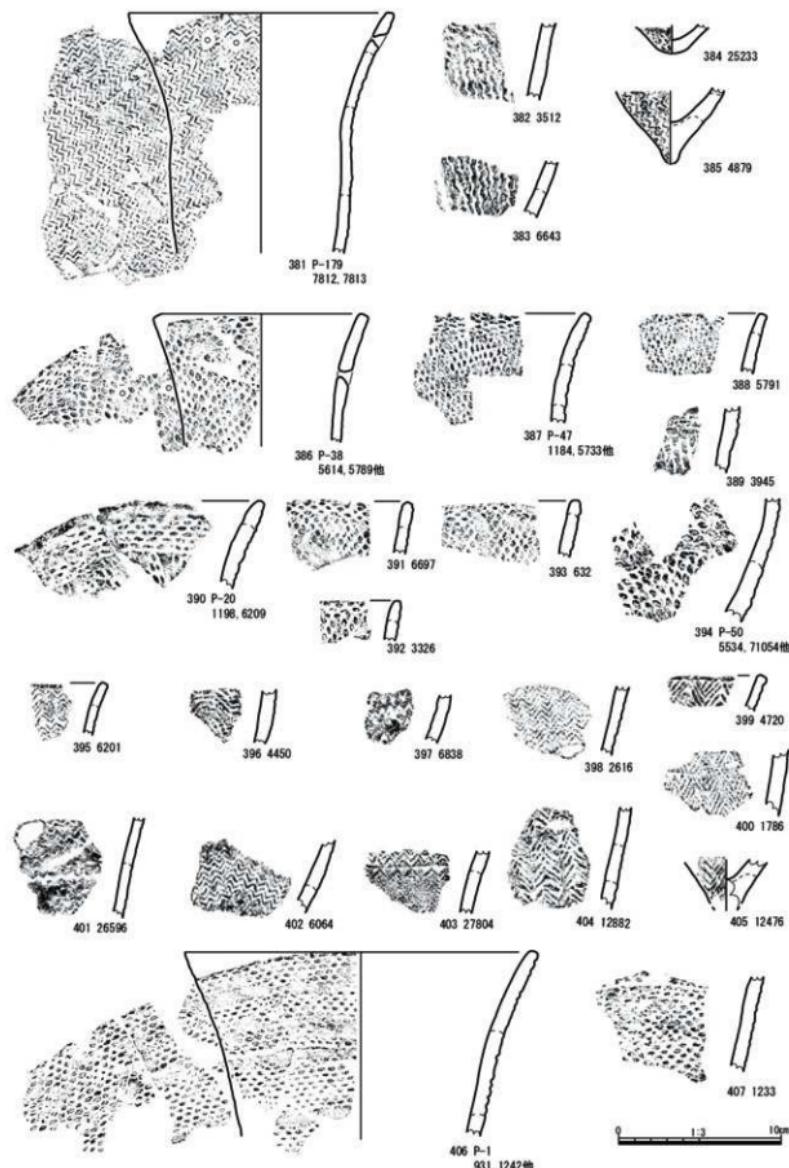
389は緩やかに開く胴部破片である。外面上半に横回転、下半に縦回転の楊円文が施文される。縦位施文は原体を押し引き気味に回転させたため長楕円形の押型文となっている。

394は内湾気味に開く胴部を有し、下半部の器厚が増しており胴部下半の破片と判断される。縦回転の楊円文の上端に横回転の楊円文がわずかに確認されるため、ここに含めたが、器壁が厚くやや大きめの楊円文を有する点は他の資料と異なっている。

2 横位施文を行うもの

a 山形文

395は緩やかに外反して開く口縁部である。口唇部はナデ調整により角頭状を呈する。外面に横回転の山形文が施文される。繊維は含まず、雲母、角閃石、長石を多く含む。口縁部以下の文様構成が不明



第133図 繩文 I群A類土器1

であるが、便宜的にここに含めて報告する。399は直線的に開く口縁部である。口唇部はナデ調整により角頭状を呈する。外面に横回転の振幅が大きな山形文が施文される。角閃石、雲母を多く含む。

398・400・401・403・404は直線的に開く脣部である。施文原体はそれぞれ異なり、403は振幅が小さく低密度の山形文を、400は振幅が大きく高密度の山形文を施文している。397・402はわずかに内湾気味に開く脣部である。397は振幅が小さく密度が低い山形文を施文している。405は底部破片である。基底部は欠損するが、外方に開く形状を観察できる。

b 楊円文

407・408は同一個体と推測される。406はわずかに外反して開く口縁部を有し、口唇部はわずかに面を確認できるが、いわゆる角頭状には至らず丸く收められる。外面に単位の小さな楊円文を横位に密接施文している。器壁に残された施文幅は3.2cm程度で4段を確認できる。407は同一個体と推測される。

408・409・410・412・413・417・418は口唇部がナデ調整により角頭状を呈する。いずれも外方に開き気味の口縁部を有するが、409は内湾して直立気味に立ち上がる。408・410・412・413は補修孔が確認できる。

411・414・415・416・419・420は口唇部がナデ調整により尖り気味または丸く收められる。いずれも外方に開き気味の口縁部を有するが、口縁部形状、口縁部の立ち上がりはそれぞれ異なる。

414・415・419は口唇部を尖り気味に丸く收め、緩やかに外反する口縁部を有する。411は内湾気味に立ち上がり、口唇部は尖り気味に收める。416は415と同一個体の可能性がある脣部破片である。420は口縁部が短く外反し外面の押型文もやや下がった位置から施文されており、他とは明確に区別できる。

421は開き気味の口縁部を有し、口唇部を丸く收める。口縁部内面に楊円文が施文されている。

422はわずかに開く口縁部を有し、口唇部は丸く收める。口唇部外端部に斜位のキザミを加えている。

423～435・439（432はSB01出土）は脣部破片である。外面のほぼ全面に押型文を施文するものが大半であるが、429・433では押型文が一部不鮮明となっている。426では破片上端部付近で原体を器壁に強く押し付けたため器面が一部くぼんでいる。

431・435と434・439はそれぞれ同一個体の可能性が高い。内湾気味に開き431・435は脣部、434・439は底部付近の破片である。434では一部で押型文原体を押し引いたため沈線状の文様が認められる。435には補修孔が確認できる。いずれも胎土に雲母、角閃石、石英を多量に含むのが特徴である。

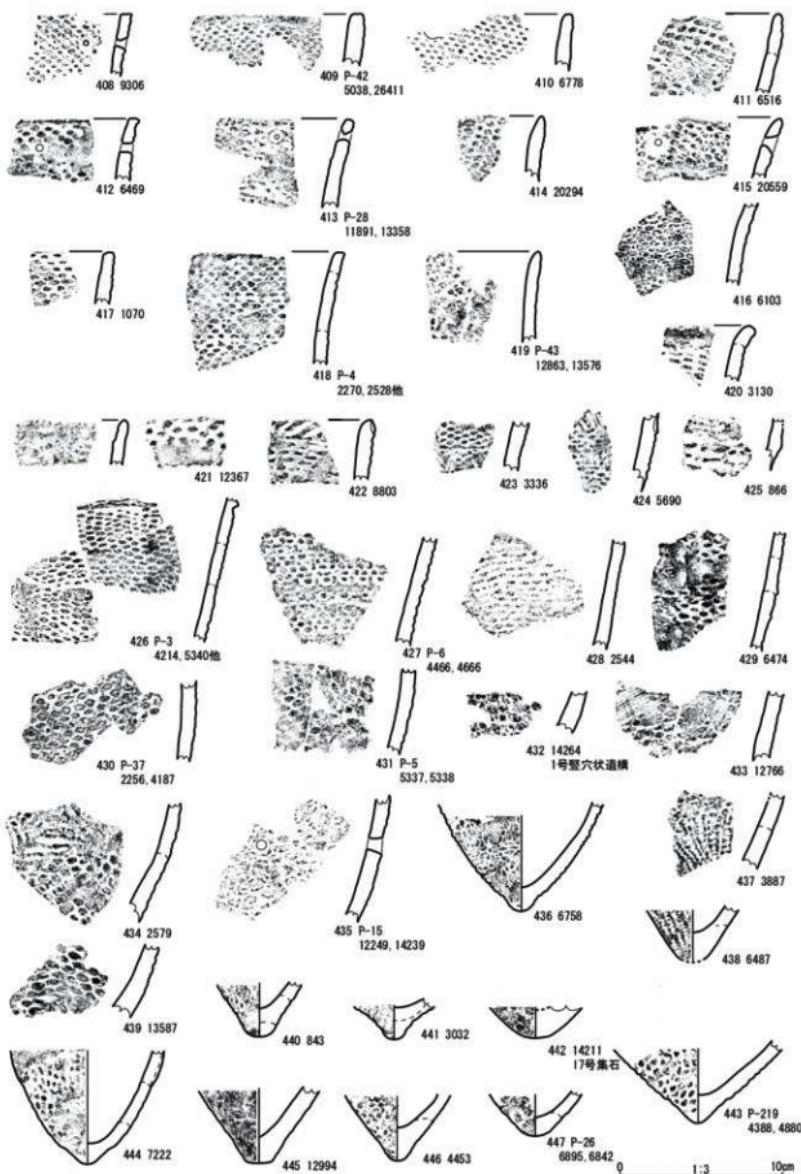
なお、430に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $8,550 \pm 30$ yrBPという結果を得た（附編参照）

436・440～447は外面にやや小さな楊円文が確認できる尖底部破片である。436・441・443・444は乳房状の尖底が顕著である。

437・438は同一個体と判断され、押型文と繩文を併用する。底部と脣部下半の破片と考えられ、脣部下半から底部付近には繩文、脣部上半に押型文を施文すると推測される。

448～458（451はSB01出土）は器壁が厚く、やや大粒の楊円文を施文することから他と分離した。

448・449・450・452は同一個体と推測される。内湾気味に立ち上がり丸みを帯びた脣部下半から直線的に開く口縁部を有する。口唇部はナデ調整により角頭状となる部分と丸く收められる部分（448・449）、尖り気味となる部分（450）があり一定していない。やや粒が大きな楊円文を横位に施文するが、脣部中位～下半では部分的に斜位ないし縱位となり、かつ不鮮明となる部分が認められる（448・449・452）。448には一对の補修孔が確認できる。448に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $8,620 \pm 30$ yrBPという結果を得た。また、土器周辺部から出土した炭化物（14480、14481）についても放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、それぞれ $8,650 \pm 30$ yrBP、 $8,620 \pm 30$ yrBPという結果を得た（附編参照）。



第134図 繩文 I群A類土器2

451・453・454・455・458はやや大粒の楕円文を施文する。451・453は口縁部破片である。451は緩やかに開く口縁部を有し、口唇部はわずかに面を持つ。453は口縁部がわずかに外反し、口唇部は丸く收め、キザミが加えられているようだが、やや不鮮明である。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、8,650±30yrBPという結果を得た(附編参照)。

454・455・458は胴部下半の資料である。やや大粒の楕円文を施文するが、454・458では施文が甘く一部不鮮明、455は原体を押し引いた結果平行沈線状の施文となっている。

456・457は底部破片である。押型文は確認できないが、器壁が厚く、尖底の形状を呈することからここに含めた。

c 格子目文

459・460・461は同一個体と推測される。459・460は口縁部破片で、わずかに外反する口縁部を有し、口唇部は明確な面を持った角頭状を呈する。461は、緩やかに外反する胴部である。459は、3段の施文が確認され、器壁に残る1段の施文幅は3.7cm程度である。

462・463・464は胴部破片である。462・463は直線的に開く。463は底部に近い部分に相当する。464はわずかに内湾気味となる胴部破片で、上半に格子目文、下半に楕円文を横回転により施文している。

465は底部である。底部はほぼ完存し、胴部下半部が一部残存している。乳房状尖底が顯著で、わずかに内湾して胴部下半につづいている。他よりもやや目の細かい格子目文を横方向に施文している。

d 変形文

466・472は同一個体と推測される。466はわずかに外反して開く口縁部である。外面に対向する三角形の内部を斜位に充填した押型文を施文する。口唇部は丸く收め、外端部にヘラ状工具による右下がりのキザミが施される。472は胴部破片で466と同様の押型文を施文する。

467は口縁部がわずかに外反する口縁部である。口唇部は丸く收め、外端部にヘラ状工具による右上がりのキザミが施される。外面には不定形な幾何学文の内部を斜位で充填した押型文を施文する。

470は緩やかに開く胴部である。外面上半には467に類似した押型文、下半には縱区画の内部をジグザグに区画しさらにその内部を横位または斜位に充填する変形押型文を施文している。

468・469は同一個体と推測される。468は口縁部破片で、やや直立気味に立ち上がり、口唇部は丸く收める。469は胴部破片で緩やかに湾曲して開く。いずれも外面に対向する三角形の内部を斜位または山形で充填した押型文が認められる。

471は、矢羽根状の押型文を横位に施文する胴部である。

475・476・477は同一個体の可能性がある。いずれも胴部破片で、重菱形文を施文する。他の変形押型文に比べやや黄色が強い明るい色調を呈し、纖維を少量含み、器厚が若干薄手となっている。

474はやや不鮮明であるが、三角形の内部を斜位に充填した押型文が確認できる胴部である。

473は対向する三角形の内部を斜位充填した押型文が認められる胴部破片である。

3 縦位施文

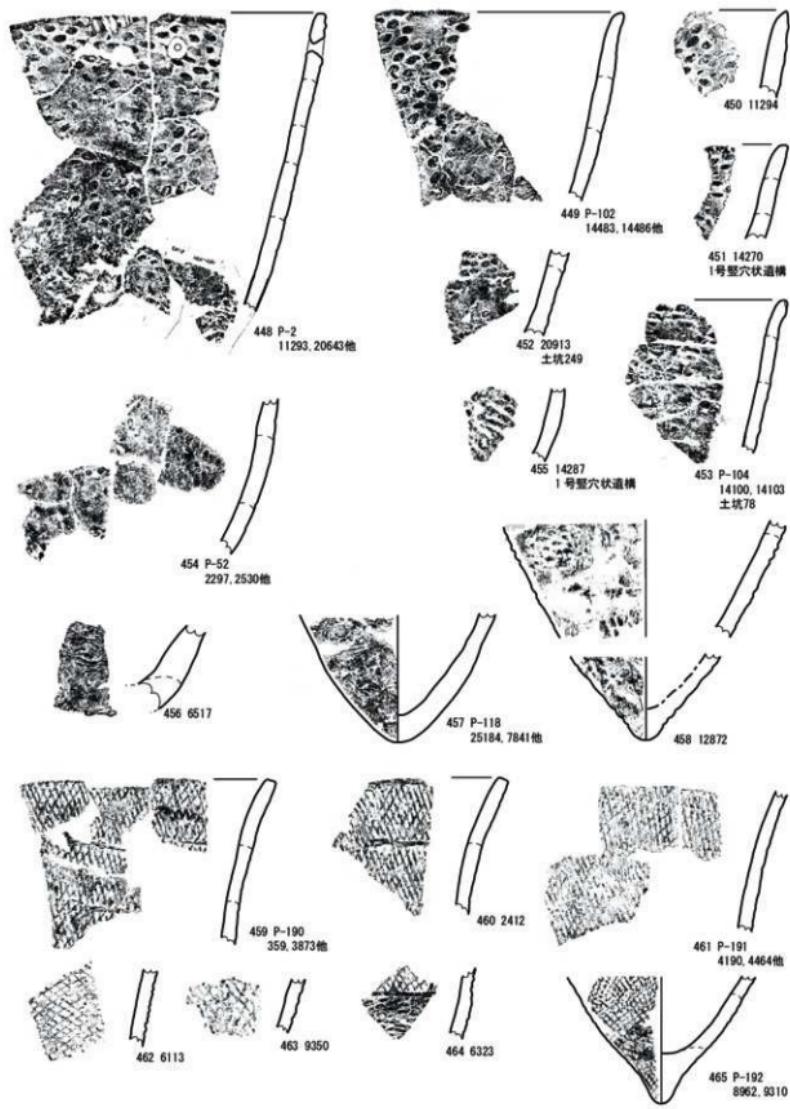
478・479・486は口縁部まで弱く開く胴部形態を有する。口唇部はナデ調整により丸く收められる。外面にはやや大きめの楕円文を施文している。478・479は同一個体と判断される。

480・481は同一個体と判断される。弱く開く胴部から口縁部で外反する。口唇部はナデ調整により角頭状を呈する。外面に一部斜位となる縦位施文の楕円文が施文される。

482はわずかに外反気味に開く口縁部を有する。口唇部はナデ調整により角頭状を呈する。口縁部直下に補修孔が認められる。

483は直線的にわずかに開く口縁部を有する。口唇部はナデ調整により角頭状を呈する。

484・485・487・488・489・490は胴部破片である。いずれも外方に開くが、489は外反気味、490は胴



0 1:3 10cm

第135図 繩文 I群A類土器3

部下位で内湾後、外反気味に開く。489は内面上半にヨコナデが認められることから、口縁部下位の部位に相当すると推測される。490は他に比べ細かい橢円文を施文している。

491~497は橙色~灰黄色を呈し、他とは明らかに色調が異なる一群である。491・492は緩やかに開き波状を呈する口縁部を有する。口唇部はナデ調整により丸く收められる。口縁部外面直下に爪形の押し引き文が施される。492には補修孔が認められる。

493は緩やかに外反する口縁部を有し、口唇部はナデ調整により丸みを帯びるがわずかに面を持つ。

494・495は緩やかに開く口縁部を有し、口縁部内面には押型文原体を押引いたものと考えられる縦位の沈線状の施文が認められる。494は口縁部端部がわずかに外反し口唇部は丸く收められる。口縁部内面の施文は口唇部端部にも及びキザミ状を呈する。495は直立気味に開き口唇部は面をもち角頭状を呈する。縦位の押引き状の施文を行う側を内面と判断した。

496・497は同一個体と考えられる。緩やかに開く胴部からわずかに外反する口縁部を有する。口唇部は弱い面を持ち、爪形の刺突文が連続する。497は胴部破片で上位に縦位施文、中位以下に斜位の橢円文が施される。

B類 摳糸文土器（第137図）

1 縦位施文

498・499は同一個体と推測される。直立気味に開き、口唇部付近でわずかに外反する。口唇部は丸く收められる。口縁部は縦位、それ以下は縦位または斜位のRの撚糸文を施文している。

500は開き気味の胴部から口縁部でわずかに外反する。口唇部はナデ調整によって角頭状を呈する。外面に複節のRLを軸に巻いた撚糸文を施文している。501は500と同一個体の可能性があるものの、器壁の摩耗により原体は不明である。

502・503・504は胴部破片で同一個体と考えられる。丸みを帯びた胴部下半から外方に開く。やや粗いRの撚糸文原体を用いている。

505は尖底の底部破片である。器壁の摩耗が著しく詳細な観察は困難であるが、Rの撚糸文が確認できる。

506は高さ6cm程度のミニチュア品である。全体の1/5程度が残存するにとどまるが、底部から口縁部までが残存しているため、反転復元が可能であった。尖底部から緩やかに内湾して立ち上がり、口唇部は丸く收める。胴部にRの撚糸文を縦方向に施文している。口縁部付近では横位の撚糸文が施文されているように見えるが器壁の摩耗が著しく判然としない。

2 斜位施文

507・508・509は同一個体と判断される。直線的に開く口縁部を有し、口唇部はわずかに面を持つ。外面の施文に加え、口唇部及び口縁部内面にも撚糸文が認められる。口唇部は放射状に、口縁部内面は端部付近に並行してRの撚糸文原体を回転させ施文している。胎土に纖維を多く含むのが特徴的である。

510・511は同一個体と判断される。直立気味に立ち上がり、口縁端部がわずかに外反する口縁部を有し、口唇部は丸く收められる。外面に斜位のLの撚糸文を施文する。511ではLの撚糸文を格子状に施文している。

512は緩やかに開く口縁部である。口唇部は丸く收める。Rの撚糸文が認められる。

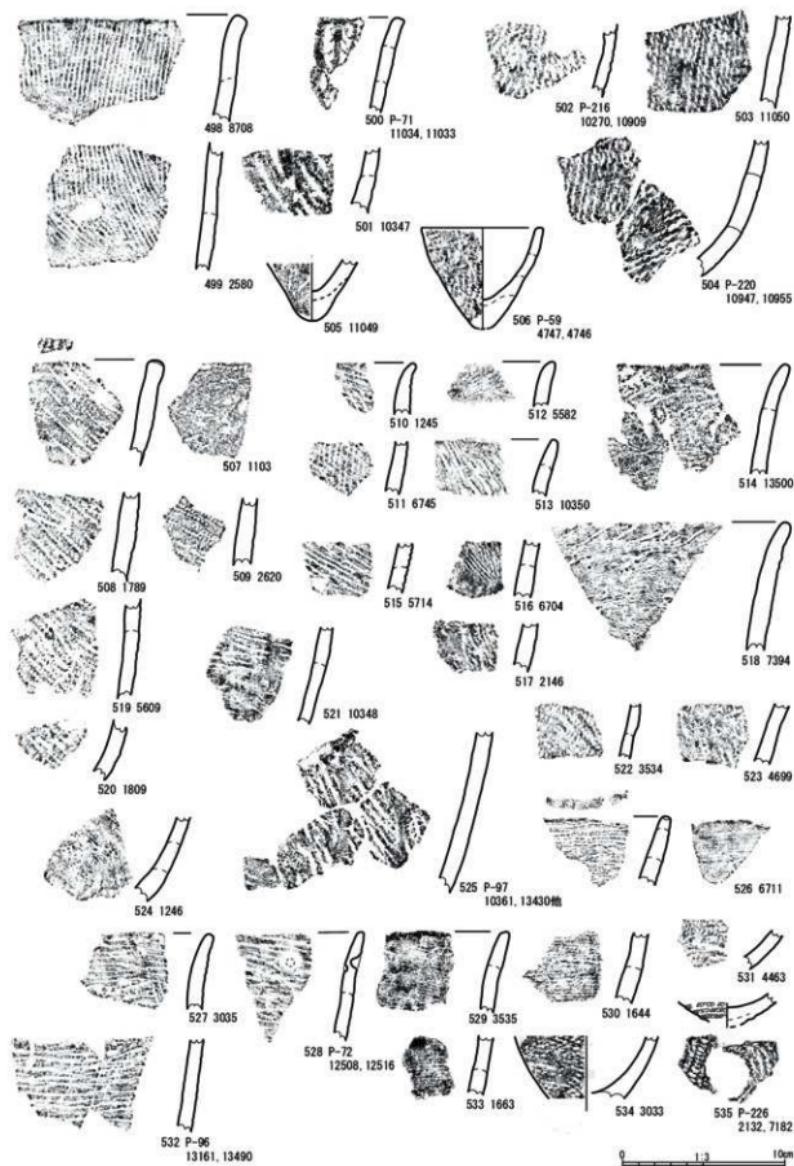
513はわずかに外反する口縁部である。口唇部は丸く收める。外面にやや粗いRの撚糸文が認められる。

514は緩やかに外反して開く口縁部である。口唇部は丸く收めるが部分的に角頭状を呈する。斜位を基調としたRの撚糸文を異方向に施文している。付着した炭化物について放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、 $8,550 \pm 30$ yrBPという結果を得た(附編参照)。

518は緩やかに外反して開く口縁部である。胴部外面にLの撚糸文を横位に施文し、口縁部には間隔



第136図 繩文 I群A類土器4



第137図 繰文 I群B類土器

が開いたLの斜位の燃糸文を施文している。

515・516・517・519～525は胴部破片である。外方に開き気味に立ち上がる胴部を有する。524は底部に近い部位である。519・520は胴部破片で、同一個体の可能性がある。いずれもRの燃糸文を施文する。

520はやや丸みを帯びた胴部下半の破片である。516・517・522はLの燃糸文、515・521・524・525はRの燃糸文が外面に施文される。原体の縄は、516・524は細く、521・522・525は太いものを用いている。523は器壁の摩耗が著しく原体は不明である。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、 $8,710 \pm 30$ yrBPという結果を得た(附編参照)。

3 横位施文

526・527・528・529は口縁部破片である。直線的に開く526と、緩やかに外反して開く527・528・529がある。いずれも口唇部はナデ調整により丸く收める。526・528は外面にL、527・529はRの燃糸文を施文している。

528は補修孔が外面と内面の両側から空けられているが、外面と内面で孔の位置がずれており貫通していない。

530・531・532・533は開き気味に立ち上がる胴部破片である。532はL、530・531・533はRの燃糸文を施文する。531・533は529と同一個体の可能性が高い。

534・535は底部である。いずれも粗いRの燃糸文を施文する。欠損により底面の形状は不明である。535は底面が剥離痕となっている。

C類 沈線文系土器 (第138図)

1 爪形状刺突文や横位を基調とした太・細沈線文を施文するもの

536は口縁部外面を断面三角形に厚く肥厚させ波状とする。外削ぎ状となった口唇部外面に細い沈線で格子状の文様を描き、直下を爪形文で区画した上、波頂部と同一線上で縦位の単位のやや大きな爪形文で区画し、区画内を横位の沈線と貝殻腹縁文ないし爪形文を交互施文する。

537は外方に直線的に開く胴部破片である。中位～上位には太い横位沈線文を施し、部分的に縦位の刺突で区画している。下位には細い横位沈線文を施す。

541はわずかに内湾して立ち上がる胴部である。上半は細い、下半は太い横位沈線文を施している。破片端には貝殻腹縁文とみられる刺突文がわずかに確認できる。538・539・540は同一個体と判断され、539・540には細い横位沈線文、538には細い横位沈線文の上端に貝殻腹縁文とみられる刺突文が確認できる。

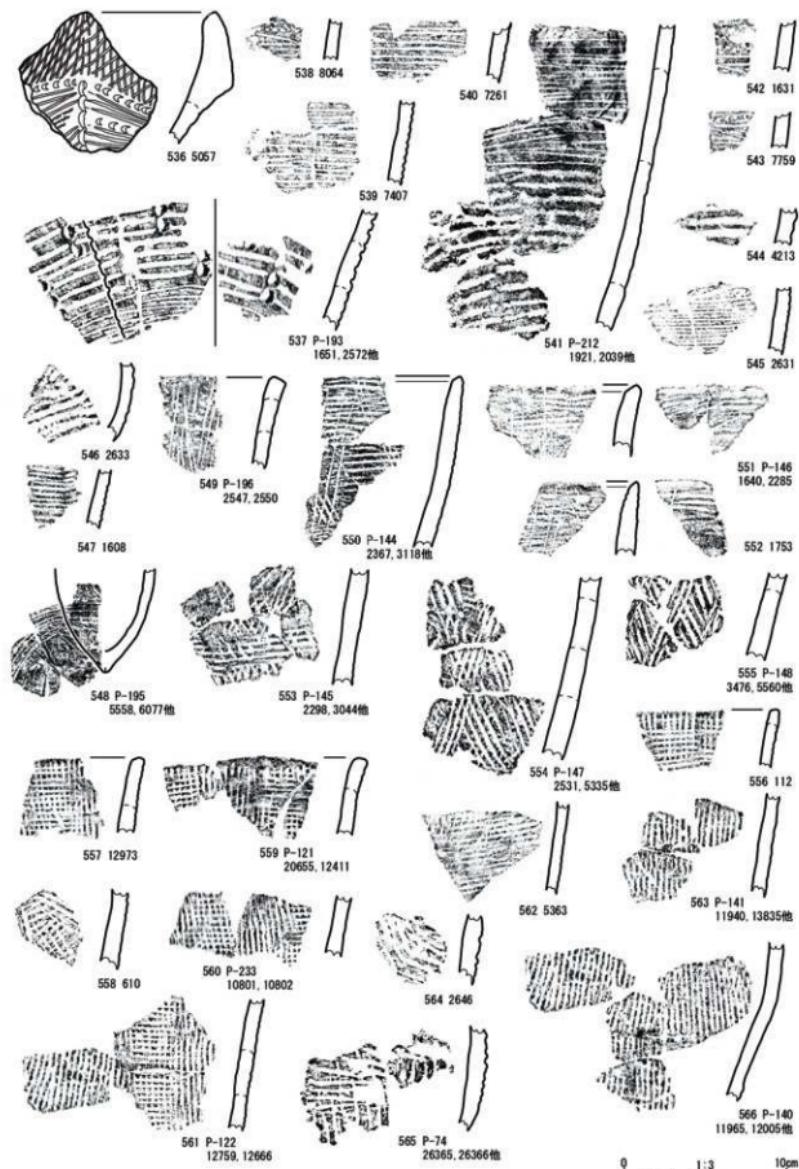
542・543・545は直線的に開く胴部破片で、542は538と同様、細い横位沈線文の上端に貝殻腹縁文とみられる刺突文が確認できる。545はこれと同一個体と判断される。543は横位沈線文の間に横位の爪形文が施文される。

544・546・547は外面に横位沈線文を施す。544は直線的に開く胴部破片で太い横位沈線文を加える。546は内湾気味に開き太い横位沈線文を加える。547は直線的に開く胴部破片で細い横位沈線文が認められる。

548は尖底から内湾気味に立ち上がる胴部を有する小型品である。外面上位に細い沈線による斜格子文、下位に横位沈線文を施文し、それ以下は無文とする。

549はわずかに外反する口縁部破片である。口唇部は面を持つ。口縁部外面に細い縦位の沈線文を施し、その間に縦位の爪形文が挟まれている。沈線文と爪形文を併用することから、ここに含めたが、縦位を基調とした沈線文は次項の2に近い。よって、549は典型的なC1とC2の中間的な資料に位置付けることが可能である。

2 外面にやや粗い斜格子または格子状の沈線文を施すもの



第138図 繪文 I群C類土器

550・551・552・553は横位のやや太い沈線文に斜位を基調とした細い沈線文を加える。550・551・552は口縁部破片で、口唇部は内傾した面を持つ。550は内湾気味に立ち上がり口縁部内面はナデ調整を行う。551・552は同一個体の可能性が高い。直線的に開いて立ち上がり、口縁部内面は横位の条痕調整を行う。553は直線的に開く胴部破片である。

554・555・558はやや太い沈線文で斜格子状に施文する。554・555はわずかに内湾して開く胴部破片で同一個体と判断される。558は斜格子及び斜位の沈線文が確認される。

556・557・559・560・561は外面に格子状の沈線文が認められる。556・557は直線的に開く口縁部破片で、556は口唇部に弱い面を持ち、557は口唇部を丸く収める。559・560は同一個体と判断される。直線的に開く胴部から口縁部がわずかに外反し、口唇部は丸く収める。561は直線的に開く胴部破片である。

564・565は太い沈線文で格子状及び斜位に施文する。564は直線的に開く胴部破片で、外面に斜位の沈線文を施文する。565はわずかに内湾して立ち上がる胴部破片で、外面に格子状の沈線文を施文する。

562・563・566は沈線文が認められる。施文、色調、胎土が上記土器群と類似することからここに含めた。562は直線的に開く胴部破片で、外面に細い沈線文を横位に施文する。破片上端には縱位の沈線文がわずかに確認できる。563・566は同一個体と判断される。胴部下半にわずかな屈曲部を持ち直線的に開く胴部である。外面に細い沈線文を縱位に施文する。

D類 条痕文系土器（第139～141図）

1 微隆起線文や沈線文で区画を形成し、内部を微隆起線文や集合沈線で埋めるもの

567は胴部下半にわずかに屈曲部を持ち、直立気味に立ち上がる胴部から屈曲して直線的に開く口縁部を有し波状を呈する。口唇部は丸く収め、キザミを施す。屈曲部より上の口縁部外面には太い凹線文で縱位及び斜位に区画された内部を斜位の沈線文で充填する。胴部以下は無文である。土坑から出土した土器片5点と遺構外の土器片48点が接合している。接合間の距離は最大16mである。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $7,750 \pm 30\text{yrBP}$ という結果を得た（附編参照）。

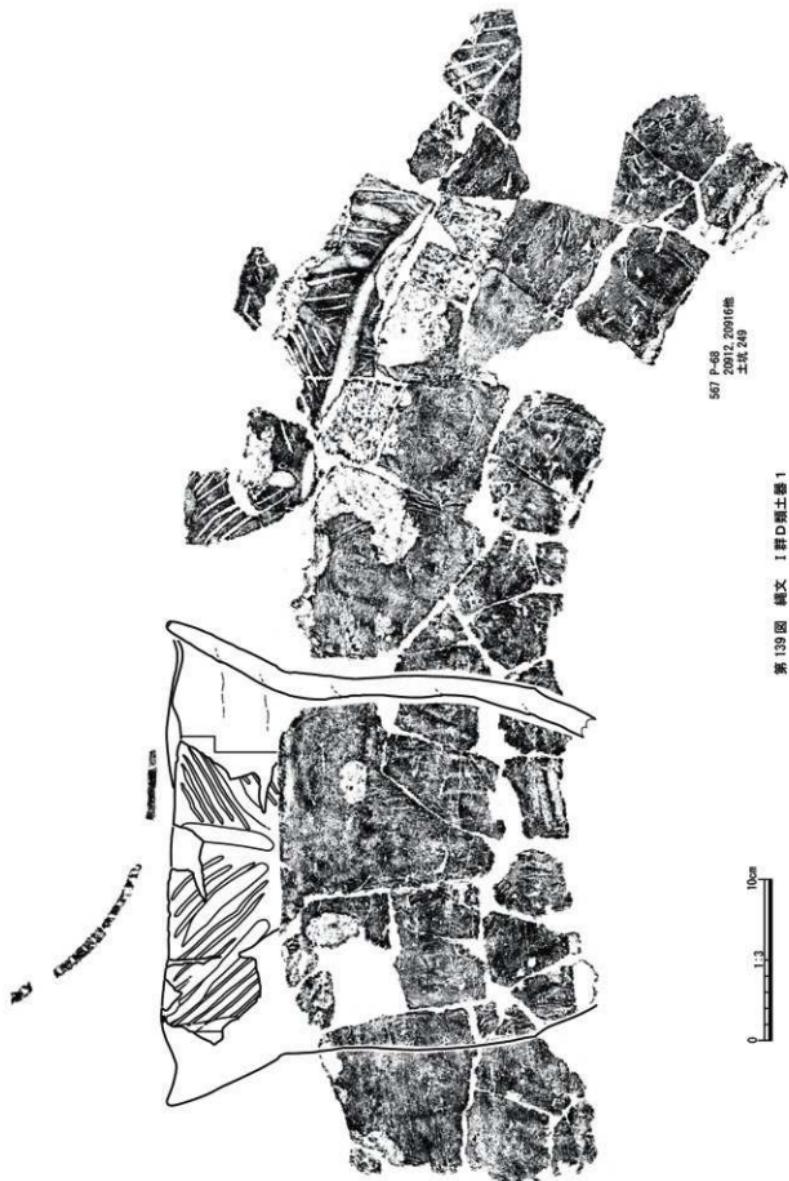
568は直立した胴部から緩やかに外反する口縁部を有し、緩やかな4単位の波状口縁を持つ。口唇部は丸く収める。胴部中位に微隆起線文を囲繞して文様帶区画とし、この区画文と口縁部の中間に同様の微隆起線文を囲繞して、上下二段の区画帯を形成する。その区画帯内部をさらに微隆起線文によって幾何学的な意匠で区画し、その内部を縱位または斜位の微隆起線文で充填している。なお、一部の区画は無文としている。補修孔が2箇所認められる。

569は直立した胴部から段を持って開く波状の口縁部を有し、口唇部は丸く収める。段から上を文様帶としている。キザミを加えた最低3条の隆帶を縱位に貼付して区画し、内部を沈線で区画した斜位の無文帶で区画した後、無文帶以外の部分を縱位または斜位の沈線で充填した文様を施す。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $7,640 \pm 30\text{yrBP}$ という結果を得た（附編参照）。

570は直線的に開く口縁部破片で、口唇部には面を持つ。口縁部外面に斜位を基調とした沈線文で区画帯を施し、その区画内に斜位の沈線を充填する。土器片下端部に刺突文が認められるが、施文の意匠・意図は不明である。内面には横位の条痕を施す。

2 微隆起線文や沈線文で区画を形成し、内部を集合沈線で埋め、文様の交点等に竹管文が加えられるもの

571・572は同一個体と判断される。571は波状口縁を呈する口縁部破片である。口唇部はナデ調整によって内傾した面を持つ。口縁部外面に斜位の沈線で区画し、区画内を縱位の沈線で充填している。内面には横位の条痕を施す。572はわずかに内湾して開く胴部破片である。縱位の沈線で区画した無文帶



の内部を斜位の沈線で充填している。また、破片左下端には棒状工具による刺突文が認められる。内面は横位の条痕で調整している。

573は開き気味に立ち上がる胴部破片である。外面に微隆起線文による三角形状の区画を形成し、無文帯及び沈線文で充填した区画文を施す。なお微隆起線文上には棒状工具による円形刺突文が認められる。

574・575は同一個体と判断される。開き気味に立ち上がる胴部破片で外面に沈線による区画を行い、無文帯と斜位の沈線で充填した区画帯を形成する。区画沈線上には棒状工具による円形刺突文が連続する。

3 無文・その他

584は内湾気味に立ち上がる波状を呈する口縁部破片である。口唇部は丸く收めるが、尖った波頂部は面を持ち器厚を増している。内外面ともに横位の条痕調整が行われる。

585は外反する口縁部で、口唇部は丸く收める。外面に斜位の条痕が認められる。

586はわずかに外反する口縁部で口唇部は丸く收める。無文のため、便宜的にここに含めたが、色調、胎土が押型文土器に類似することから、時期的に他よりも先行する可能性がある。胎土に纖維を多く含むのが特徴的である。

587は内湾して立ち上がる口縁部である。口唇部は丸く收め、口縁部の器壁は全体的に厚い。

576は直線的に開く胴部破片である。補修孔が認められる。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $8,630 \pm 30$ yrBPという結果を得た（附編参照）。

583は直線的にわずかに開いて立ち上がる口縁部から胴部上半である。口唇部は丸く收め、キザミを加える。キザミは上からみて右下がりとなる部分と右上がりとなる部分がある。内外面の前面を横位を基調とした条痕で調整する。

588は繩文がかすかに認められるが、摩滅が著しく詳細は不明である。胎土に纖維を多く含む。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $8,800 \pm 30$ yrBPという結果を得た（附編参照）。

577～582は外面に沈線を施す。

577はわずかに内湾する胴部破片である。外面に縱位の沈線3条とこれに斜交する沈線1条が確認できるが、表面に炭化物が多く付着するため、詳細な観察は困難である。内面には横位の条痕が観察できる。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $7,670 \pm 30$ yrBPという結果が得られた（附編参照）。

578はわずかに内湾する胴部破片である。外面に斜位の沈線4条が確認できる。器壁はやや薄手で胎土に雲母・角閃石を多く含んでいる。

579は直線的に開く胴部破片である。外面に縱位の沈線4条が確認できる。器壁はやや薄手である。

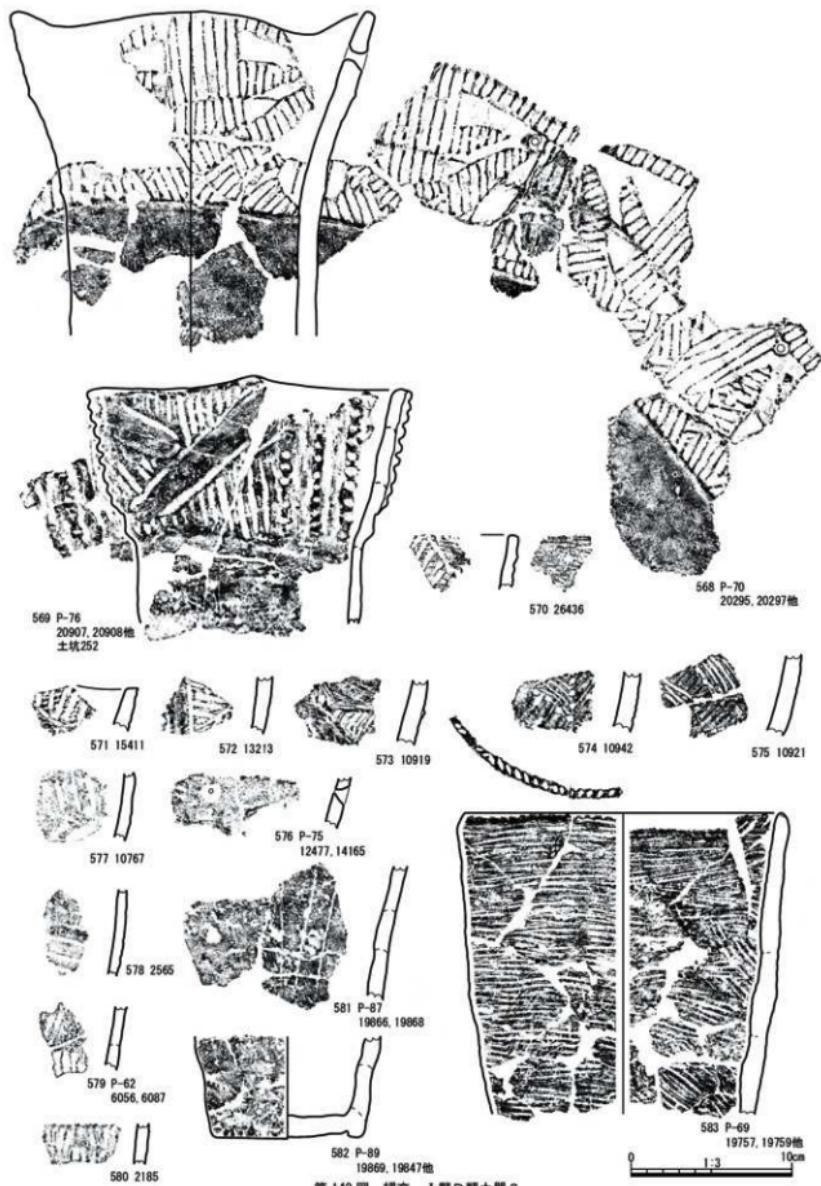
580は直線的に開く胴部破片である。外面に縱位の沈線が確認できる。器壁はやや薄手である。

581・582は同一個体と判断される。筒状の胴部に底部を充填した結果、底部周縁部が一部高台状を呈している。外湾気味に開く胴部外面には先端が細い工具による縱位の沈線が3条程度確認できる。胎土に纖維を多く含む。

E類 口縁部外面に横位突帯をめぐらすもの（第141図）

1 口縁部外面に1条の突帯をめぐらし、突帯上を上下から押圧するもの

589・590・592は同一個体と判断される。口縁部が緩やかに開く胴部上半で、口縁部外面に低い幅広の突帯を貼付し、突帯上を上下及び中央から押圧されており3列の押圧が並んでいる。口唇部には棒状工具によるキザミを施す。口縁部内面及び胴部外面上半は横位基調の条痕、胴部下半は斜位基調の条痕を施す。



第140図 繩文 I群D類土器2

591は口縁部破片で、外面に突帯が添付され、突帯上に上下から押圧を加えている。ただし、器壁の剥落が生じており詳細な観察は困難である。口唇部にも押圧が認められる。

2 口縁部外面に複数条の突帯をめぐらし、突帯上にキザミを加えるもの

593・594は直線的に開く胴部を有し、口縁部外面に2条の突帯が確認できる。突帯上にはヘラ状工具によるキザミを施す。また、突帯下位にはヘラ状工具による斜位のキザミを2条施す。なお、口唇部は内外面からキザミを加えている。文様帯以下は斜位の条痕により調整している。灰白色を呈し、薄手で纖維を多く含んだ胎土が特徴的で東海西部地域からの搬入品の可能性が高い。

595は直線的に開く胴部上半である。推定口径は13cmとやや小型である。口縁部は一部がわずかに波状を呈する。口縁部直下に突帯を施し、その下位には波状に湾曲する突帯を付加している。口唇部、突帯上にはヘラ状工具によるキザミを施す。突帯直下及び胴部に補修孔が2箇所穿たれている。灰白色を呈し、薄手で纖維を多く含んだ胎土が特徴的で東海西部地域からの搬入品の可能性が高い。

598・599・600は同一個体と判断される。緩やかに開く胴部及び口縁部破片で、口唇部は丸く収める。口縁部外面に1条の突帯を貼付する。口唇部及び突帯上キザミを加えるが口唇部はヘラ状、突帯上は棒状工具によると推測される。口縁部下位は横位、胴部は外面が斜位、内面が横位の条痕により調整される。確認される突帯は1条であるが、突帯上に棒状工具によるキザミを施すことからここに含めた。

596は口縁部破片で、外面に突帯を貼付している。突帯上及び口唇部にヘラ状工具によるキザミを施す。

597は口縁部の破片と考えられるが、口唇部を欠損する。突帯を2条確認できるが、上段の突帯は波状を呈し、下段の突帯は途切れた短いものの可能性がある。突帯上には棒状工具によるキザミを施すが、下段の突帯は摩耗により詳細な観察が困難である。

搬入品の可能性が高い593・594・595以外は器壁がやや厚く胎土も褐色系を呈することから、在地品と判断される。

3 無文・その他

601・602は緩やかに開く口縁部破片で、口唇部にキザミを施す以外は無文である。やや薄手であるが、褐色系を呈することから在地品と判断される。602には補修孔が認められる。

II群 前期土器群

A類 繩文を施し、胎土に纖維を含むもの（第142図）

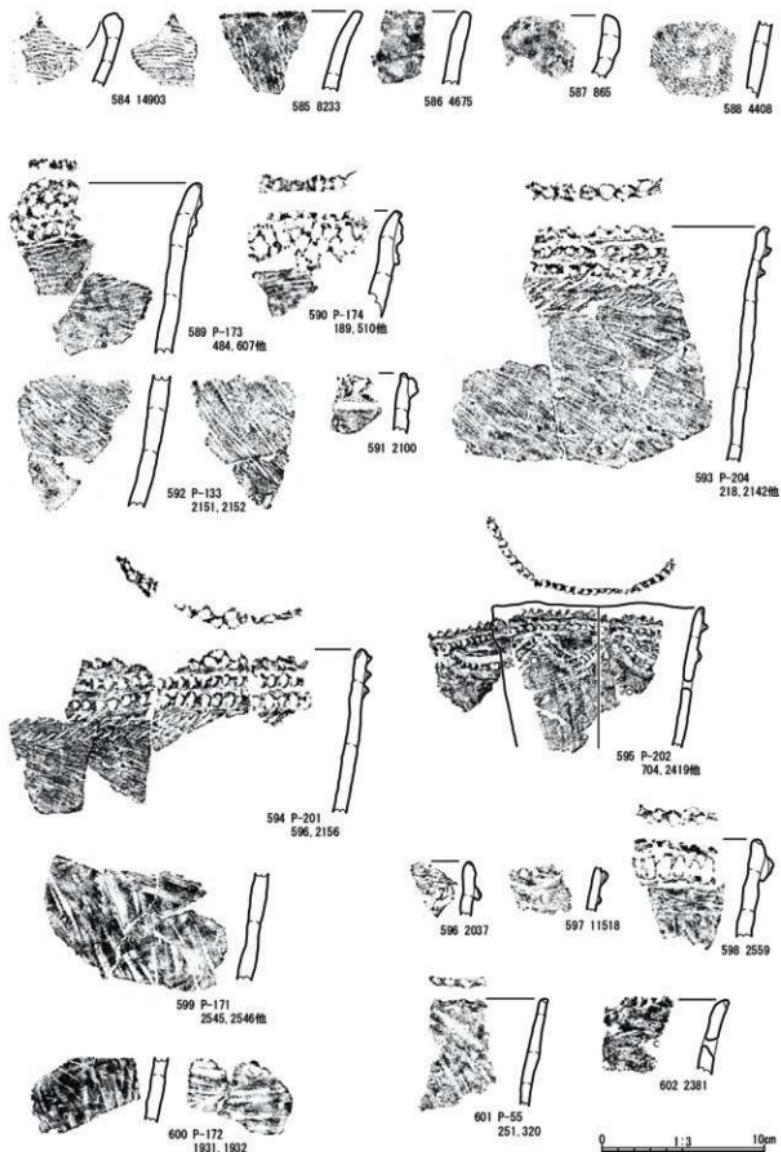
603はわずかに内傾する直立した胴部からわずかな括れをもって内湾して立ち上がる波状の口縁部を有する。口唇部は丸く収める。胴部へ口縁部の外面ほぼ前面にLRの繩文を施した後、口縁部直下に波状の口縁と平行する2条のLRの押圧繩文を施す。

604・605・606・607は同一個体と判断される。やや厚みがある平底の底部からわずかに膨らんだ胴部は上半で内湾し、わずかな括れをもって内湾して立ち上がる口縁部へつながる。口唇部は内側に丸く肥厚させ内傾した弱い面を持つ。口縁部及び胴部外面にLRの繩文を施すが、回転方向は一様でない。なお、口縁部の繩文には結節繩文が確認できる。胎土に纖維の混入はないようだが、器形、繩文施文の状況から本類に含めた。

608・609・610は同一個体と判断される。わずかに湾曲して開く胴部は口縁部で弱く外反する。口唇部は弱い面を持ち、外端部に右下がりのキザミを施す。外面には羽状繩文を施すが、回転方向は一定しない。内面はナデ調整が顕著である。

611・612は同一個体と判断される。緩やかに外反する口縁部である。口唇部は弱い面を持ち弱いキザミを加えている。外面には継位の羽状繩文が確認できる。

613は緩やかに開く口縁部破片である。口唇部は丸く収める。外面には炭化物が付着しており、詳細



第141図 繩文 I群D類3・E類土器

な観察は困難であるが、LRの縄文が確認できる。この土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、 $8,650 \pm 30$ yrBPという結果を得た（附編参照）。

614・615・616は内湾気味に開く胴部破片である。外面に614・616はLR、615は附加条の縄文を施文する。

B類 羽状縄文または単斜縄文を施文し、雲母を含む薄手硬質の胎土を有するもの（第142図）

617・618は薄手硬質の胎土を有し、外面に縄文を施文する。617は羽状縄文、618はLRの縄文が確認できる。胎土に雲母を多く含むのが特徴的である。関西の北白川式系に類するものと推測されるが、破片のため詳細は不明である。

C類 爪形文や縄文を施文し、胎土に纖維を含まないもの（第143図）

619は浅鉢の口縁部である。大きく開く口縁部内面に断面三角形状に粘土帯を付加して口唇部を厚くしている。内外面に丁寧なナデ調整を行った後、口唇部にヘラ状の工具で木葉状の沈線文を施す。

620は内傾する浅鉢の口縁部破片である。上端は剥離面となっており、L字状に立ち上がる短い口縁部が付加されていたと推測される。剥離面には細い右上がりのキザミが一定間隔で施され、口縁部の密着度を高めるための工夫と判断される。

621・622は直立して立ち上がる口縁部で同一個体の可能性が高い。いずれも口唇部は角頭状を呈する。半截竹管状工具により横位の爪形文を少し間隔をあけて4段以上施し、その間に右下がりのキザミを連続させる。口唇部と内面にはナデ調整が頗著である。

625・626・627はほぼ直線的に開く胴部破片で外面に621・622と同様の文様構成を持つ。

623・624は同一個体と判断される。爪形文とこれに並行する隆帯が認められる胴部破片である。斜位のキザミが施された隆帯の両脇に、半截竹管状工具によって爪形文を並行させている。

628は直立する口縁部破片である。口唇部は面を持ち、口縁部内面とともに丁寧にナデ調整される。外面には半截竹管状工具によるとみられる横位の平行沈線が施される。

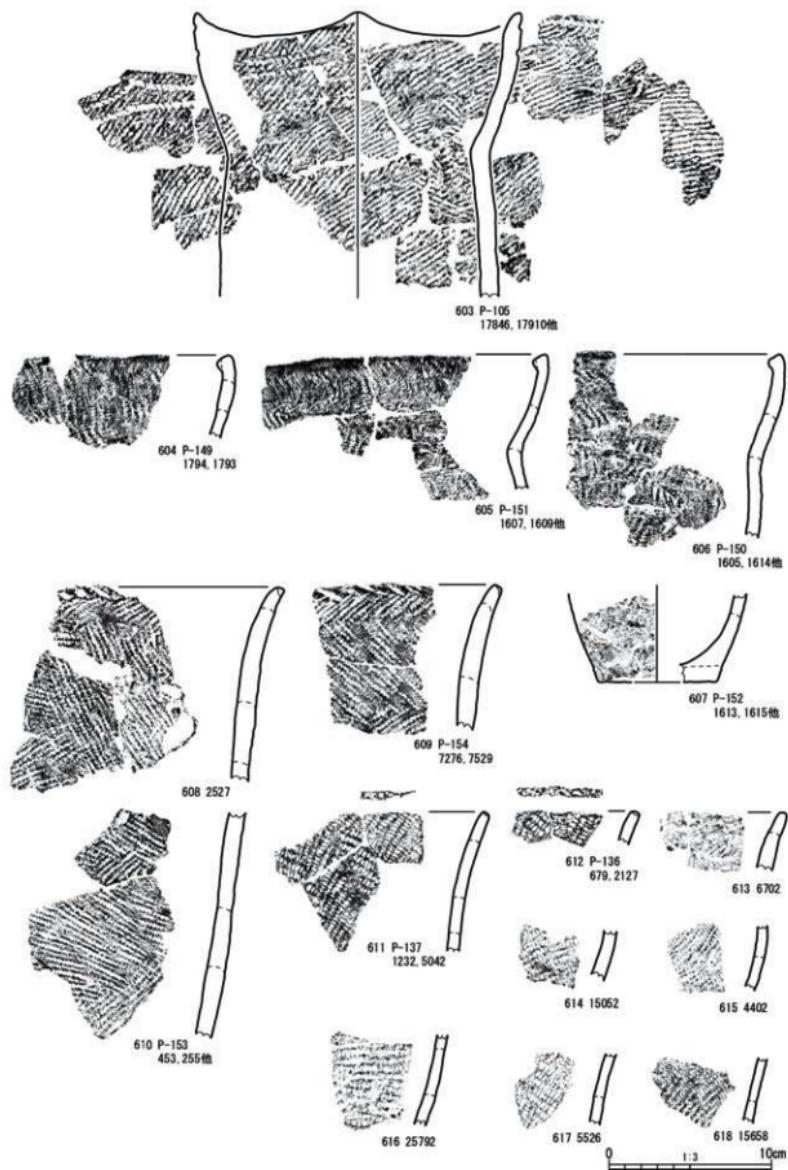
629は外面に屈曲部を持つ胴部下半あるいは底部付近の破片で、不鮮明であるが縄文が確認できる。

630~652は外面にLRまたはRLあるいは両者を施文する。630・631・632・633はわずかに外反して開く口縁部破片である。630・631は口唇部を丸く收め外面にRLの縄文を施文する。632・633は口唇部に面を持ち、632はLR、633はRLの縄文を外面に施文する。640は直線的に開く胴部破片である。外面にRLの縄文を施すが、下端に横位の柳状の施文が認められる。642はわずかに内湾気味に開く胴部破片である。外面にRLの縄文を施しているようだが、器壁の摩耗が著しく詳細な観察は困難である。

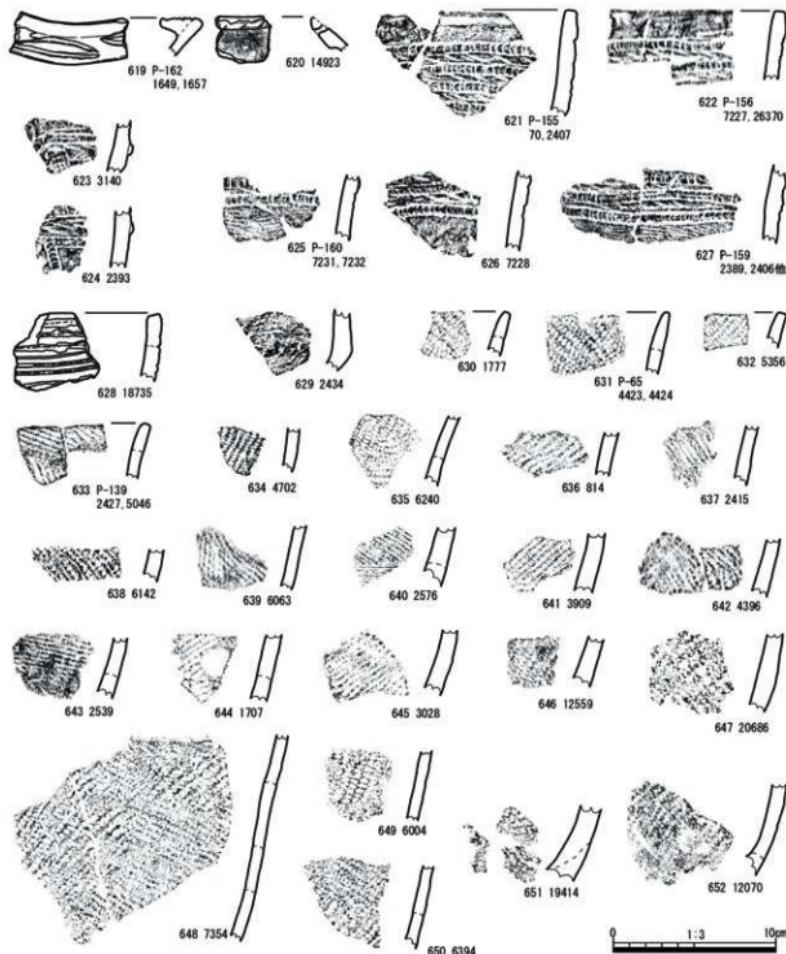
634・635は外反気味に開く胴部破片である。内面はナデ調整により平滑となっているのが特徴的である。635は羽状縄文、634はLRの縄文が施される。636・637・638・639は直線的ないしわずかに外反気味に開く胴部破片である。他のものに比べ器壁がやや薄い。外面に636はLR、637・638・639はRLの縄文を施している。641はわずかに内湾気味に開く胴部破片である。外面にLRの縄文を施している。643・644・645は同一個体と判断される。直線的に開く胴部破片で外面にLRの縄文を施す。647は器壁がやや厚手でわずかに内湾気味に開く胴部破片である。外面にLR及びRLの縄文を施す。646は器壁がやや厚手で直線的に開く胴部破片である。外面にLRの縄文を施す。648・649・650は同一個体と判断される。わずかに湾曲して開く胴部破片で、外面にLRの縄文を不定方向に施文している。

651は分厚い底部付近の破片である。外面に粒の大きな縄文を施文するが、剥落が著しく詳細な観察は困難である。

652は底部付近の破片で、下端はかなり絞り込まれておりちょうど尖底土器の底部に近いが、文様・胎土を勘案してここに含めた。外面にLRの縄文を施文する。



第142図 繩文 II群A・B類土器



第143図 銅文 II群C類土器

III群 中期土器群（第144図）

A類 半截竹管状工具による押引文を施すもの

653は口縁部破片である。口唇部に粘土帯を付加し外面に肥厚させ、口唇部上端に面を持たせる。肥厚部直下には押引文が認められるものの破片のため意匠は不明である。

654は直線的に立ち上がる胴部破片である。押引文3条を横位に施し、その上下に同様の工具を用いたと考えられる波状文が加えられる。

655は胸部破片で、横位及びこれから分岐して弧状に展開する隆帯の脇に幅広の半截竹管状工具による押引文を施す。656は胸部破片で、幅の広い半截竹管状工具による押引文を施すが意匠は不明である。

657は胸部屈曲部破片で、幅の狭い半截竹管状工具による押引文を施すが意匠は不明である。

658は胸部破片で、外面に円形の隆帯を貼付し、周囲に半截竹管状工具による押引文を施す。また外面の摩滅が著しく原体は明確ではないが下半には縄文も施されている。

B類 区画内を平行沈線で充填するもの

659はやや薄手の胸部破片である。細い沈線で区画した内部を平行沈線で充填する。

C類 横帯区画の内部に縄文を施文するもの

660・661はわずかに開いて立ち上がる胸部破片で、同一個体と判断される。660は丁寧にナデ調整された隆帯による横帯区画が認められ、その上部にLR縄文を施す。660に付着した炭化物について放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、 $4,460 \pm 30$ yrBPという結果を得た(附録参照)。

D類 その他

662は胸部破片である。隆帯による半梢円区画に縱位の沈線を充填するいわゆる櫛状文が施文されている。663は胸部破片で、隆帯を組み合わせ意匠を形成する。662・663は井戸尻式の新しい段階のものと考えられる。664は内湾気味に立ち上がる胸部破片である。横位の区画が認められるものの摩耗により詳細な観察は困難である。

665は有孔把手のついた口縁部である。把手の孔は円筒形を呈している。把手部には渦巻状の沈線文が施され、その下部には櫛歯状工具による沈線が施される。曾利式に比定されよう。

IV群 後期土器群(第144・145図)

A類 宮漚式あるいはそれに併行する土器

666・667は同一個体と判断される。突出が少ない底部から中位や上位に最大径をもつわずかにふくらみを持った胸部につながり、わずかに括れをもって外反する口縁部へとつながる。また、口縁部は内側に屈曲し、外面に文様帶を形成している。口唇部は丸く收める。口縁部外面に2条の浅い沈線を施し、この沈線上に隆帯を貼付した部分が1箇所確認できる。667は底面に網代痕が認められる。668・669も同様に底面に網代痕のある底部であり本類に関連するものと判断される。

B類 無文・その他

673・674は同一個体と判断される。丸みを帯びた胸部から内湾して立ち上がる口縁部を有する。口縁端部はわずかに内側に肥厚させ、口唇部に内傾する面を持つ。内外面は横位のミガキ調整が確認できる。

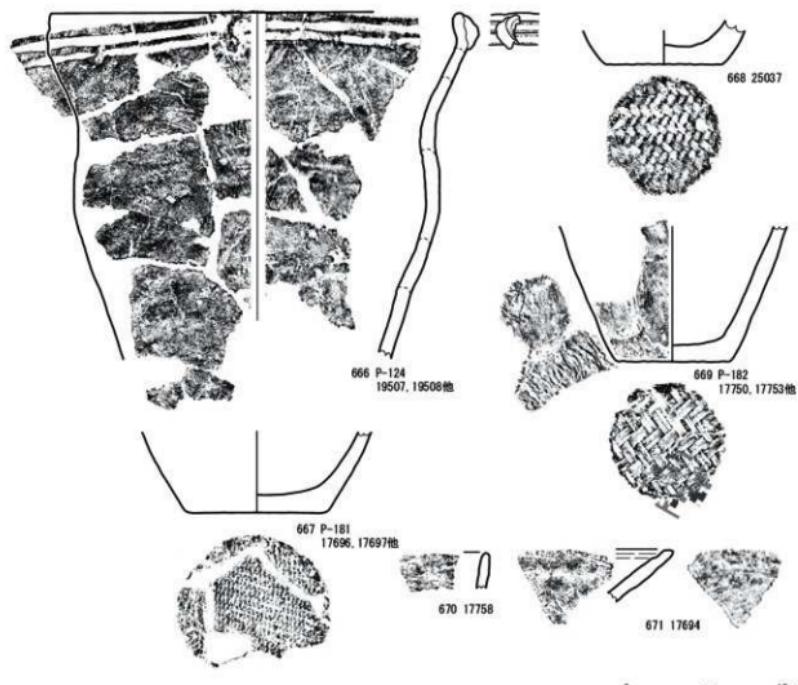
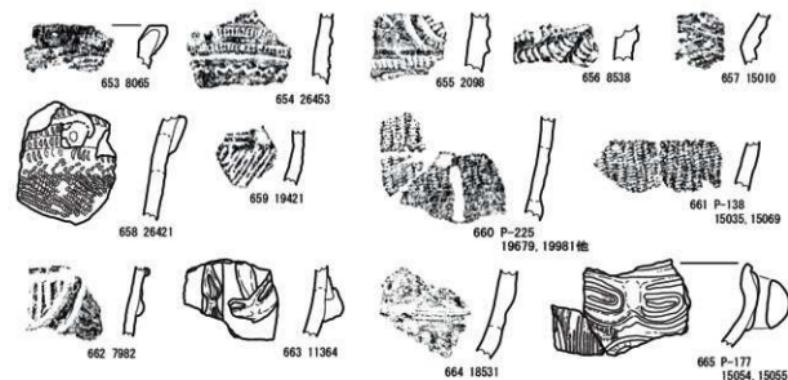
672は丸みを帯びた胸部から内湾して立ち上がる口縁部を有する。口唇部は丸く收める。内外面ともに擦痕状の調整が認められ、炭化物の付着が顕著である。

675は丸みを帯びた胸部から大きく内湾する口縁部を有する。口唇部は明瞭な面を持つ。外面は横位のミガキ調整が確認できる。

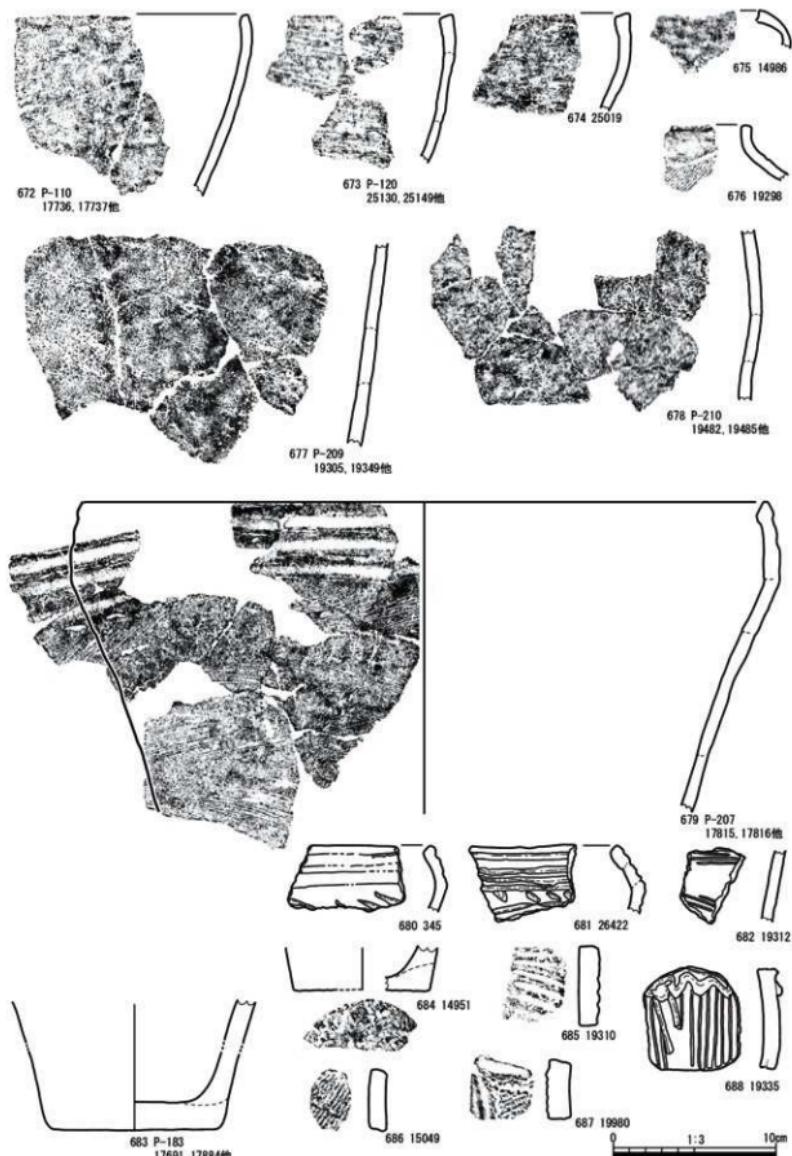
670・671は直線的に開く口縁部破片である。670はほぼ直立して立ち上がり、口唇部は丸く收める。671は外方に大きく開き、口唇部は丸く收める。口縁部内面は直下に凹線を1条巡らせ、横位または斜位のミガキ調整を施す。

676は丸みを帯びた胸部から屈曲して直立した短い口縁部を有し、口唇部は面を持つ。屈曲部下位に横位の沈線区画を施し、以下をLRの縄文で充填、沈線より上の口縁部をミガキ調整する。

677・678は胸部破片である。677は直線的に開き、678は湾曲して開く。いずれも内外面ともに擦痕状の調整が認められる。



第144図 繩文 Ⅲ群土器・Ⅳ群土器 1



第145図 繪文 IV群2・V群・VI群土器

V群 晩期土器群（第145図）

A類 口縁部外面に平行線文、調部に間隔をあけた羽状文を施すもの

679は、わずかに外反して開く胴部から屈曲して立ち上がる口縁部を有する。口唇部は内側にわずかに肥厚させ丸く収める。口縁部外面にナデによる3条の平行線文を施した後、平行線文最上段及び最下段の下位にヘラ状工具による破線文を加える。また、胴部にはヘラ状工具による間隔を空けた横位の羽状文が4段確認できる。復元値で口径42.6cmを計る。

680・681は屈曲して内倒する口縁部破片である。680は口唇部を内側にわずかに肥厚させ丸く収める。口縁部外面にナデによる2条の平行線文を施し、屈曲部直下の胴部には羽状文とみられる右下がりの斜位の沈線が数段確認できる。内面は横方向のヘラミガキにより調整されている。

681は口縁部を内側にわずかに肥厚させ、口唇部に弱い面を持つ。口縁部外面には先端が鋭利でない工具により4条の平行線文を施し、屈曲部には右下がりのキザミ、胴部には羽状文とみられる右上がりの沈線が確認できる。胴部内面には横方向のヘラミガキが確認できる。

682は直線的に開く胴部破片である。外面には羽状文とみられる平行線文が2段確認できる。

VI群 底部・土製品等（第145図）

683・684は底部である。684はやや薄手の底面から厚みをもち上外方に開く胴部下半につながる。底面には網代痕が確認できるため、IV群土器に含まれる可能性があろう。683は上外方に直線的に開く無文の底部である。685・686・687・688はIII群の土器片を転用したと考えられる円盤である。686はRLの繩文を施し、形状は梢円形をしている。687は太い沈線と蛇行する細い沈線で区画とし、中に繩文を充填した土器片を転用し、形状は隅丸方形を呈する。685は右半を欠損するが、隅丸方形を呈する。沈線文を横方向に施す。688は内湾気味に立ち上がる胴部破片を転用する。蛇行する隆帯とそこから垂下する直線的な隆帯を貼付し、櫛歯状の沈線を施している。曾利II式の破片を転用したと考えられる。

第22表 織文 土器集計

		層位											合計	
		追跡 覆土	YL	YLU	ZN	FB	KU	KGP	NSC	AN	黒色土	表揮		
第I群土器 (早期土器群)	A類	押型文	12	1	1	53	1,140	49	2	10	6	13	11	1,298
	B類	撫糸文				1	73					2		76
	C類	弦縞文				5	68	1			3		4	81
	D類	条痕文	12			2	80	1		1		111	1	209
	E類	口縁部外面に横位突帯				80	14	1		14				109
	F類	繩文				1	50	3		1		27		82
第II群土器 (前期土器群)	A類	羽状・单斜縞文				2								2
	C類	爪形文・繩文			4	63	2					9	3	81
	D類	その他												15
第III群土器 (中期土器群)	A類	半纏竹管状工具による 押引文			1	2			1			2		6
	B類	区画内を平行沈線									1			1
	C類	横帶区画内部に繩文				1			2		3			6
	D類	その他				3		3	8					15
第IV群土器 (後期土器群)	A類	官窯式併行						13	20	5				38
	B類	無文・その他						8	8	4		4	1	25
第V群土器 (晩期土器群)	A類	口縁部外面に併行沈線 胴部に羽状文	1			12	2	4	8		1	1	1	30
	B類	底部・土製品等					1	1		2		7	1	12
その他の不明		13		2	52	896	117	14	18	26	100	33	23	1,234
合計		37	2	3	119	2,411	211	53	50	53	260	65	42	3,305

第23表 條文 土器観察表

国際番号	遺物 番号	群・個	時代	分類等	グリット	層位	出土	焼成	色調(内) 色調(外)	接合 AMS 分析 番号	造形名
第131回 381	7812 7813	I A1a	早期	押型文土器	AN-027	ZN	織維底。多量の石英・角閃石・白母子。少量の白色粒子。長石を含む。	良	DYR 6/6 棕色 DYR 6/6 棕色	179	
第131回 382	3512	I A1a	早期	押型文土器	AN-026	FB	織維底少。多量の石英・白母子。少量の紫色粒子。長石を含む。	良	DYR 4/4 にじいろ褐色 DYR 2/2 黑褐色		
第131回 383	6643	I A1a	早期	押型文土器	AN-028	FB	織維底少。多量の白色粒子。石英、角閃石を含む。	良	7.5YR 4/3 棕色 7.5YR 4/3 棕色	10	
第131回 384	25233	I A1a	早期	押型文土器	AN-027	FB	織維底少。多量の石英・白母子。角閃石。少量の紫色粒子。長石を含む。	良	7.5YR 5/4 にじいろ褐色 DYR 5/5 黑褐色		
第131回 385	4879	I A1a	早期	押型文土器	AN-028	FB	織維底。多量の長石・白色粒子、角閃石。赤母子。石英を含む。	良	DYR 6/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 386	5614 5797地	I A1b	早期	押型文土器	AN-027	FB	織維底。多量の長石・角閃石・白色粒子。長石を含む。	良	HOY 3/2 黑褐色 7.5YR 5/3 單褐色	38	
第131回 387	1194 5735地	I A1b	早期	押型文土器	AO-028 AO-029	FB	織維底多。多量の白色粒子。黄石を含む。	良	HOY 3/2 黑褐色 HOY 5/2 灰褐色	47	
第131回 388	5791	I A1b	早期	押型文土器	AO-027	FB	織維底。多量の角閃石。少量の長石・石英・墨玉を含む。	良	7.5YR 5/3 にじいろ褐色 7.5YR 5/3 黑褐色		
第131回 389	3945	I A1b	早期	押型文土器	AO-028	FB	織維底少。多量の白色粒子。石英、赤色斑点を含む。	良	DYR 5/4 にじいろ褐色 DYR 5/5 明褐褐色		
第131回 390	1198 6399	I A1b	早期	押型文土器	AO-027 AN-028	FB	織維底。多量の角閃石・白色粒子。石英を含む。	良	7.5YR 7/6 棕色 7.5YR 7/6 棕色	29	
第131回 391	6497	I A1b	早期	押型文土器	AN-032	FB	織維底。多量の角閃石・蛋白石・少量の長石・赤母子を含む。	良	7.5YR 5/3 にじいろ褐色 7.5YR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 392	3326	I A1b	早期	押型文土器	AN-029	FB	織維底少。多量の白色粒子。少量の角閃石・蛋白石を含む。	良	7.5YR 4/3 棕色 7.5YR 5/1 黑褐色		
第131回 393	632	I A1b	早期	押型文土器	AN-028	KU	多量の長石・角閃石・石英、少量の長石・赤母子を含む。	良	DYR 5/4 にじいろ褐色 DYR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 394	5534 7106地	I A1b	早期	押型文土器	AO-028	FB	織維底少。多量の長石・白色粒子。少量の角閃石を含む。	良	7.5YR 5/6 黑褐色 7.5YR 5/2 黑褐色	50	
第131回 395	6201	I A2a	早期	押型文土器	AN-028	FB	多量の長石・角閃石。黄石を含む。	良	DYR 4/6 黑褐色 DYR 4/6 黑褐色		
第131回 396	4450	I A2a	早期	押型文土器	AO-028	FB	織維底少。多量の白色粒子・赤母子。蛋白石、少量の黄石・赤母子を含む。	良	DYR 5/4 にじいろ褐色 DYR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 397	6538	I A2a	早期	押型文土器	AN-028	FB	織維底。多量の蛋白石・白色粒子。石英、黄石、角閃石、少量の赤母子を含む。	良	DYR 5/5 彩色褐色 DYR 4/2 彩色褐色		
第131回 398	2616	I A2a	早期	押型文土器	AO-024	FB	織維底。多量の石英・黄石・蛋白石・白色粒子。少量の赤母子を含む。	良	HOY 7/4 にじいろ褐色 HOY 6/3 にじいろ褐色		
第131回 399	4720	I A2a	早期	押型文土器	AN-029	FB	織維底少。多量の角閃石・蛋白石・黄石。少量の角閃石・蛋白石を含む。	良	7.5YR 4/2 彩色褐色 7.5YR 4/2 黑褐色		
第131回 400	1786	I A2a	早期	押型文土器	AO-027	FB	織維底。角閃石。白色粒子。赤色粒子を含む。	良	7.5YR 4/4 棕色 7.5YR 4/6 棕色		
第131回 401	36596	I A2a	早期	押型文土器	AN-028	表層	織維底。多量の蛋白石・角閃石・少量の黄石を含む。	良	HOY 6/3 にじいろ褐色 7.5YR 6/4 にじいろ褐色		
第131回 402	5964	I A2a	早期	押型文土器	AN-028	FB	織維底。多量の石英・角閃石・黄石。白色粒子。少量の赤母子を含む。	良	7.5YR 6/4 にじいろ褐色 7.5YR 6/4 にじいろ褐色		
第131回 403	27804	I A2a	早期	押型文土器	AO-026	FB	織維底少。多量の長石・石英・白色粒子。少量の蛋白石を含む。	良	HOY 5/3 にじいろ褐色 HOY 5/3 にじいろ褐色		
第131回 404	12882	I A2a	早期	押型文土器	U-010	FB	織維底少。白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/3 棕色		
第131回 405	12476	I A2a	早期	押型文土器	T-009	FB	織維底。多量の石英・白色粒子。角閃石、蛋白石、少量の蛋白石を含む。	良	DYR 5/4 にじいろ褐色 DYR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 406	931 1242地	I A2b	早期	押型文土器	AO-027	FB	織維底少。多量の長石・角閃石・白色粒子。白色粒子・黄石を含む。少量の石英を含む。	良	7.5YR 5/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/4 にじいろ褐色	1	
第131回 407	1233	I A2b	早期	押型文土器	AO-028	FB	織維底少。多量の白色粒子。角閃石。少量の赤母子を含む。	良	7.5YR 5/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 408	9306	I A2b	早期	押型文土器	AC-035	FB	織維底。多量の蛋白石・白色粒子。角閃石。少量の赤母子を含む。	良	7.5YR 5/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 409	5608 26411	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	表層	織維底。多量の蛋白石・白色粒子。角閃石。少量の赤母子を含む。	良	7.5YR 6/4 にじいろ褐色 7.5YR 6/4 にじいろ褐色		
第131回 410	6778	I A2b	早期	押型文土器	AN-032	FB	織維底少。多量の白色粒子。角閃石・黄石。白色粒子。少量の角閃石を含む。	良	7.5YR 5/3 にじいろ褐色 7.5YR 5/3 にじいろ褐色		
第131回 411	6516	I A2b	早期	押型文土器	AN-027	FB	織維底少。多量の白色粒子。角閃石。少量の赤母子を含む。	良	7.5YR 5/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/4 にじいろ褐色		
第131回 412	5469	I A2b	早期	押型文土器	AO-023	FB	織維底少。多量の蛋白石・白色粒子。角閃石。少量の赤母子を含む。	良	7.5YR 5/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/3 にじいろ褐色	42	
第131回 413	11891 13358	I A2b	早期	押型文土器	T-009 U-009	FB	織維底少。多量の蛋白石・角閃石。少量の角閃石・蛋白石。白色粒子を含む。	良	HOY 5/3 にじいろ褐色 HOY 4/2 彩色褐色		
第131回 414	20294	I A2b	早期	押型文土器	U-015	FB	織維底少。多量の蛋白石・角閃石・白色粒子。少量の蛋白石を含む。	良	7.5YR 4/2 彩色褐色 7.5YR 6/3 白色		
第131回 415	20359	I A2b	早期	押型文土器	X-014	FB	織維底少。多量の白色粒子。角閃石。石英。白色粒子・黄石を含む。	良	7.5YR 5/3 にじいろ褐色 7.5YR 5/3 にじいろ褐色		
第131回 416	6183	I A2b	早期	押型文土器	AO-027	FB	織維底少。多量の蛋白石・白色粒子。少量の石英を含む。	良	7.5YR 4/1 黑褐色 7.5YR 5/3 にじいろ褐色		
第131回 417	1070	I A2b	早期	押型文土器	AO-028	FB	多量の角閃石・黄石・白色粒子を含む。	良	7.5YR 3/3 單褐色 7.5YR 4/3 にじいろ褐色	4	
第131回 418	2270 2528地	I A2b	早期	押型文土器	AN-029	FB	多量の白色粒子・角閃石・黄石・白色粒子を含む。	良	HOY 5/3 にじいろ褐色 7.5YR 5/2 黑褐色		
第131回 419	12860 13249	I A2b	早期	押型文土器	U-009	FB	織維底少。多量の蛋白石・白色粒子。少量の石英を含む。	良	7.5YR 6/4 にじいろ褐色 7.5YR 5/3 にじいろ褐色	43	
第131回 420	3130	I A2b	早期	押型文土器	AN-027	FB	織維底少。多量の白色粒子・蛋白石・黄石。少量の赤母子を含む。	良	HOY 4/2 彩色褐色 HOY 4/2 彩色褐色		
第131回 421	12367	I A2b	早期	押型文土器	U-009	FB	織維底少。多量の白色粒子・蛋白石・黄石を含む。	良	HOY 5/3 にじいろ褐色 HOY 5/3 にじいろ褐色		
第131回 422	8803	I A2b	早期	押型文土器	AJ-024	複数	織維底。多量の石英・白色粒子。黄石を含む。	良	DYR 5/3 にじいろ褐色 DYR 6/6 棕色		

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	部位	出土	地城	色調(内) 色調(外)	接合	AMS 分析 番号	遺構名	
第134回 423	3336	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	FB	繩彌底。多量の長石・白色粒子、少量の石英・角閃石を含む。	良	IOTH 6/4 IOTH 6/4	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色			
第134回 424	5690	I A2b	早期	押型文土器	AM-029	FB	繩彌底。多量の具石。白色粒子、角閃石、少量の石英を含む。	良	SYR 5/6 SYR 3/4	明赤褐色 暗赤褐色			
第134回 425	866	I A2b	早期	押型文土器	AO-029	FB	繩彌底。多量の具石・角閃石、石英を含む。	良	SYR 6/6 SYR 3/2	橙色 暗赤褐色			
第134回 426	4214	I A2b	早期	押型文土器	AO-028	FB	繩彌底。多量の長石・白色粒子、石英を含む。	良	IOTH 6/4 IOTH 7/4	に赤い黄褐色 に赤い褐色	3		
第134回 427	4465	I A2b	早期	押型文土器	AN-027	FB	繩彌底。多量の具石・角閃石・長石・青白岩片を含む。	良	SYR 5/4 SYR 5/4	に赤い褐色 に赤い褐色	6		
第134回 428	2544	I A2b	早期	押型文土器	AN-031	FB	繩彌底。多量の石英・白色粒子・漂母、非赤色を含む。	良	SYR 4/2 IOTH 4/2	灰褐色 に赤い黄褐色			
第134回 429	6474	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	FB	繩彌底。多量の具石・白色粒子、少量の石英を含む。	良	SYR 5/1 SYR 5/2	黑褐色 灰褐色			
第134回 430	2256	I A2b	早期	押型文土器	AN-029	FB	繩彌底。多量の具石・長石・漂母を含む。	良	IOTH 3/3 IOTH 3/2	暗赤褐色 暗褐色	37	11	
第134回 431	5337	I A2b	早期	押型文土器	AO-028	FB	繩彌底。多量の具石・角閃石・長石・白色粒子、少量の石英・赤色岩片を含む。	良	SYR 6/6 SYR 5/2	橙色 黑褐色	5		
第134回 432	14264	I A2b	早期	押型文土器	T-010	造構 覆土	多量のコヨニア・白色粒子・漂母、角閃石を含む。	良	SYR 4/6 SYR 4/6	赤褐色 赤褐色	1号堅穴状 造構		
第134回 433	12266	I A2b	早期	押型文土器	T-009	FB	繩彌底。多量の白色粒子、角閃石、少量の具石を含む。	良	SYR 4/2 SYR 4/2	灰褐色 灰褐色			
第134回 434	2579	I A2b	早期	押型文土器	AL-024	FB	多量の具石・角閃石・白色粒子、少量の漂母を含む。	良	SYR 5/4 IOTH 5/4	に赤い褐色 に赤い黄褐色			
第134回 435	12249	I A2b	早期	押型文土器	U-009	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・石英・長石を含む。	良	SYR 5/6 IOTH 4/2	明赤褐色 灰褐色	15		
第134回 436	6758	I A2b	早期	押型文土器	AN-027	ZN	繩彌底。多量の具石・角閃石・白色粒子・漂母、長石、漂母を含む。	良	SYR 5/3 IOTH 3/2	に赤い褐色 暗褐色			
第134回 437	3887	I A2b	早期	押型文土器	AN-029	FB	繩彌底。多量の具石・角閃石・漂母、石英、白色粒子、少量の漂母を含む。	良	SYR 6/4 IOTH 5/4	に赤い褐色 に赤い黄褐色			
第134回 438	6487	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	FB	繩彌底。多量の白色粒子、漂母、角閃石を含む。	良	SYR 6/6 SYR 4/2	橙色 灰褐色			
第134回 439	12587	I A2b	早期	押型文土器	U-009	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・石英・長石を含む。少量の赤色岩片を含む。	良	SYR 5/4 IOTH 5/4	に赤い褐色 暗褐色			
第134回 440	843	I A2b	早期	押型文土器	AO-028	FB	繩彌底。多量の具石・石英・角閃石・白色粒子・漂母、白色粒子、少量の漂母を含む。	良	SYR 6/4 SYR 5/4	に赤い褐色 に赤い黄褐色			
第134回 441	3002	I A2b	早期	押型文土器	AN-027	FB	繩彌底。多量の具石・漂母、白色粒子、角閃石を含む。	良	IOTH 5/3 IOTH 5/3	に赤い褐色 に赤い褐色			
第134回 442	14211	I A2b	早期	押型文土器	U-009	造構 覆土	多量の具石・漂母・石英・角閃石を含む。	良	SYR 5/4 IOTH 5/4	に赤い褐色 暗褐色	17号堅石		
第134回 443	4388	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・石英・角閃石・白色粒子・角閃石を含む。	良	IOTH 5/3 IOTH 5/3	に赤い黄褐色 灰褐色	219		
第134回 444	7222	I A2b	早期	押型文土器	AK-036	FB	繩彌底。多量の白色粒子・長石、少量の石英を含む。	良	SYR 4/3 SYR 5/1	褐色 黑褐色			
第134回 445	12994	I A2b	早期	押型文土器	U-009	FB	繩彌底。多量の具石・白色粒子、角閃石、少量の赤色岩片を含む。	良	SYR 6/6 SYR 6/6	橙色 橙色			
第134回 446	4453	I A2b	早期	押型文土器	AO-027	FB	繩彌底。多量の白色粒子・具石・漂母、少量の赤色粒子を含む。	良	SYR 4/6 SYR 4/6	赤褐色 褐色			
第134回 447	6842	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・白色粒子・角閃石を含む。	良	SYR 4/6 SYR 5/2	赤褐色 黑褐色	26		
第135回 448	11293	I A2b	早期	押型文土器	V-010 20643B	FB	繩彌底。多量の白色粒子・角閃石、漂母、少量の石英を含む。	良	SYR 6/6 SYR 7/6	橙色 橙色	2	1	
第135回 449	14493	I A2b	早期	押型文土器	V-011	FB	繩彌底。多量のコヨニア・白色粒子、漂母、角閃石、少量の石英を含む。	良	SYR 5/4 SYR 5/4	に赤い褐色 に赤い褐色	102		
第135回 450	11294	I A2b	早期	押型文土器	V-010	FB	繩彌底。白色粒子、石英を含む。	良	SYR 5/4 IOTH 5/4	に赤い褐色 に赤い黄褐色			
第135回 451	14270	I A2b	早期	押型文土器	T-010	造構 覆土	多量の具石・漂母・石英・角閃石を含む。	良	SYR 3/4 SYR 3/4	暗赤褐色 暗赤褐色	1号堅穴状 造構		
第135回 452	29993	I A2b	早期	押型文土器	W-014	FB	繩彌底。多量の具石・白色粒子、角閃石、少量の具石・漂母・石英を含む。	良	SYR 4/3 SYR 4/3	褐色 褐色	土坑249		
第135回 453	14100	I A2b	早期	押型文土器	T-010	造構 覆土	繩彌底。多量の白色粒子・具石を含む。	良	SYR 6/6 SYR 6/4	橙色 暗褐色	104	2	土坑258
第135回 454	2297	I A2b	早期	押型文土器	AM-029 AN-028 AO-029	FB	繩彌底。多量の白色粒子・長石、少量の石英・漂母を含む。	良	SYR 7/6 SYR 5/4	橙色 に赤い褐色	52		
第135回 455	14287	I A2b	早期	押型文土器	T-010	造構 覆土	繩彌底。赤色粒子・少量の具石・角閃石を含む。	中	SYR 6/6 IOTH 5/4	に赤い褐色 に赤い黄褐色	1号堅穴状 造構		
第135回 456	5517	I A2b	早期	押型文土器	AO-027	FB	繩彌底。多量の白色粒子・赤色粒子、少量の石英を含む。	良	SYR 6/6 SYR 7/6	橙色 橙色			
	7841				AD-027 AE-028 EJ	KU	繩彌底。多量の具石・白色粒子・スコリア、角閃石、漂母、石英を含む。	良	SYR 5/6 SYR 6/6	明赤褐色 橙色	118		
第135回 457	25184	I A2b	早期	押型文土器	AN-028	FB	繩彌底。多量の白色粒子・角閃石、漂母、石英を含む。	良	SYR 4/3 SYR 6/6	に赤い褐色 暗褐色	190		
	25185				AO-029		繩彌底。多量の白色粒子・漂母を含む。	良	SYR 5/6 SYR 6/6	明赤褐色 橙色			
第135回 458	12982	I A2b	早期	押型文土器	V-009	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・白色粒子、角閃石、少量の石英を含む。	良	SYR 6/6 SYR 7/6	橙色 暗褐色			
第135回 459	358	I A2b	早期	押型文土器	AM-028 AN-029	ZN	繩彌底。多量の白色粒子・漂母を含む。	良	SYR 6/6 SYR 7/6	橙色 暗褐色			
第135回 460	2412	I A2b	早期	押型文土器	AM-030	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・白色粒子、少量の石英・白色粒子を含む。	良	SYR 5/6 SYR 6/6	明赤褐色 橙色			
第135回 461	4199	I A2b	早期	押型文土器	P-191	FB	繩彌底。多量の具石・漂母・白色粒子、少量の石英・赤色粒子を含む。	良	SYR 5/6 SYR 5/6	明赤褐色 橙色	191		
	4454				4724		繩彌底。多量の具石・漂母を含む。	良					

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	部位	鉱土	地成	色調(内) 色調(外)	接合	AMS 分析 番号	遺物名
第136回 462	6113	I A2c	早期	押型文土器	AO-029	FB	織錦底少、多量の白色粒子、貝石、角石を含む。	良	SYR 4/3 に近い赤褐色 7.5YR 4/3 褐色			
第136回 463	9350	I A2c	早期	押型文土器	AC-026	FB	織錦底。多量の貝石、少量の砂礫を含む。	良	7.5YR 4/3 に近い赤褐色 7.5YR 3/3 塗褐色			
第136回 464	6323	I A2c	早期	押型文土器	AN-028	FB	織錦底。多量の石英、貝石、雲母、白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/3 に近い赤褐色 10YR 7/3 に近い黄色色			
第136回 465	8962	I A2c	早期	押型文土器	AD-026	FB	織錦底。多量の貝石、白色粒子、赤色粒子を含む。	良	10YR 7/3 に近い黄色色 10YR 7/3 に近い黄色色	192		
第136回 466	2339	I A2d	早期	押型文土器	AM-028	AL-028	FB	織錦底。多量の石英、貝石、白色粒子を含む。	良	7.5YR 3/3 塗褐色 7.5YR 3/4 に近い褐色	187	
第136回 467	1634	I A2d	早期	押型文土器	AN-027	FB	織錦底。多量の石英、貝石、白色粒子を含む。	良	7.5YR 3/6 明褐色 SYR 5/6 明褐色			
第136回 468	5552	I A2d	早期	押型文土器	AN-028	FB	織錦底。多量の白色粒子、角石を含む。	良	10YR 4/2 灰褐色 10YR 4/2 灰褐色			
第136回 469	2574	I A2d	早期	押型文土器	AN-026	FB	多量の角閃石・白色粒子、少量の貝石、石英を含む。	良	10YR 3/2 黒褐色 7.5YR 5/6 明褐色			
第136回 470	2534	I A2d	早期	押型文土器	AM-028	FB	織錦底。多量の石英、貝石、白色粒子を含む。	良	GYR 4/6 明褐色 2.5YR 5/8 明褐色			
第136回 471	253	I A2d	早期	押型文土器	AN-028	KU	織錦底。多量の雲母、貝石、角閃石、白色粒子、少量の黒色粒子、少量の石英を含む。	良	SYR 6/6 棕色 SYR 6/6 棕色			
第136回 472	2024	I A2d	早期	押型文土器	AM-027	FB	織錦底。多量の石英、貝石、白色粒子を含む。	良	2.5YR 5/8 明褐色 SYR 4/3 に近い褐色			
第136回 473	6054	I A2d	早期	押型文土器	AD-028	FB	織錦底。多量の角閃石、白色粒子、石英、少量の長石、赤色粒子を含む。	良	7.5YR 6/4 に近い褐色 7.5YR 6/6 棕色			
第136回 474	351	I A2d	早期	押型文土器	AM-028	KU	織錦底。多量の白色粒子、摩耳、少量の雲母、スコリヤを含む。	良	10YR 5/4 に近い黄色色 10YR 4/5 に近い黄色色	56		
第136回 475	1007	I A2d	早期	押型文土器	AD-027	FB	織錦底。少、白色粒子、貝石、少量の石英を含む。	良	10YR 6/4 に近い黄色色 10YR 5/2 灰褐色			
第136回 476	2573	I A2d	早期	押型文土器	AF-026	FB	織錦底。少、白色粒子、貝石、少量の石英を含む。	良	10YR 6/5 に近い黄色色 10YR 7/3 に近い黄色色			
第136回 477	1478	I A2d	早期	押型文土器	AD-029	FB	織錦底。少、白色粒子、貝石、少量の石英を含む。	良	10YR 6/4 に近い黄色色 10YR 5/2 棕色	186		
第136回 478	11849	I A3	早期	押型文土器	T-009	FB	織錦底。少、多量の角閃石・雲母・貝石、少量の白鈍粒を含む。	良	7.5YR 4/3 黑褐色 7.5YR 4/3 明褐色	40		
第136回 479	12255	I A3	早期	押型文土器	T-009	FB	織錦底。少、多量の角閃石・石英・雲母・白鈍粒、少量の貝石を含む。	良	SYR 5/6 明褐色 SYR 5/7 黑褐色			
第136回 480	4723	I A3	早期	押型文土器	AN-029	FB	織錦底。多量の白色粒子、貝石、少量の白色粒子を含む。	良	7.5YR 3/1 黑褐色 10YR 4/3 に近い黄色色	35		
第136回 481	819	I A3	早期	押型文土器	AN-031	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、少量の白色粒子を含む。	良	10YR 3/2 塗褐色 10YR 4/4 黑褐色			
第136回 482	6510	I A3	早期	押型文土器	AN-027	FB	織錦底。多量の白色粒子・長石、少量の石英を含む。	良	10YR 3/1 黑褐色 10YR 4/2 灰褐色	36		
第136回 483	6651	I A3	早期	押型文土器	AN-029	ZN	織錦底。多量の白色粒子・長石、少量の石英を含む。	良	SYW 5/4 に近い黄色色 SYR 4/3 に近い褐色			
第136回 484	13590	I A3	早期	押型文土器	U-009	FB	織錦底。多量の白色粒子、石英、少量の白色粒子を含む。	良	SYW 5/4 に近い黄色色 SYR 4/3 に近い褐色			
第136回 485	11713	I A3	早期	押型文土器	T-009	FB	織錦底。多量の角閃石・貝石、白色粒子、少量の赤色粒子を含む。	良	7.5YR 5/6 明褐色 7.5YR 5/6 明褐色			
第136回 486	254	I A3	早期	押型文土器	AN-028	KU	織錦底。多量の角閃石・石英、白色粒子、白色粒子を含む。	良	SYR 6/4 に近い黄色色 7.5YR 7/6 棕色			
第136回 487	2180	I A3	早期	押型文土器	AN-029	FB	織錦底。多量の白色粒子、貝石、少量の石英を含む。	良	2.5YR 5/6 明褐色 2.5YR 5/6 明褐色	46		
第136回 488	2180a	I A3	早期	押型文土器	AN-029	ZN	織錦底。多量の白色粒子、貝石、少量の石英を含む。	良	10YR 6/4 に近い黄色色 10YR 7/4 に近い褐色			
第136回 489	2232	I A3	早期	押型文土器	AM-029	FB	織錦底。多量の貝石、白色粒子、石英、少量の白色粒子を含む。	良	10YR 6/4 に近い黄色色 10YR 7/4 に近い褐色			
第136回 490	7437	I A3	早期	押型文土器	AL-027	FB	織錦底。少、貝石、角閃石、少量の白色粒子を含む。	良	GYR 5/6 明褐色 SYR 5/4 に近い黄色色			
第136回 491	4420	I A3	早期	押型文土器	AM-028	FB	織錦底。少、貝石、角閃石、少量の白色粒子を含む。	良	GYR 5/4 に近い黄色色 SYR 4/4 に近い黄色色			
第136回 492	2258	I A3	早期	押型文土器	AD-029	FB	織錦底。少、貝石、角閃石、少量の白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/4 に近い褐色 10YR 3/2 塗褐色	41		
第136回 493	4469	I A3	早期	押型文土器	AN-029	ZN	織錦底。多量の貝石、角閃石、少量の白色粒子を含む。	良	10YR 6/4 に近い黄色色 10YR 4/2 灰褐色			
第136回 494	6751	I A3	早期	押型文土器	AN-029	AN	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子を含む。	良	10YR 4/1 黑褐色 10YR 6/4 に近い褐色			
第136回 495	4867	I A3	早期	押型文土器	T-009	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、石英、少量の白色粒子を含む。	良	10YR 5/3 塗褐色 10YR 6/4 に近い褐色			
第136回 496	13234	I A3	早期	押型文土器	V-009	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、少量の白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/4 に近い褐色 10YR 6/4 に近い褐色			
第136回 497	7722	I A3	早期	押型文土器	AD-028	FB	織錦底。多量の白色粒子、少量の長石を含む。	良	10YR 7/4 に近い褐色 10YR 7/4 に近い褐色			
第136回 498	11352	I A3	早期	押型文土器	U-009	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、少量の長石を含む。	良	7.5YR 6/4 に近い褐色 10YR 6/4 に近い褐色			
第136回 499	11330	I A3	早期	押型文土器	V-009	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、少量の長石を含む。	良	7.5YR 5/4 に近い褐色 10YR 7/6 黑褐色			
第136回 500	14007	I A3	早期	押型文土器	T-009	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、少量の長石を含む。	良	7.5YR 6/4 に近い褐色 10YR 6/4 に近い褐色			
第136回 501	8708	I B1	早期	押型文土器	AL-023	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、少量の長石を含む。	良	7.5YR 5/4 に近い褐色 10YR 5/4 に近い褐色			
第136回 502	2580	I B1	早期	押型文土器	AM-024	FB	織錦底。多量の貝石、角閃石、白色粒子、少量の長石を含む。	良	7.5YR 5/4 に近い褐色 7.5YR 5/5 黑褐色			
第136回 503	11023	I B1	早期	押型文土器	W-010	FB	織錦底。少、貝石、角閃石、白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/5 に近い褐色 10YR 5/5 に近い褐色	71		
第136回 504	10347	I B1	早期	押型文土器	V-008	FB	織錦底。少、貝石、角閃石、白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/2 黑褐色 7.5YR 4/2 黑褐色			

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	部位	形状	地色	色調(内) 色調(外)	接合	AMS 分析番号	遺構名
第137国 542	10270 10999	I BI	早期	撫木文土器	W-009 Z-009	FB	織紋底。多量の白色粒子、角閃石、黒色粒子を含む。	良	GYR 5.6 明赤褐色 GYR 4.6 黄色	216		
第137国 543	11060	I BI	早期	撫木文土器	W-010	FB	織紋底。多量の白色粒子、角閃石、少量の黒色粒子、赤色粒子を含む。	良	GYR 5.6 明赤褐色 GYR 4.3 黄色			
第137国 544	10947 10955	I BI	早期	撫木文土器	X-009	FB	織紋底少。多量の白色粒子、角閃石を含む。	良	GYR 5.6 明赤褐色 GYR 4.3 黄色	220		
第137国 545	11049	I BI	早期	撫木文土器	W-009	FB	織紋底。スコリア、白色粒子を含む。	良	GYR 6.0 に赤い黄褐色 GYR 5.6 に赤い黄褐色			
第137国 546	4746 4747	I BI	早期	撫木文土器	AO-029	FB	織紋底。多量の青母、角閃石、石英、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 5.4 に赤い褐色 GYR 5.1 黑褐色	59		
第137国 547	11053	I BI	早期	撫木文土器	AO-027	FB	織紋底少。多量の白色粒子、角閃石を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 5.4 に赤い黄褐色			
第137国 548	1789	I BI	早期	撫木文土器	AO-027	FB	織紋底少。白い粒子、角閃石を含む。	良	GYR 5.6 に赤い黄褐色 GYR 5.6 に赤い黄褐色			
第137国 549	2620	I BI	早期	撫木文土器	AN-029	FB	織紋底少。多量の白色粒子、角閃石、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 4.4 に赤い黄褐色 GYR 4.4 に赤い黄褐色			
第137国 550	1245	I BI	早期	撫木文土器	AO-027	FB	織紋底。多量の青母、角閃石、石英、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 5.0 墓陶色 GYR 4.3 黄褐色			
第137国 551	6745	I BI	早期	撫木文土器	AN-032	FB	織紋底。多量の共晶石、輝石、雲母、少量の石英を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 5.1 黑褐色			
第137国 552	5982	I BI	早期	撫木文土器	AO-029	FB	織紋底少。多量の白色粒子、スコリア、少量の角閃石を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 5.4 に赤い黄褐色			
第137国 553	10350	I BI	早期	撫木文土器	T-010	FB	織紋底少。多量の白色粒子、少量の角閃石、共晶石、赤色粒子を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 5.4 に赤い黄褐色			
第137国 554	13500	I BI	早期	撫木文土器	T-009	FB	織紋底。スコリア、白色粒子、少量の共晶石、角閃石を含む。	良	GYR 4.2 黄褐色 GYR 4.0 に赤い黄褐色	4		
第137国 555	5714	I BI	早期	撫木文土器	AN-029	FB	織紋底。多量の青母、角閃石、石英、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 6.4 に赤い黄褐色 GYR 4.4 に赤い黄褐色			
第137国 556	6794	I BI	早期	撫木文土器	AM-031	FB	織紋底。多量の白色粒子、少量の共晶石、石英を含む。	良	GYR 6.4 に赤い黄褐色 GYR 5.1 黑褐色			
第137国 557	2146	I BI	早期	撫木文土器	AN-028	FB	織紋底。多量のスコリア、角閃石、雲母を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 4.2 黄褐色			
第137国 558	7384	I BI	早期	撫木文土器	AN-032	ZN	織紋底少。多量の白色粒子、少量の石英、共晶石、辉石を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 4.4 に赤い黄褐色			
第137国 559	5669	I BI	早期	撫木文土器	AO-027	FB	織紋底。多量の白色粒子、黑色粒子、スコリア、少量の角閃石を含む。	良	GYR 6.0 棕褐色 GYR 5.6 に赤い黄褐色			
第137国 560	1869	I BI	早期	撫木文土器	AO-029	FB	織紋底。多量の白色粒子、スコリア、黑色粒子、共晶石、少量の角閃石を含む。	良	GYR 6.6 に赤い黄褐色 GYR 5.3 に赤い黄褐色			
第137国 561	10348	I BI	早期	撫木文土器	U-011	FB	織紋底。多量の白色粒子、少量の石英、共晶石、角閃石を含む。	良	GYR 6.0 に赤い黄褐色 GYR 4.2 黄褐色			
第137国 562	3334	I BI	早期	撫木文土器	AN-027	FB	織紋底少。少量の角閃石、白色粒子、共晶石、少量の石英を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 3.2 棕褐色			
第137国 563	4699	I BI	早期	撫木文土器	AN-028	FB	織紋底。多量の白色粒子、石英、少量の共晶石を含む。	良	GYR 6.4 に赤い黄褐色 GYR 5.2 黄褐色	7		
第137国 564	1246	I BI	早期	撫木文土器	AO-027	FB	織紋底。多量の白色粒子、少量の青母、角閃石を含む。	良	GYR 6.6 棕褐色 GYR 5.4 に赤い黄褐色			
第137国 565	10340 他	I BI	早期	撫木文土器	U-009 U-010 W-009	FB	織紋底。赤色粒子、少量のスコリア、白色粒子を含む。	良	GYR 6.3 に赤い黄褐色 GYR 4.2 黄褐色	97		
第137国 566	6711	I BI	早期	撫木文土器	AM-032	FB	織紋底少。多量の白色粒子、少量の石英、共晶石、共晶石、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 5.6 明赤褐色			
第137国 567	3035	I BI	早期	撫木文土器	AN-027	FB	織紋底。多量の青母、角閃石、共晶石、辉石を含む。	良	GYR 3.2 黑褐色 GYR 4.3 黄褐色			
第137国 568	12556	I BI	早期	撫木文土器	T-009	FB	織紋底。多量の青母、角閃石、石英、少量の共晶石を含む。	良	GYR 4.4 に赤い黄褐色 GYR 4.0 に赤い黄褐色	72		
第137国 569	3555	I BI	早期	撫木文土器	AN-027	FB	織紋底。角閃石、白色粒子、少量の共晶石、青母、共晶石、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 5.0 に赤い黄褐色			
第137国 570	1644	I BI	早期	撫木文土器	AN-027	FB	織紋底。多量の白色粒子、少量の角閃石、共晶石、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 6.6 棕褐色 GYR 4.3 黄褐色			
第137国 571	4463	I BI	早期	撫木文土器	AO-027	FB	織紋底。多量の白色粒子、少量の青母、角閃石を含む。	良	GYR 6.6 に赤い黄褐色 GYR 5.4 に赤い黄褐色			
第137国 572	12161 12450	I BI	早期	撫木文土器	T-009	FB	織紋底。多量の青母、角閃石、共晶石、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 5.4 に赤い黄褐色 GYR 4.6 黄褐色	96		
第137国 573	1663	I BI	早期	撫木文土器	AN-027	FB	織紋底。白色粒子、少量の角閃石を含む。	良	GYR 6.4 に赤い棕褐色 GYR 4.2 黄褐色			
第137国 574	3033	I BI	早期	撫木文土器	AN-027	FB	織紋底。青母、共晶石、少量の赤色粒子、石英を含む。	良	GYR 6.4 に赤い黄褐色 GYR 5.6 に赤い黄褐色			
第137国 575	2132 1782	I BI	早期	撫木文土器	AN-028	FB	織紋底。多量の共晶石、石英、青母、少量の白色粒子を含む。	良	GYR 7.5 に赤い黄褐色 GYR 7.2 に赤い黄褐色	226		
第138国 576	5057	I CI	早期	沈羅文土器	AM-028	FB	織紋底少。多量の青母、白色粒子、共晶石、少量の石英を含む。	良	GYR 5.3 に赤い黄褐色 GYR 6.5 に赤い黄褐色			
第138国 577	1451 2572他	I CI	早期	沈羅文土器系	AM-026 AN-027 AN-029	FB	織紋底。少量の長石、青母、白色粒子、石英、角閃石、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 7.4 に赤い棕褐色 GYR 5.3 に赤い黄褐色	193		
第138国 578	8064	I CI	早期	沈羅文土器系	AI-026	ZN	織紋底。多量の長石、石英、青母、白色粒子、少量の赤色粒子を含む。	良	GYR 7.4 に赤い黄褐色 GYR 5.6 に赤い黄褐色			
第138国 579	7407	I CI	早期	沈羅文土器系	AM-025	FB	織紋底。石英、青母、少量の白色粒子、共晶石、少量の白色粒子を含む。	良	GYR 6.6 棕褐色 GYR 5.2 黄褐色			
第138国 580	7261	I CI	早期	沈羅文土器系	AL-028	FB	織紋底。多量の長石、石英、青母、白色粒子、共晶石、少量の白色粒子を含む。	良	GYR 6.4 に赤い黄褐色 GYR 5.0 に赤い黄褐色			
第138国 581	1921 2639他	I CI	早期	沈羅文土器系	AL-026	FB	織紋底。多量の長石、石英、青母、白色粒子を含む。	良	GYR 6.6 棕褐色 GYR 5.5 黄褐色	212		
第138国 582	1631	I CI	早期	沈羅文土器系	AN-027	FB	織紋底。多量の長石、石英、青母、白色粒子を含む。	良	GYR 7.5 に赤い黄褐色 GYR 7.4 に赤い黄褐色			
第138国 583	7759	I CI	早期	沈羅文土器系	AK-025	FB	織紋底。多量の長石、石英、青母、白色粒子を含む。	良	GYR 6.3 に赤い黄褐色 GYR 7.6 棕褐色			

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	層位	鉱土	地成	色調(内) 色調(外)	接合	AMB 分析番号	遺物名	
第138国 544	4213	I CI	早期	沈縫文系土器	AN-028	FB	多量の長石・雲母、少量の石英を含む。	良	7.5YR 4.6 7.5YR 4.1	褐色 褐灰色			
第138国 545	2631	I CI	早期	沈縫文系土器	AN-025	FB	織耕板、多量の長石・石英・雲母・白色粒子を含む。	良	7.5YR 7.6 7.5YR 6.6	褐色 褐色			
第138国 546	2633	I CI	早期	沈縫文系土器	AN-025	FB	織耕板、多量の雲母・輝石・長石、石英を含む。	良	7.5YR 5.6 7.5YR 5.6	褐褐色 褐褐色			
第138国 547	1608	I CI	早期	沈縫文系土器	AN-027	FB	織耕板、長石・雲母・角閃石、少量の石英を含む。	良	7.5YR 6.6 7.5YR 4.3	褐色 褐色			
第138国 548	5558 6077地	I CI	早期	沈縫文系土器	AN-027	FB	織耕板、多量の雲母・白色粒子・長石、石英を含む。	良	7.5YR 7.4 10YR 3.0 10YR 6.0	に赤い褐色 黒褐色 に赤い褐色	195		
第138国 549	2547 2550	I CI	早期	沈縫文系土器	AL-028	FB	織耕板、多量の長石・石英、雲母を含む。	良	10YR 6.6 10YR 6.0	に赤い黄褐色 黒褐色	196		
第138国 550	2367 3118地	I C2	早期	沈縫文系土器	AM-028	FB	織耕板、多量の白色粒子・長石・赤色粒子を含む。	良	7.5YR 3.1 7.5YR 4.4	黑褐色 褐色	144		
第138国 551	1640 2285	I C2	早期	沈縫文系土器	AN-027 AM-029	FB	織耕板、多量の白色粒子・赤色粒子・角閃石を含む。	良	7.5YR 3.1 SYR 4/4	黑褐色 に赤い黒褐色	146		
第138国 552	1753	I C2	早期	沈縫文系土器	U-009	FB	織耕板、多量の雲母・白色粒子・赤色粒子・角閃石を含む。	良	10YR 2.3 7.5YR 3.2	黒褐色 黒褐色			
第138国 553	2298 3044地	I C2	早期	沈縫文系土器	AN-027 AN-028	FB	織耕板、多量の白色粒子・スコリア、赤色粒子・少量の角閃石を含む。	良	7.5YR 3.0 7.5YR 4.0	暗褐色 褐色	145		
第138国 554	2531 5335 5363	I C2	早期	沈縫文系土器	AO-028 AM-029	FB	織耕板、多量の白色粒子・雲母、少量の長石・赤色粒子・スコリア・輝石を含む。	良	2.5YR 5.6 SYR 4/4	帯赤褐色 に赤い赤褐色	147		
第138国 555	3476 5560地	I C2	早期	沈縫文系土器	AN-027 AN-028	FB	織耕板、多量の雲母・白色粒子・輝石、少量のスコリア・角閃石を含む。	良	SYR 4/3 SYR 4/4	に赤い黒褐色 に赤い黒褐色	148		
第138国 556	112	I C2	早期	沈縫文系土器	AN-029	AN	織耕板、多量の白色粒子・スコリア、少量の雲母・輝石を含む。	良	SYR 5/4 SYR 5/4	に赤い黒褐色 に赤い黒褐色			
第138国 557	12973	I C2	早期	沈縫文系土器	U-009	FB	織耕板、多量の白色粒子・赤色粒子・スコリア、赤色粒子・少量の角閃石を含む。	良	7.5YR 5/1 7.5YR 4/3	暗褐色 褐色			
第138国 558	610	I C2	早期	沈縫文系土器	AM-028	KU	織耕板、多量の白色粒子・角閃石・雲母、赤色粒子・スコリア・少量の長石・赤色粒子を含む。	良	7.5YR 3.0 10YR 4/4	暗褐色 に赤い黄褐色			
第138国 559	12411 20655	I C2	早期	沈縫文系土器	U-009 V-914	FB	織耕板、多量の白色粒子・石英・長石・赤色粒子・スコリアを含む。	良	7.5YR 5/1 7.5YR 5/1	に赤い黒褐色 に赤い黒褐色	121		
第138国 560	10861 10882	I C2	早期	沈縫文系土器	V-913	FB	織耕板、多量のスコリア・白色粒子・長石・赤色粒子・角閃石・赤色粒子・少量の赤色鉄片を含む。	良	SYR 4/3 SYR 5/4	に赤い赤褐色 に赤い黒褐色	233		
第138国 561	12966 12759	I C2	早期	沈縫文系土器	T-009	FB	織耕板、多量の長石・スコリア・白色粒子・赤色粒子・輝石を含む。	良	SYR 5/4 SYR 5/4	に赤い黑褐色 に赤い黒褐色	122		
第138国 562	5363	I C2	早期	沈縫文系土器	AN-029	FB	織耕板、多量の白色粒子・長石・輝石を含む。	良	7.5YR 5.6 7.5YR 4.0	暗褐色 褐色			
第138国 563	11940 13855 14284	I C2	早期	沈縫文系土器	U-009 U-010	FB	織耕板、多量の白色粒子・スコリア・長石・石英・赤色粒子を含む。	良	7.5YR 4.6 10YR 2.2	黑色 黒褐色	141		
第138国 564	2646	I C2	早期	沈縫文系土器	AL-024	FB	織耕板、白色の白色粒子・少量のスコリア・赤色粒子を含む。	良	10YR 6/1 SYR 5/6	に赤い黄褐色 黒褐色	74		
第138国 565	26365 26366 26367	I C2	早期	沈縫文系土器		表層	織耕板、多量の白色粒子・スコリア・少量の黑色粒子・赤色粒子を含む。	良	SYR 4/4 SYR 4/4	に赤い赤褐色 に赤い赤褐色	74		
第138国 566	11965 12025 地	I C2	早期	沈縫文系土器	T-009 U-009 U-010	FB	織耕板、多量の長石・スコリア・白色粒子・赤色粒子・赤色粒子を含む。	良	7.5YR 4/4 7.5YR 3/2	褐色 黒褐色	140		
第138国 567	20912 20916 20917地	I DI	早期	条痕文系土器	V-014 V-015 W-014 W-015	FB	多量の白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。	良	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	に赤い褐色 に赤い褐色	68	13	土枕289
第140国 568	20395 20297 地	I DI	早期	条痕文系土器	U-015 V-014 V-015 W-014	FB	織耕板、多量の白色粒子・スコリア・赤色粒子・角閃石を含む。	良	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	に赤い褐色 に赤い褐色	70		
第140国 569	20907 20908 地	I DI	早期	条痕文系土器	Y-013 Y-014	FB	織耕板、多量のスコリア・白色粒子・赤色粒子・角閃石・赤色粒子を含む。	良	7.5YR 5.6 7.5YR 4/1	暗褐色 灰褐色	76	12	土枕292
第140国 570	26336	I DI	早期	条痕文系土器	表層	織耕板、白色の白色粒子・黒色粒子を含む。	良	7.5YR 5.6 7.5YR 5.6	暗褐色 暗褐色				
第140国 571	15411	I D2	早期	条痕文系土器	AC-009	複屈	織耕板少、多量の白色粒子・少量の角閃石・赤色粒子を含む。	良	SYR 3/2 SYR 4/5	褐色 褐色			
第140国 572	13213	I D2	早期	条痕文系土器	AA-009	FB	織耕板、多量のスコリア・赤色粒子・赤色粒子・角閃石を含む。	良	SYR 4/4 SYR 5/6	に赤い赤褐色 暗褐色			
第140国 573	10919	I D2	早期	条痕文系土器	X-009	FB	織耕板、多量の白色粒子・角閃石・少量の赤色粒子を含む。	良	SYR 6/4 SYR 5/6	に赤い褐色 暗褐色			
第140国 574	10942	I D2	早期	条痕文系土器	X-009	FB	織耕板少、多量の白色粒子・角閃石・赤色粒子を含む。	良	SYR 5/4 SYR 6/5	に赤い赤褐色 褐色			
第140国 575	10921	I D2	早期	条痕文系土器	X-009	FB	織耕板少、多量の白色粒子・角閃石・赤色粒子を含む。	良	SYR 5/6 SYR 5/6	暗褐色 褐色			
第140国 576	12477 14165	I D3	早期	条痕文系土器	T-009 U-009	FB	織耕板、多量の白色粒子・雲母・角閃石・長石・少量の長石を含む。	良	7.5YR 6/6 7.5YR 5/1	褐色 黒褐色	75	9	
第140国 577	10707	I D3	早期	条痕文系土器	Y-013	FB	織耕板、多量のスコリア・白色粒子・角閃石・赤色粒子を含む。	良	10YR 3/3 10YR 4/5	黒褐色 に赤い黄褐色	3		
第140国 578	2565	I D3	早期	条痕文系土器	AL-025	FB	織耕板、多量の雲母・角閃石・石英・白色粒子・少量の輝石を含む。	良	7.5YR 4/3 10YR 3/3	褐色 黒褐色			
第140国 579	6956 6987	I D3	早期	条痕文系土器	AO-028	FB	織耕板、多量の雲母・角閃石・石英・長石を含む。	良	10YR 6/5 10YR 5/2	に赤い黄褐色 灰褐色	62		

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	層位	粒土	地成	色調(内) 色調(外)	接合	AMS 分析 番号	遺構名
第140回 580	2185	I DD	早期	条痕文系土器	AN-028	FB	織痕底少、多量の石英・長石・白色粒子、少量の輝石を含む。	良	HOYR 5.3 HOYR 6.4	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色		
第140回 581	19866	I DD	早期	条痕文系土器	V-004	FB	織痕底少、多量の白色粒子、石英、角閃石を含む。	良	SYR 6.6 SYR 5.6	橙色 明赤褐色	87	
第140回 582	19867	I DD	早期	条痕文系土器	V-004	KU	織痕底少、多量の白色粒子、角閃石、少量の石英を含む。	良	SYR 6.6 SYR 5.6	橙色 明赤褐色	89	
第140回 583	19757	I DD	早期	条痕文系土器	W.X- 19759#	黑色土	織痕底、多量の白色粒子を含む。	良	2.5YR 5.6 2.5YR 5.6	明赤褐色 明赤褐色	69	
第141回 584	14903	I DD	早期	条痕文系土器	AB-019	NSC	織痕底、角閃石、白色粒子、少量の石英を含む。	良	HOYR 7.4 HOYR 7.5	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色		
第141回 585	8233	I DD	早期	条痕文系土器	AO-028	ZN	織痕底、多量の白色粒子・スコリア、少歳の赤母貝、角閃石、石英を含む。	良	7.5YR 6.4 7.5YR 6.5	に赤い橙色 に赤い黄褐色		
第141回 586	4675	I DD	早期	条痕文系土器	AN-028	FB	織痕底少、白色粒子を含む。	良	7.5YR 5.5 HOYR 7.5	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色		
第141回 587	866	I DD	早期	条痕文系土器	AO-029	FB	織痕底少、多量の角閃石・白色粒子、石英を含む。	良	7.5YR 6.6 7.5YR 6.5	橙色 黑褐色		
第141回 588	4468	I DD	早期	条痕文系土器	AM-028	FB	織痕底少、多量の白色粒子、スコリア、砂礫、石英を含む。	良	7.5YR 6.4 HOYR 5.4	に赤い橙色 に赤い黄褐色	5	
第141回 589	484 6707#	I EI	早期	口縁部に横住突変	AN-028	AN	織痕底、多量の角閃石・輝石・白色粒子・スコリア、少量の石英・赤母貝・白色粒子を含む。	良	7.5YR 5.4 SYR 5.5	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	173	
第141回 590	189 510 829	I EI	早期	口縁部に横住突変	AN-028	AN	織痕底、多量の白色粒子・角閃石、赤母貝・白色粒子・スコリア、少量の石英を含む。	良	SYR 4.9 SYR 5.0	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	174	
第141回 591	2160	I EI	早期	口縁部に横住突変	AM-026	FB	織痕底、多量の角閃石、白色粒子、少量の赤母貝を含む。	良	SYR 4.4 7.5YR 6.5	に赤い赤褐色 褐色		
第141回 592	2151 2152	I EI	早期	口縁部に横住突変	AN-028	FB	織痕底、多量の角閃石・輝石・白色粒子・スコリア、少量の角閃石・輝石・白色粒子を含む。	良	SYR 4.6 7.5YR 4.4	赤褐色 褐色	133	
第141回 593	218 2142#	I E2	早期	口縁部に横住突変	AN-028	AN	織痕底、多量の長石・雲母・白色粒子、少量の石英を含む。	良	2.5YR 6.2 HOYR 7.5	灰褐色 に赤い黄褐色	204	
第141回 594	596 2156#	I E2	早期	口縁部に横住突変	AM-028	KGP	織痕底、多量の石英、長石、雲母、白色粒子を含む。	良	SYR 7.6 HOYR 8.4	褐色 浅褐色	201	
第141回 595	704 2419#	I E2	早期	口縁部に横住突変	AN-029 AN-027	FB	織痕底、多量の長石・雲母、石英、白色粒子を含む。	良	2.5YR 6.2 HOYR 6.5	灰褐色 に赤い黄褐色	202	
第141回 596	2037	I E2	早期	口縁部に横住突変	AM-027	FB	織痕底、多量の白色粒子、少量の角閃石、赤母貝粒子を含む。	良	SYR 5.4 7.5YR 5.5	に赤い赤褐色 に赤い褐色		
第141回 597	11518	I E2	早期	口縁部に横住突変	R-008	FB	織痕底、多量の白色粒子・角閃石、少量の赤母貝粒子を含む。	良	SYR 5.4 7.5YR 6.5	に赤い赤褐色 發褐色		
第141回 598	2559	I E2	早期	口縁部に横住突変	AL-027	FB	織痕底、多量の白色粒子、少量の角閃石、石英を含む。	良	7.5YR 5.5 7.5YR 5.5	に赤い褐色 發褐色		
第141回 599	2545 2546#	I E2	早期	口縁部に横住突変	AL-028	FB	織痕底、多量の白色粒子、少量の角閃石・輝石を含む。	良	SYR 4.9 7.5YR 4.3	に赤い赤褐色 發褐色	171	
第141回 600	1881 1882	I E2	早期	口縁部に横住突変	AM-028	FB	織痕底、多量の白色粒子、少量の角閃石・輝石を含む。	良	SYR 4.9 7.5YR 4.3	に赤い赤褐色 發褐色	172	
第141回 601	251 326	I E3	早期	口縁部に横住突変	AN-028	KU	織痕底、多量の白色粒子。スコリア、砂礫、長石、石英を含む。	良	SYR 5.6 7.5YR 4.3	赤褐色 褐色	55	
第141回 602	2381	I E3	早期	口縁部に横住突変	AL-026	FB	織痕底、多量の白色粒子、少量の輝石を含む。	良	2.5YR 5.6 7.5YR 5.4	明赤褐色 褐色		
第142回 603	17846 17919	II A	前期	織文	AK-019 AK-020	NSC	織痕底少、多量のスコリア・白色粒子を含む。	良	7.5YR 6.4 7.5YR 6.4	に赤い橙色 に赤い橙色	106	
第142回 604	1791 1794	II A	前期	織文	AO-027	FB	織痕底少、多量の白色粒子、長石、石英、角閃石、少量の赤母貝粒子を含む。	良	SYR 5.6 SYR 4.7	灰褐色 灰褐色	149	
第142回 605	16907 16909	II A	前期	織文	AN-027 AN-028	FB	織痕底少、多量の白色粒子・長石、漂母貝・少量の角閃石・赤母貝・白色粒子を含む。	良	SYR 5.6 HOYR 5.3	明赤褐色 に赤い黄褐色	151	
第142回 606	16905 16149#	II A	前期	織文	AN-027 AN-028	FB	織痕底少、多量の白色粒子・長石、漂母貝・少量の角閃石・赤母貝を含む。	良	SYR 5.6 SYR 4.2	灰褐色 灰褐色	150	
第142回 607	1613 1615#	II A	前期	織文	AN-027 AN-028	FB	織痕底少、多量の白色粒子・長石、漂母貝・白色粒子を含む。	良	2.5YR 6.2 7.5YR 6.6	明赤褐色 橙色	152	
第142回 608	2527	II A	前期	織文	AN-029	FB	織痕底少、多量の白色粒子・スコリア・白色粒子・漂母貝を含む。	良	7.5YR 6.5 7.5YR 6.5	に赤い褐色 に赤い褐色		
第142回 609	7275 7529	II A	前期	織文	AN-028 AJ-026	FB	織痕底少、スコリア・白色粒子・石英、少量の角閃石を含む。	良	7.5YR 6.4 HOYR 6.3	に赤い橙色 に赤い黄褐色	154	
第142回 610	255 453#	II A	前期	織文	AN-028 AN-029	KU	織痕底少、スコリア・白色粒子、少量の角閃石・漂母貝・白色粒子・漂母貝片を含む。	良	7.5YR 6.6 HOYR 5.2	橙色 灰褐色	153	
第142回 611	1222 5692	II A	前期	織文	AO-028 AN-029	FB	織痕底少、多量の角閃石・漂母貝・石英、漂母貝・少量の赤母貝粒子・漂母貝片を含む。	良	7.5YR 6.8 7.5YR 5.4	橙色 に赤い褐色	137	
第142回 612	679 2127	II A	前期	織文	AM-028	FB	織痕底少、多量の角閃石・漂母貝・白色粒子、漂母貝・少量の赤母貝粒子・漂母貝片を含む。	良	HOYR 4.2 7.5YR 5.4	灰褐色 に赤い褐色	136	
第142回 613	6702	II A	前期	織文	AM-031	FB	織痕底少、多量の漂母貝・角閃石・白色粒子・漂母貝・少量の角閃石を含む。	良	HOYR 4.2 HOYR 4.2	灰褐色 灰褐色	8	
第142回 614	15602	II A	前期	織文	AA-020	FB	織痕底少、白色粒子を含む。	良	HOYR 6.5 HOYR 5.2	灰褐色 灰褐色		
第142回 615	4402	II A	前期	織文	AM-028	FB	織痕底少、多量の漂母貝・角閃石・白色粒子、漂母貝・少量の石英を含む。	良	HOYR 4.4 SYR 3.2	灰褐色 灰褐色		
第142回 616	25792	II A	前期	織文	AH-026	FB	織痕底少、白色粒子、漂母貝を含む。	良	HOYR 6.4 HOYR 5.5	灰褐色 に赤い黄褐色		
第142回 617	5526	II B	前期	羽状・斜斜織文	AN-028	FB	織痕底少、多量の漂母貝・角閃石・漂母貝・白色粒子、漂母貝・石英を含む。	良	7.5YR 6.4 7.5YR 5.4	に赤い橙色 に赤い褐色		

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	層位	出土	地城	色調(内) 色調(外)	接合	AMB 分析 番号	遺物名
第142回 618	15658	BB	前歴	羽状・斜状繩文	AA-015	FB	織維底少、多量の貝殻・角閃石、少量の長石を含む。	良	SYR 6/6 稀色 SYR 2/1 黒褐色			
第143回 619	1649	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-027	FB	織維底少、多量の貝殻・白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/3 黄色 7.5YR 5/4 に近い褐色	162		
第143回 620	14933	BC	前歴	爪形文・繩文	AI-014	KU	多量の白色粒子、滑石、角閃石、石英、長石を含む。	良	SYR 5/6 明赤褐色 SYR 5/6 明赤褐色			
第143回 621	70	BC	前歴	爪形文・繩文	AL-030	FB	織維底少、多量の貝殻・白色粒子、角閃石を含む。	良	7.5YR 4/3 黄色 SYR 4/4 に近い赤褐色	155		
第143回 622	7227	BC	前歴	爪形文・繩文	AI-030	ZN	織維底少、多量の貝殻・白色粒子、少量の角閃石、滑石、石英を含む。	良	7.5YR 4/3 黄色 SYR 4/6 赤褐色	156		
第143回 623	3140	BC	前歴	爪形文・繩文	AL-030	FB	織維底少、多量の石英・白色粒子、長石、滑石、角閃石を含む。	良	SYR 3/3 明赤褐色 SYR 4/4 に近い赤褐色			
第143回 624	2393	BC	前歴	爪形文・繩文	AL-030	FB	織維底少、白色粒子、角閃石、石英、黑色粒子を含む。	良	SYR 4/4 に近い赤褐色 SYR 4/6 明赤褐色			
第143回 625	7221	BC	前歴	爪形文・繩文	AL-030	FB	織維底少、多量の貝殻・白色粒子、角閃石、石英を含む。	良	SYR 4/4 に近い赤褐色	160		
第143回 626	7228	BC	前歴	爪形文・繩文	AI-030	ZN	織維底少、多量の貝殻・白色粒子、角閃石、滑石、少量の石英を含む。	良	7.5YR 4/4 黄色 SYR 4/6 赤褐色			
	2389											
第143回 627	2406	BC	前歴	爪形文・繩文	AL-030	FB	織維底少、多量の貝殻・石英・角閃石・無閃石、白色粒子を含む。	良	SYR 3/4 明赤褐色 SYR 4/6 赤褐色	159		
第143回 628	18735	BC	前歴	爪形文・繩文	AK-017	複屈	多量の貝殻、長石、石英、白色粒子、少量の黑色粒子を含む。	良	SYR 5/4 に近い赤褐色 SYR 5/4 に近い褐色			
第143回 629	2434	BC	前歴	爪形文・繩文	AO-029	FB	織維底少、多量の貝殻・石英・漂母、白色粒子、角閃石を含む。	良	7.5YR 4/6 黄色 7.5YR 4/4 黄色			
第143回 630	1777	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-026	FB	織維底少、多量の白色粒子、共石、少量の角閃石を含む。	良	7.5YR 4/2 灰褐色 7.5YR 4/2 灰褐色			
第143回 631	4423	BC	前歴	爪形文・繩文	AM-028	FB	織維底少、多量の貝殻・白色粒子、少量の石英・漂母・白色粒子・漂母白色粒子を含む。	良	SYR 5/4 に近い赤褐色 SYR 5/4 に近い赤褐色	65		
第143回 632	5356	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-029	FB	織維底少、多量の貝殻・長石・白色粒子・角閃石を含む。	良	7.5YR 4/2 灰褐色 7.5YR 4/3 灰褐色			
第143回 633	2427	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-029	FB	織維底少、多量の貝殻・角閃石・石英を含む。	良	SYR 5/4 に近い赤褐色 SYR 5/4 に近い赤褐色	139		
第143回 634	5046											
第143回 634	4702	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-028	FB	多量の白色粒子、黑色粒子、少量の漂母を含む。	良	7.5YR 6/6 暗褐色 7.5YR 6/6 に近い暗褐色			
第143回 635	6240	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-028	FB	多量の白色粒子、石英、角閃石、漂母、少量の漂母白色粒子を含む。	良	SYR 4/3 に近い赤褐色 7.5YR 5/5 に近い褐色			
第143回 636	814	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-031	FB	織維底少、少量の漂母・角閃石・石英、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/2 に近い赤褐色 SYR 5/4 に近い赤褐色			
第143回 637	2415	BC	前歴	爪形文・繩文	AO-029	FB	織維底少、多量の漂母・角閃石・石英、漂母、黑色粒子、少量の漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 6/6 暗褐色 7.5YR 6/6 に近い暗褐色			
第143回 638	6142	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-028	FB	織維底少、多量の白色粒子、石英、角閃石、漂母、少量の漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/3 に近い赤褐色 7.5YR 5/5 に近い褐色			
第143回 639	5063	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-028	FB	織維底少、多量の漂母・角閃石、长石を含む。	良	7.5YR 6/4 に近い褐色 7.5YR 6/2 灰褐色			
第143回 640	2576	BC	前歴	爪形文・繩文	AM-027	FB	織維底少、多量の角閃石、漂母、漂母白色粒子を含む。	良	SYR 4/4 に近い赤褐色 SYR 3/1 黑褐色			
第143回 641	3969	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-028	FB	織維底少、多量の漂母・石英、漂母白色粒子、长石、石英を含む。	良	2.5YR 4/6 非赤褐色 SYR 4/3 に近い赤褐色			
第143回 642	4396	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-028	FB	織維底少、多量の漂母・石英、白色粒子、角閃石を含む。	良	7.5YR 4/6 暗褐色 7.5YR 4/2 灰褐色			
第143回 643	3239	BC	前歴	爪形文・繩文	AM-031	FB	織維底少、多量の角閃石・石英・漂母、少量の漂母白色粒子を含む。	良	SYR 6/6 稀色 SYR 5/4 に近い赤褐色			
第143回 644	1767	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-027	FB	織維底少、多量の漂母・角閃石・石英、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 6/6 暗褐色 SYR 5/6 明赤褐色			
第143回 645	3828	BC	前歴	爪形文・繩文	AO-027	FB	織維底少、多量の角閃石・共石・石英、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/4 に近い褐色 7.5YR 4/2 灰褐色			
第143回 646	12559	BC	前歴	爪形文・繩文	T-009	FB	織維底少、多量の漂母・長石・角閃石、少量の漂母白色粒子を含む。	良	2.5YR 5/6 明赤褐色 SYR 3/2 明赤褐色			
第143回 647	2666	BC	前歴	爪形文・繩文	X-014	FB	織維底少、多量の白色粒子、角閃石、漂母白色粒子を含む。	良	2.5YR 5/6 明赤褐色 SYR 3/1 黑褐色			
第143回 648	7354	BC	前歴	爪形文・繩文	AM-025	FB	織維底少、多量の漂母・石英・漂母白色粒子を含む。	良	SYR 4/4 に近い赤褐色 SYR 4/4 に近い赤褐色			
第143回 649	5004	BC	前歴	爪形文・繩文	AN-025	FB	織維底少、多量の角閃石・漂母・石英、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/3 に近い赤褐色 SYR 3/2 明赤褐色			
第143回 650	5394	BC	前歴	爪形文・繩文	AM-025	FB	織維底少、多量の角閃石・漂母・石英、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 4/4 に近い赤褐色 SYR 4/4 に近い赤褐色			
第143回 651	19414	BC	前歴	爪形文・繩文	U-017	FB	織維底少、多量の漂母・共石・漂母白色粒子を含む。	良	2.5YR 2/1 黑褐色 SYR 3/1 黑褐色			
第143回 652	12879	BC	前歴	爪形文・繩文	U-009	FB	織維底少、多量の漂母・角閃石・石英、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/6 明赤褐色 SYR 5/6 明赤褐色			
第144回 653	8065	III A	中期	半裁竹管状工具による押引文	AM-024	ZN	多量の漂母・石英、白色粒子、漂母白色粒子を含む。	良	SYR 5/6 明赤褐色 SYR 5/6 明赤褐色			
第144回 654	26453	III A	中期	半裁竹管状工具による押引文		透探	多量の角閃石・石英、白色粒子を含む。	良	7.5YR 5/6 明赤褐色 7.5YR 6/4 に近い褐色			
第144回 655	2098	III A	中期	半裁竹管状工具による押引文	AM-026	FB	多量の角閃石・漂母・白色粒子、共石、漂母白色粒子を含む。	良	7.5YR 7/4 に近い褐色 7.5YR 6/6 暗褐色			
第144回 656	8538	III A	中期	半裁竹管状工具による押引文	AM-024	ZN	多量の角閃石・共石、漂母、白色粒子を含む。	良	SYR 5/4 に近い赤褐色 SYR 5/3 黑褐色			
第144回 657	15619	III A	中期	半裁竹管状工具による押引文	AC-009	NSC	多量の漂母・角閃石・石英、漂母白色粒子を含む。	良	SYR 5/4 に近い赤褐色 2.5YR 5/4 に近い褐色			
第144回 658	26421	III A	中期	半裁竹管状工具による押引文		透探	漂母白色粒子、漂母・角閃石・スコリアを含む。	良	7.5YR 5/6 明赤褐色 7.5YR 5/6 明赤褐色			
第144回 659	19421	III B	中期	区画内を平行洗浄で充満する	U-016	黑色土	多量の漂母、白色粒子、漂母白色粒子を含む。	良	SYR 6/6 稀色 7.5YR 7/6 稀色			

国版番号	遺物番号	群・類	時代	分類等	グリッド	層位	出土	地城	色調(内) 色調(外)	接合	AMS 分析 番号	遺構名
第144図 660	19679 19981 19665	III-C	中期	横帯状区画の内部に繩文	X-014 Y-015	黒土色	繩網底少、多量の角閃石・白色粒子・長石・石英、少量の赤色粒子を含む。	良	SYR 6/6 黄色 SYR 4/2 灰黃褐色	Z25	6	
第144図 561	15695 15699	III-C	中期	横帯状区画の内部に繩文	AC-017	NSC	繩網底少、多量の角閃石・白色粒子・長石・石英を含む。	良	7.5YR 6/6 棕色 HOTY 4/2 灰黃褐色		138	
第144図 562	7982	III-D	中期	その他	AD-022	風呂	多量の白色粒子、角閃石、漂母、少量の石英を含む。	良	7.5YR 4/3 黑褐色 HOTY 5/4 に近い黄褐色			
第144図 663	11364	III-D	中期	その他	V-009	FB	多量の角閃石・漂母・石英、少量の長石を含む。	良	2.5YR 4/6 明赤褐色 HOTY 5/4 に近い黄褐色			
第144図 664	18521	III-D	中期	その他	AM-022	FB	多量の漂母・少量の漂母・長石・白色粒子・漂母を含む。	良	2.5YR 6/6 明赤褐色 HOTY 5/4 に近い黄褐色			
第144図 665	15854 15866	III-D	中期	その他	AB-020	NSC	多量の長石・石英、少量の角閃石、漂母・漂母・赤色粒子を含む。	良	SYR 6/4 に近い黄褐色 SYR 6/4 に近い黄褐色		177	
第144図 666	19507 19508 他	IV-A	後期	宮殿式あるいはそれに伴行する土器	X-014 Y-014 Y-015	NSC KGP	多量の漂母・石英、漂母、少量の白色粒子・無色粒子を含む。	良	2.5YR 6/6 棕色 SYR 6/6 棕色		124	
第144図 667	17006 17007他	IV-A	後期	宮殿式あるいはそれに伴行する土器	AN-019	KU	多量の漂母・スコリア・白色粒子、少量の赤色粒子・黑色粒子・角閃石を含む。	良	7.5YR 6/6 棕色 7.5YR 6/6 棕色		181	
第144図 668	25027	IV-A	後期	宮殿式あるいはそれに伴行する土器	AH-027	NSC	多量の漂母・白色粒子、白色粒子・漂母、少量の角閃石を含む。	良	HOYR 5/4 に近い黄褐色 7.5YR 6/4 に近い棕色			
第144図 669	17250 17253	IV-A	後期	宮殿式あるいはそれに伴行する土器	AN-020	KU	多量の漂母・角閃石・白色粒子・白粒子・砂礫、少量の漂母・石英を含む。	良	HOYR 7/4 に近い黄褐色 HOYR 7/4 に近い黄褐色		182	
第144図 670	17258	IV-B	後期	繩文・その他	AN-021	KU	多量の漂母・角閃石・石英、漂母、石英、漂母を含む。	良	2.5YR 5/2 灰褐色 2.5YR 7/4 に近い棕色			
第144図 671	17094	IV-B	後期	繩文・その他	AO-018	KU	多量の長石・角閃石、漂母、少量の赤色粒子を含む。	良	HOYR 6/4 に近い黄褐色 HOYR 5/5 に近い黄褐色			
第145図 672	17276 17272 17288	IV-B	後期	繩文・その他	AO-019	KU	多量の漂母・白色粒子、石英・長石を含む。	良	7.5YR 4/2 灰褐色 7.5YR 4/1 海綿色		110	
第145図 673	25130 25149 25177	IV-B	後期	繩文・その他	AF-026	KU	多量の漂母・砂礫、漂母を含む。	良	2.5YR 6/4 に近い棕色 2.5YR 6/4 に近い棕色		120	
第145図 674	25019	IV-B	後期	繩文・その他	AF-026	NSC	多量の漂母を含む。	良	7.5YR 6/6 に近い棕色 7.5YR 6/6 棕色			
第145図 675	14986	IV-B	後期	繩文・その他	Z-014	NSC	多量の漂母を含む。	良	HOYR 6/4 に近い黄褐色 HOYR 7/4 に近い黄褐色			
第145図 676	19298	IV-B	後期	繩文・その他	Z-014	NSC	多量の漂母・砂礫、少量の漂母・白色粒子・漂母を含む。	良	HOYR 6/5 に近い黄褐色 HOYR 4/1 に近い黄褐色			
第145図 677	19305 19306他	IV-B	後期	繩文・その他	X-015	KGP	多量の漂母・漂母・白色粒子・白色粒子・漂母を含む。	良	HOYR 6/4 に近い黄褐色 HOYR 7/3 に近い黄褐色		209	
第145図 678	19492 19493他	IV-B	後期	繩文・その他	X-014 Y-015	NSC	多量の漂母・白色粒子を含む。	良	7.5YR 6/6 棕色 7.5YR 6/6 棕色		210	
第145図 679	17815 17816 他	V	晚期	口縁部外側に併行寸幅 縦部に斜め寸幅	AL-019	KU	多量の漂母・白色粒子・石英・漂母、少量の漂母・白色粒子・漂母を含む。	良	GYR 4/1 海綿色 GYR 4/1 海綿色		207	
第145図 680	345	V	晚期	口縁部外側に併行寸幅 縦部に斜め寸幅	AD-024	KGP	多量の白色粒子、漂母、少量の石英・長石を含む。	良	7.5YR 5/2 灰褐色 HOYR 5/2 灰褐色			
第145図 681	26422	V	晚期	口縁部外側に併行寸幅 縦部に斜め寸幅	AE-012	漂母	多量の白色粒子、漂母・漂母・石英・漂母を含む。	良	2.5YR 6/6 棕色 2.5YR 6/6 棕色			
第145図 682	13012	V	晚期	口縁部外側に併行寸幅 縦部に斜め寸幅	X-015	NSC	多量の漂母・漂母・漂母・漂母・漂母・角閃石、少量の漂母を含む。	良	GYR 5/4 に近い赤褐色 HOYR 6/4 に近い黄褐色			
第145図 683	17881 17884	V	晚期	底部・土偶頭	AD-018 AM-020	漂母 KU	繩網底少、多量の共石・漂母・白色粒子・石英、少量の角閃石・漂母を含む。	良	2.5YR 4/3 に近い赤褐色 GYR 5/4 に近い赤褐色		183	
第145図 684	14051	V	底部・土偶頭	AE-012	漂母	多量の漂母・漂母・漂母・漂母を含む。	良	2.5YR 5/6 明赤褐色 GYR 5/4 に近い赤褐色				
第145図 685	19310	V	底部・土偶頭	X-015	NSC	繩網底少、漂母・漂母・漂母・漂母・漂母・漂母を含む。	良	2.5YR 6/6 棕色 HOYR 5/4 に近い黄褐色				
第145図 686	15049	V	底部・土偶頭	AC-009	FB	多量の白色粒子・スコリア・角閃石、少量の漂母・白色粒子を含む。	良	2.5YR 7/4 に近い黄褐色 HOYR 6/4 に近い黄褐色				
第145図 687	19980	V	底部・土偶頭	Y-014	漂母	多量の漂母・漂母・漂母・漂母・漂母・漂母・漂母を含む。	良	2.5YR 6/4 に近い赤褐色 GYR 6/4 に近い赤褐色				
第145図 688	19335	V	底部・土偶頭	X-015	NSC	多量の漂母・石英・漂母・漂母・白色粒子・漂母を含む。	良	SYR 6/6 棕色 SYR 7/3 に近い赤褐色				

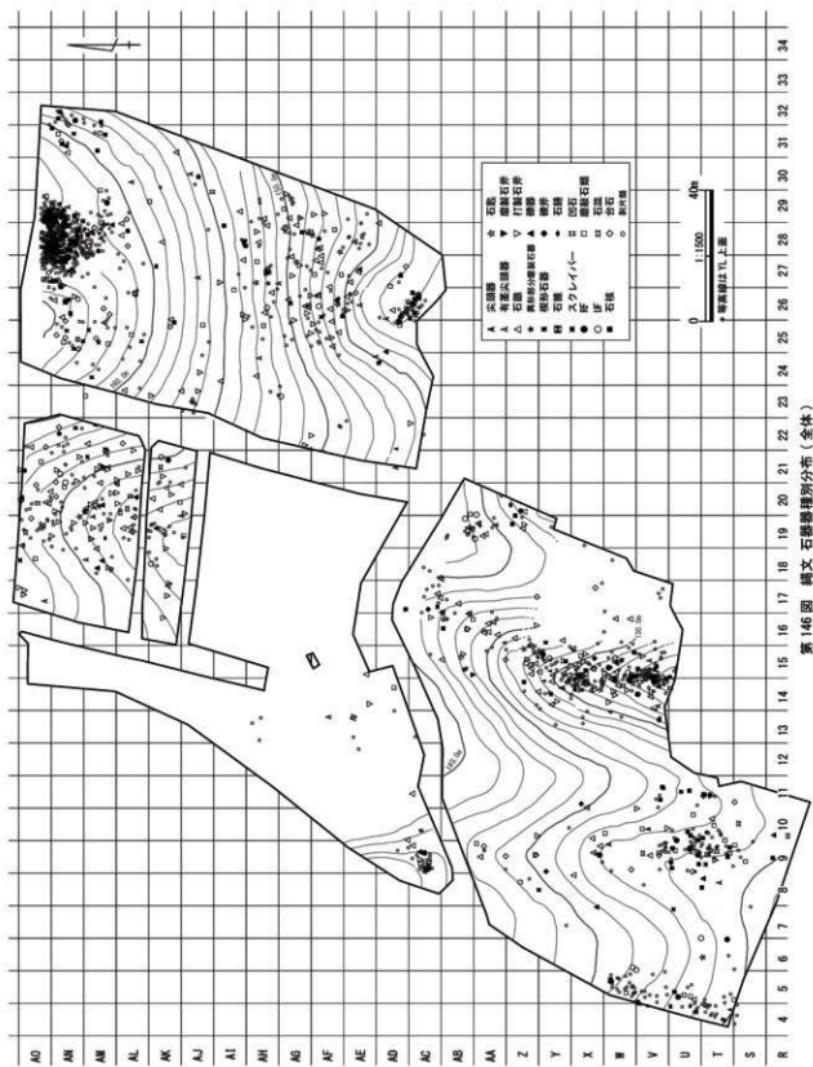
2 石器（第146～154図 第24・25・26表）

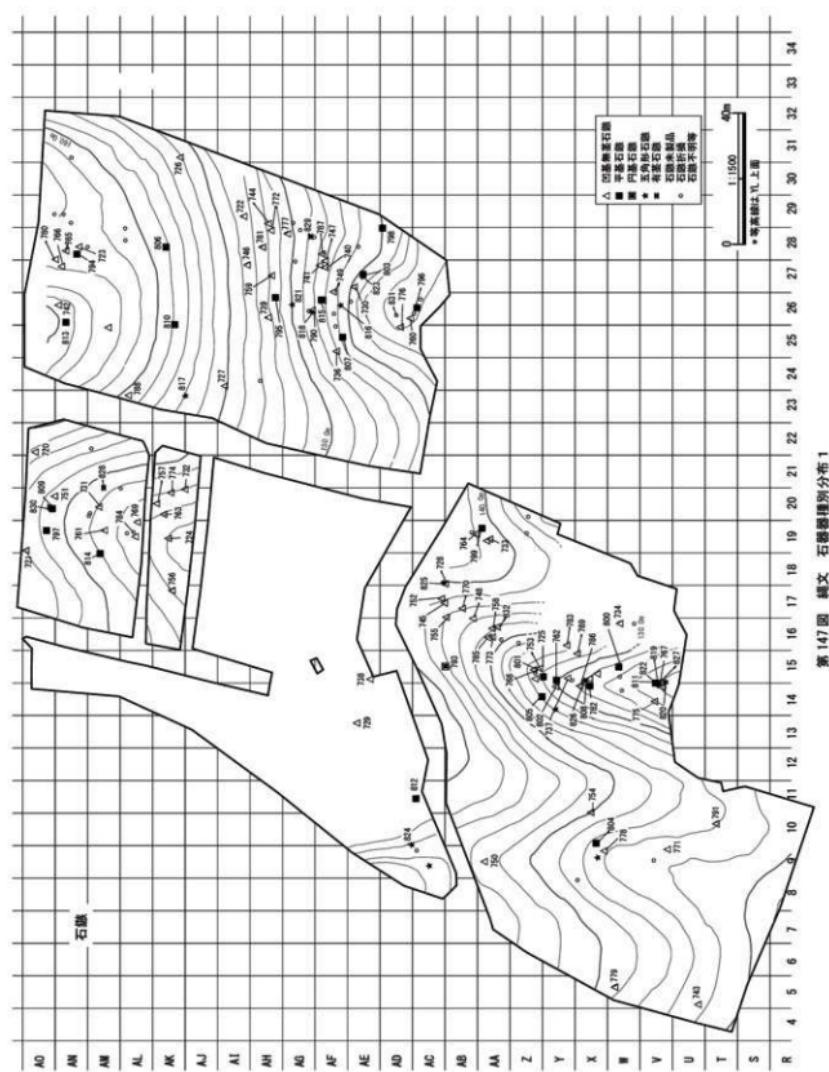
本遺跡から出土した繩文時代の石器は1824点である。内訳は、尖頭器12点、有茎尖頭器27点、石鏟162点、石錐3点、石匙14点、スクレイパー23点、楔形石器39点、二次加工のある剥片25点、使用痕のある剥片26点、石核98点、刃部磨製石器3点、打製石斧109点、礫斧7点、礫器16点、石錐2点、磨石・敲石類110点、石皿15点、台石51点、異形部分磨製石器4点、剥片・碎片1077点、原礫1点である。

(1) 尖頭器（第155図）

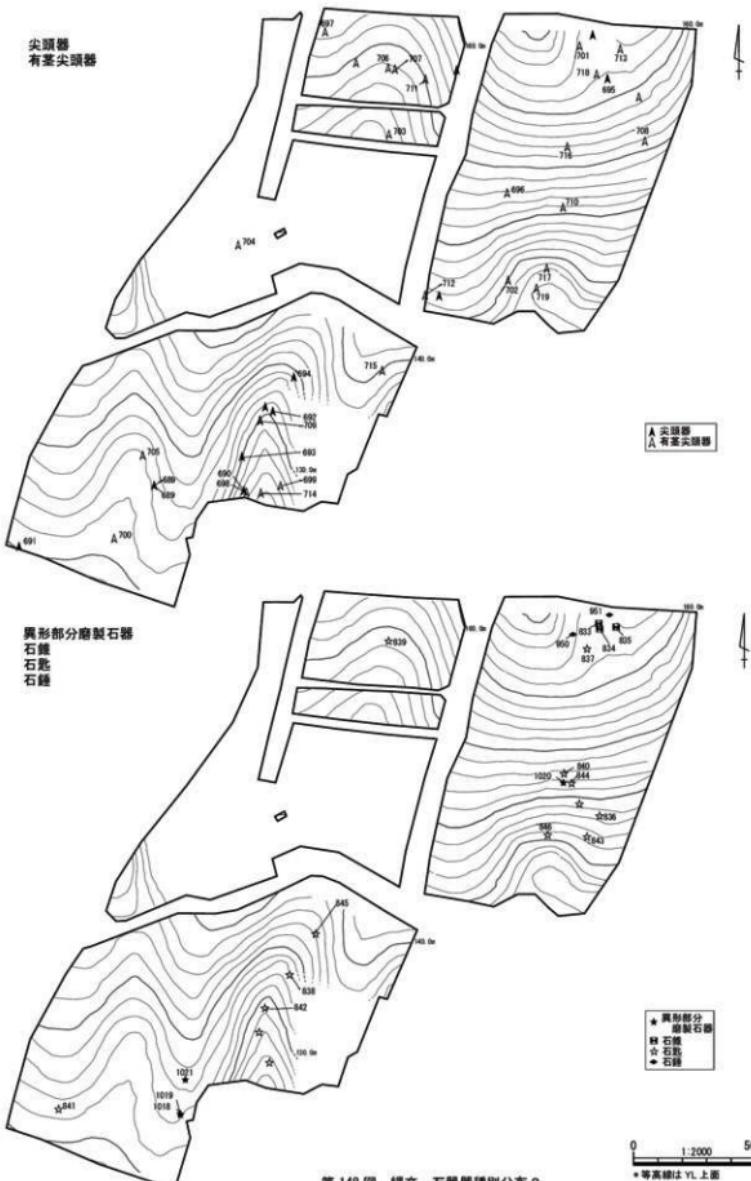
12点出土し、7点を図示した。

689・690・693は柳葉形を呈する両面加工の尖頭器である。

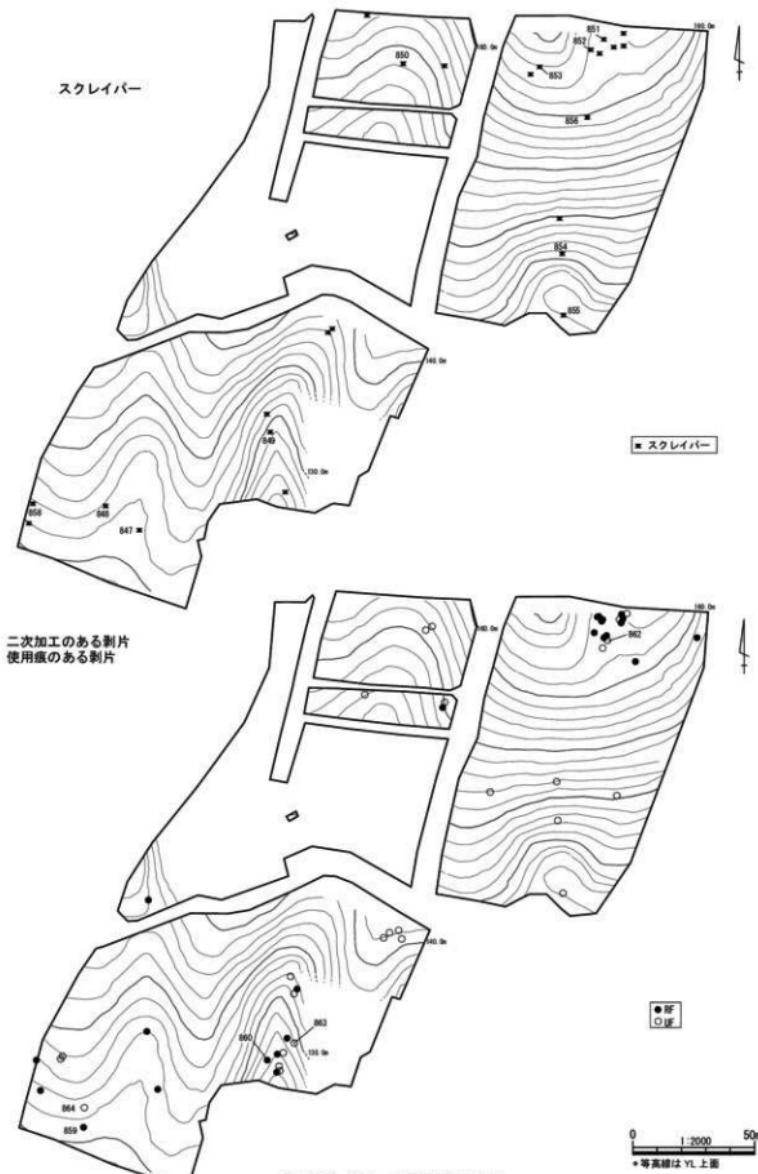




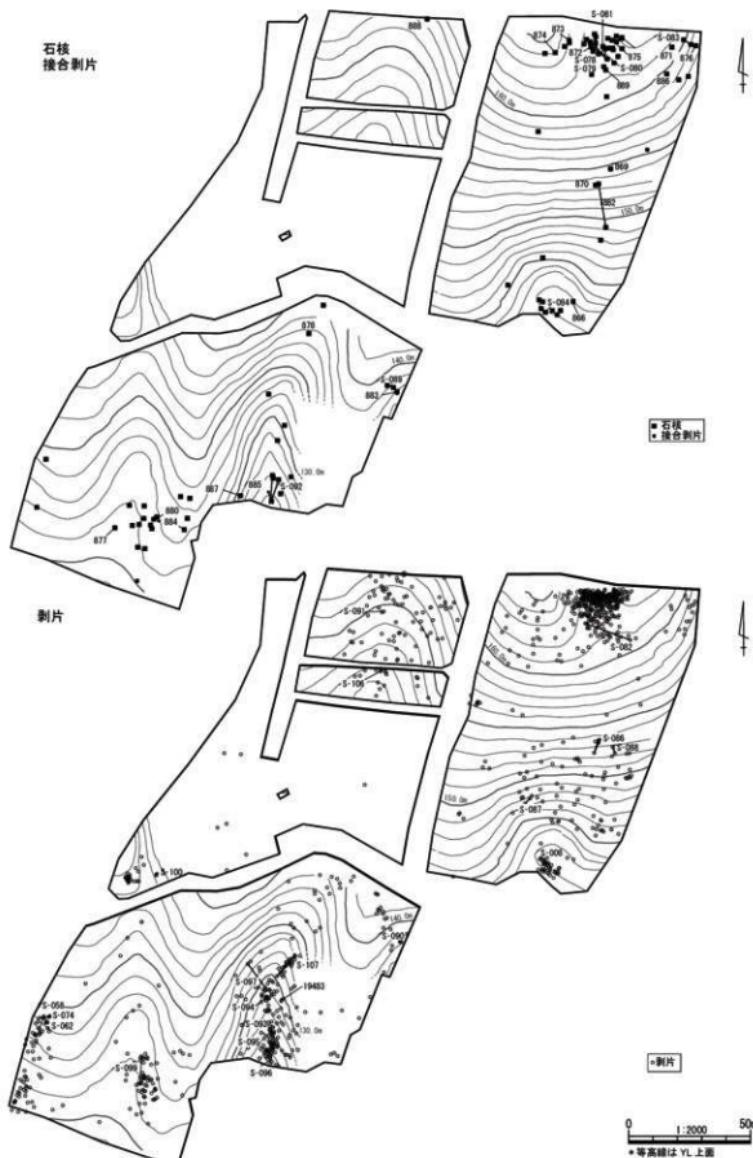
第147圖 銅文 石器器種分布 1



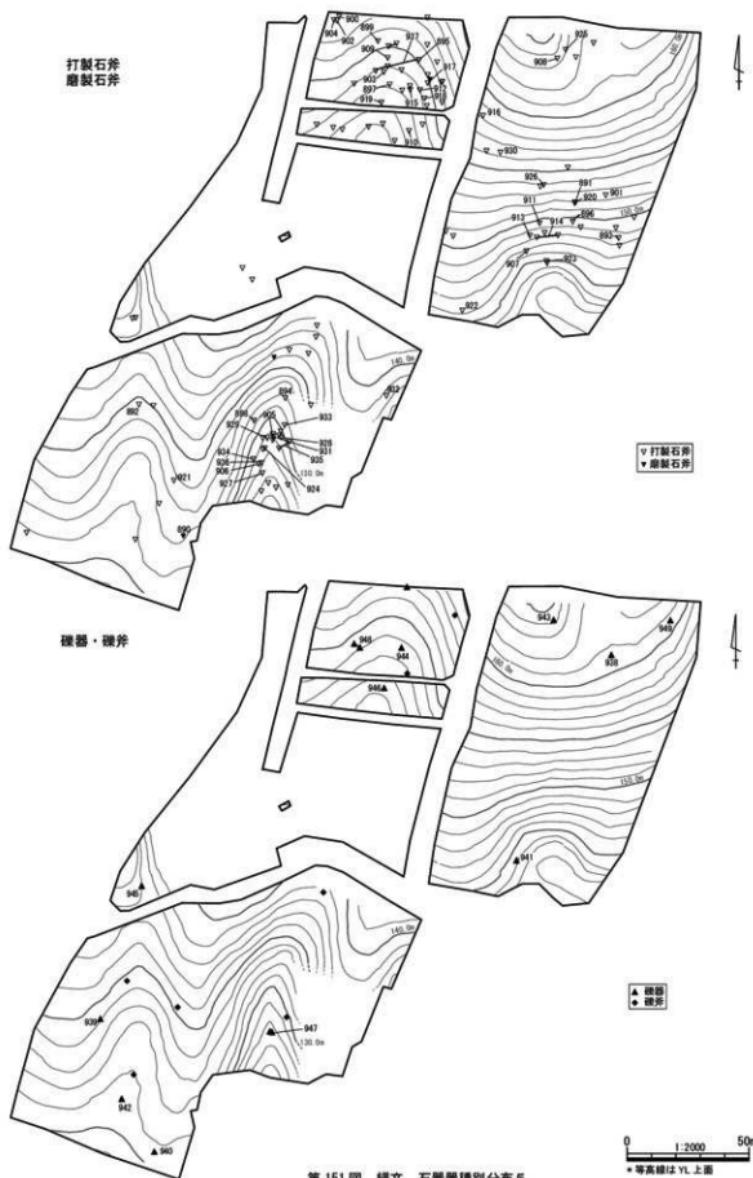
第148図 縄文 石器器種別分布 2

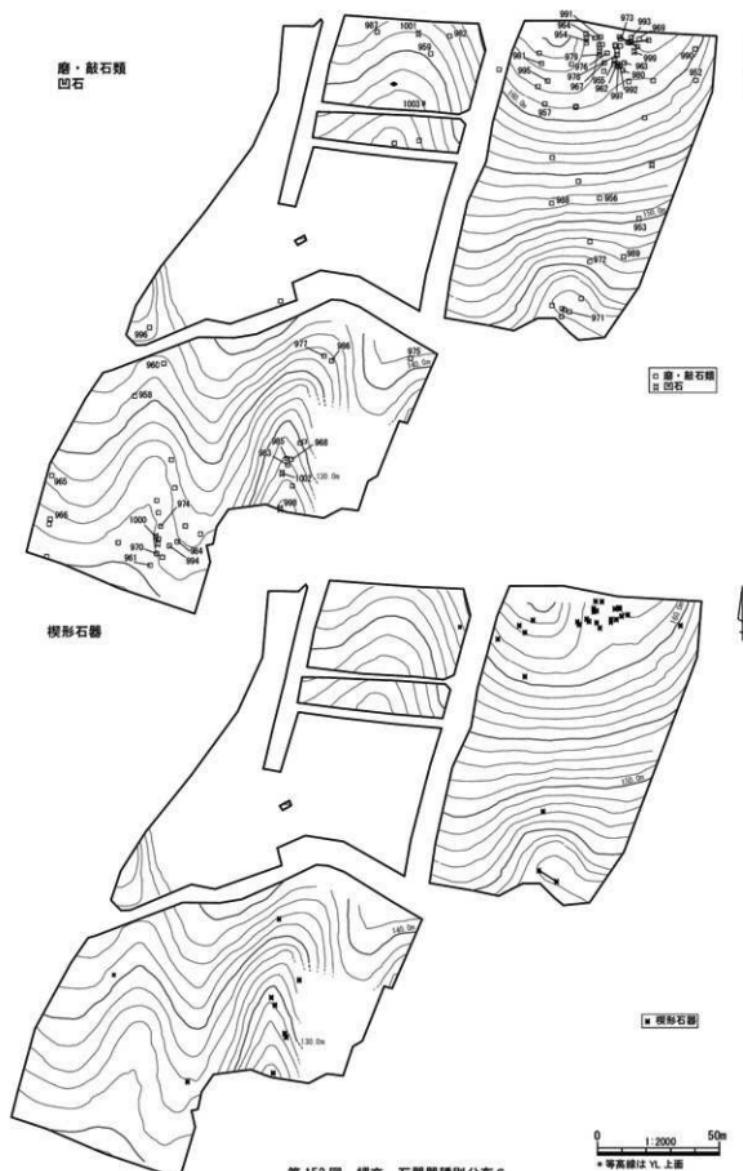


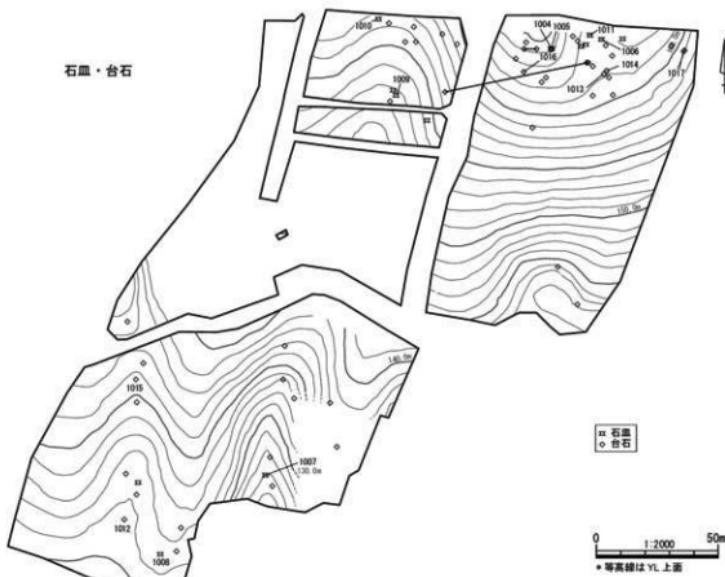
第149図 純文 石器器種別分布 3



第150図 繩文 石器種別分布4







第153図 繩文 石器種別分布7

689は中位に最大幅をもつ大型品で、右側縁の膨らみがやや強い。表裏面ともに丁寧な剥離調整で基面が整えられている。黒曜石（神津島恩馳島群）製である。

693は中位やや上に最大幅をもつ大型品でほぼ左右対称を呈する。両面加工を行うが裏面の剥離調整は縁辺部を主体としている。ガラス質黒色安山岩製である。

690はやや厚みがある剥片を素材として、中位やや下位に最大幅をもつ。両面加工を行うが裏面の剥離調整は縁辺部を主体としている。ガラス質黒色安山岩製である。

691は中位に最大幅をもつ小型品である。器面の風化が著しく詳細な観察は困難であるが、裏面の剥離調整は縁辺部を主体としているようである。ホルンフェルス製である。

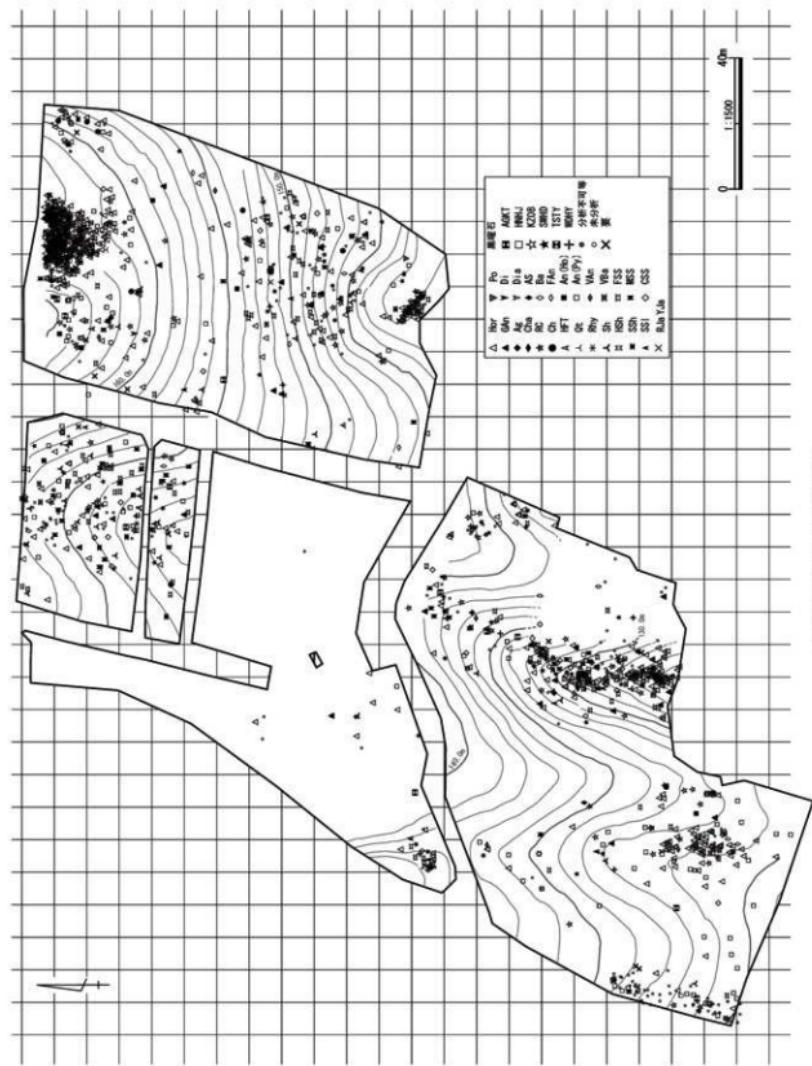
692はやや厚みがある剥片を素材とする両面加工の尖頭器である。下半部に最大幅をもち、基部は丸く調整する。珪質頁岩製である。

694は縁辺部形状が左右非対称である。先端部及び基部を欠損する。黒曜石（箱根烟宿群）製である。695はやや厚みがある剥片を素材とした両面加工の尖頭器である。剥離調整は縁辺部を主体に行われており、表面中央には素材剥片の剥離面、裏面中央付近には自然面を残している。珪質頁岩製である。

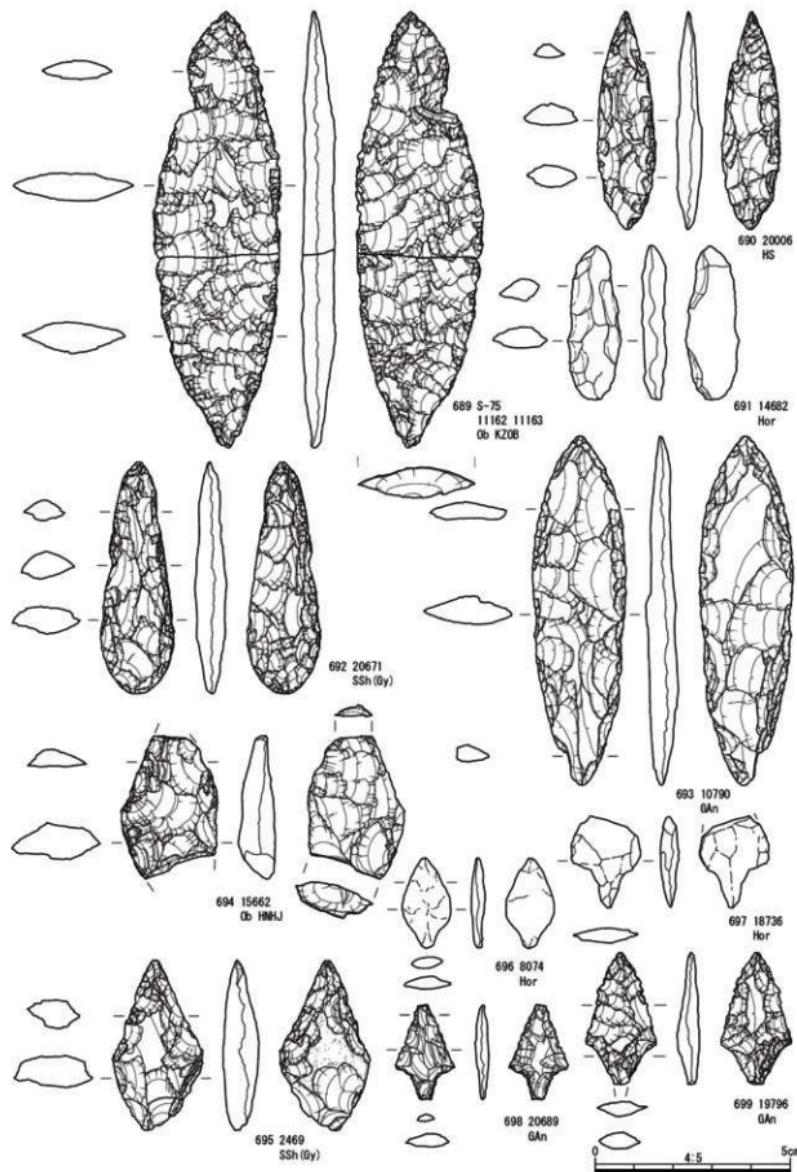
(2) 有茎尖頭器（第155～157図）

27点出土し、24点を図示した。

696は中位に最大幅をもつ短小な形態を有し、下端部両側縁に加工を行い茎部を形成する小型品である。器壁の風化が著しく、剥離調整の詳細な観察は困難である。ホルンフェルス製である。



第154図 繩文・石器石材別分布



第155図 縄文 尖頭器・有茎尖頭器 1

697は先端部を欠損するが、両側縁の形状から短小な形態を有するものと推測される。やや丸みを持った両側縁の最大幅付近から茎部を整形し尖り気味の基部としている。器壁の風化が著しく、剥離調整の詳細な観察は困難である。ホルンフェルス製である。

698は先端部から両側縁が直線的に開く短い体部の最大幅直下に調整を加えやや茎部を整形している。先端部及び基部を欠損する。ガラス質黒色安山岩製である。

699は先端部からわずかに膨らみをもって開く側縁部を持つ。中位やや下部に最大幅を有し、その直下に調整を加え茎部を整形している。基部を欠損する。ガラス質黒色安山岩製である。

700は緩やかに湾曲する側縁部を持つもので、基部両側縁がわずかに括れることからここに含めた。先端部を欠損する。器壁の風化が著しく、剥離調整の詳細な観察は困難である。ホルンフェルス製である。

701・702はいわゆる「花見山型」と呼ばれる形態に分類される。

701は先端部から両側縁がほぼ直線的に開き、下半部で緩やかな曲線をもって逆刺を形成し、短い茎部に至る。先端部及び基部を欠損する。ガラス質黒色安山岩製である。

702は先端部から両側縁がほぼ直線的に開き身部から三角形状に突出した逆刺を形成し、短い茎部に至る。風化により詳細な観察は困難であるが、やや厚みがある剥片を用い、表裏面に剥離調整を行って器形を整えている。左逆刺部を欠損する。ホルンフェルス製である。

703は先端部からわずかに膨らみを持った側縁部を持つ中型品である。側縁は鋸歯縁加工を施している。下半部に最大幅を有し、その直下に調整を加えて茎部を整形している。基部は丸く收める。両面調整を行うものの、裏面の調整は先端部及び茎部に集中しており、中位には素材剥片の剥離面を残している。ガラス質黒色安山岩製である。

704・705は先端部からわずかに膨らみを持った側縁部を持つ中型品である。下半部に最大幅を有し、その直下の両側縁に調整を加えて茎部を整形している。逆刺は704がやや弱く、705は明確に作りだされる。基部は尖り気味に收める。裏面ともに丁寧な剥離調整を行っている。いずれもガラス質黒色安山岩製である。

706は基部の破片である。下半部に最大幅を有し、その直下の両側縁に調整を加えて茎部を整形している。基部は丸く收められる。裏面ともに丁寧な剥離調整を行っている。ガラス質黒色安山岩製である。

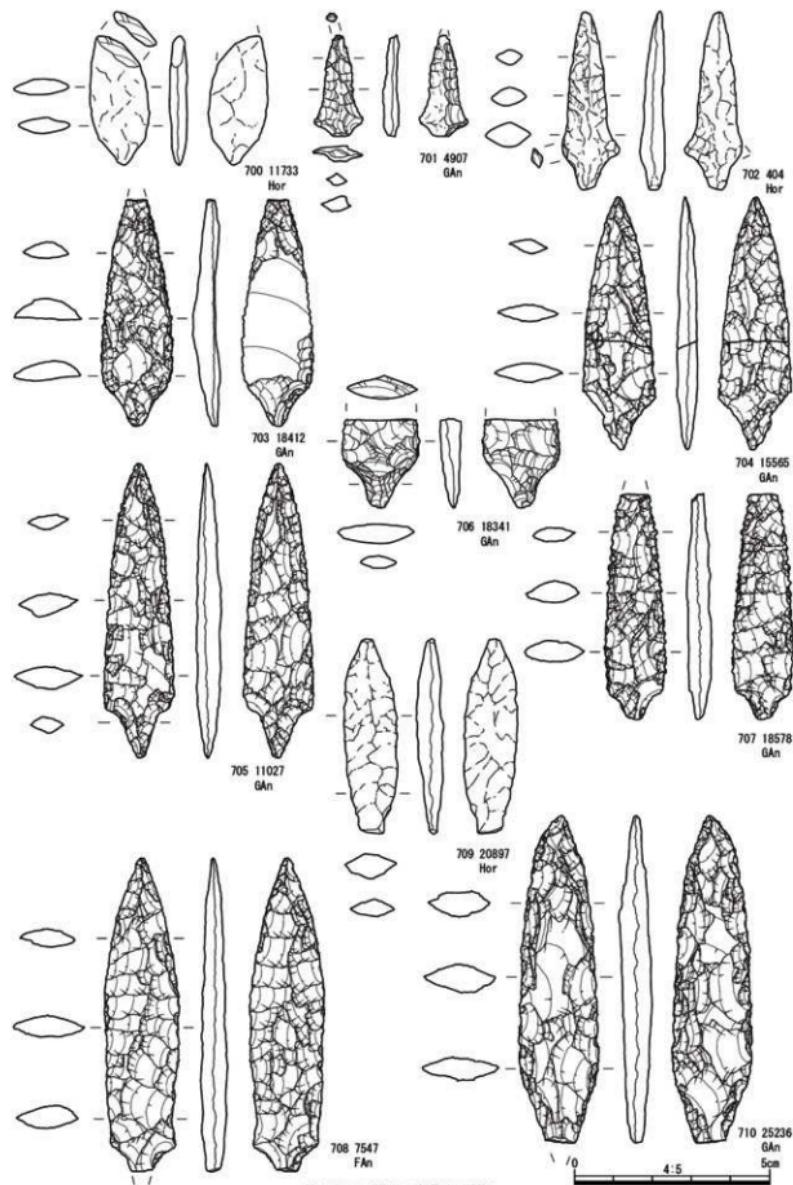
707は先端部からわずかに膨らみを持った側縁部を持つもので、中位やや下部に最大幅を有する。基部の両側縁に調整を加え、茎部としている。基部は丸く收められる。裏面ともに丁寧な剥離調整を行っており、両側縁は鋸歯縁加工を施している。先端部を欠損する。ガラス質黒色安山岩製である。

708は先端部からわずかに膨らみを持ち中位で最大幅に達する側縁部を有し、以下幅があまり変わらずに基部に至る。基部両側縁に調整を加え茎部を整形しているが、基部は欠損している。裏面ともにやや大きな剥離調整により器形を整えている。細粒安山岩製である。

709は先端部から膨らみを持って中位に最大幅を有する側縁部の基部両側縁に調整を加えて茎部を整形する。基部は欠損する。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。ホルンフェルス製である。

710は先端部からわずかに膨らみを持って下位に最大幅に達する側縁部を有し、基部両側縁に調整を加えて茎部としている。基部は欠損する。裏面ともに縁辺部を中心に丁寧な剥離調整を加えている。ガラス質黒色安山岩製である。

711は先端部からわずかに膨らみを持つ側縁部は、中位付近で最大幅に至る。基部両側縁に調整を加え、茎部を形成している。基部は丸く收められる。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難



第156図 縄文 有茎尖頭器

である。ホルンフェルス製である。

712はわずかに膨らみを持って開く側縁部を持ち、中位や下位で最大幅に至る。基部両側縁に調整を加え茎部をしている。先端部を欠損する。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。ホルンフェルス製である。

713は先端部から直線的に開く側縁部を持ち、中位から下位で最大幅に至る。基部両側縁に調整を加え茎部をしている。基部は尖り気味に收める。先端部を欠損する。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。ホルンフェルス製である。

714は先端部から直線的に開き下位で最大幅を持った側縁部を有する。最大幅付近は丸みを持っており、その直下の両側縁に調整を加え茎部をしている。先端部及び基部を欠損する。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。ホルンフェルス製である。

715・716は先端部から直線的に開く側縁部を有し、下位に最大幅を持つ。基部両側縁に調整を加え茎部をしている。基部は尖り気味に收める。いずれも先端部を欠損する。715は716に比べやや小ぶりであるが形状は類似する。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。いずれもホルンフェルス製である。

717は先端部から直線的に開く側縁部を持って基部に至る。基部両側縁に調整を加え茎部をしている。基部はやや尖り気味に收められる。表裏面ともに丁寧な剥離調整を行っているが裏面はやや粗い調整となっている。ホルンフェルス製である。

718は先端部から直線的に開き下位で最大幅となる側縁部を持つ。基部両側縁に調整を加え茎部をしている。逆刺は他に比べ比較的明瞭に形成される。基部はやや尖り気味に收められる。表裏面ともに丁寧な剥離調整を行っているが器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。先端部を欠損する。ホルンフェルス製である。

719は先端部から直線的に開き下位で最大幅となる側縁部を持つ。基部両側縁に調整を加え茎部をしているが他に比べ茎部は明瞭でない。基部を欠損する。器壁の風化が著しく剥離調整について詳細な検討は困難である。先端部を欠損する。ホルンフェルス製である。

(3) 石鎚 (第158~161図)

162点出土し、113点を図示した。

石鎚は形態によって以下のように分類して報告する。

I群 無茎鎚

A類 凹基無茎鎚

B類 円基鎚

C類 平基無茎鎚

D類 五角形鎚

II群 有茎鎚

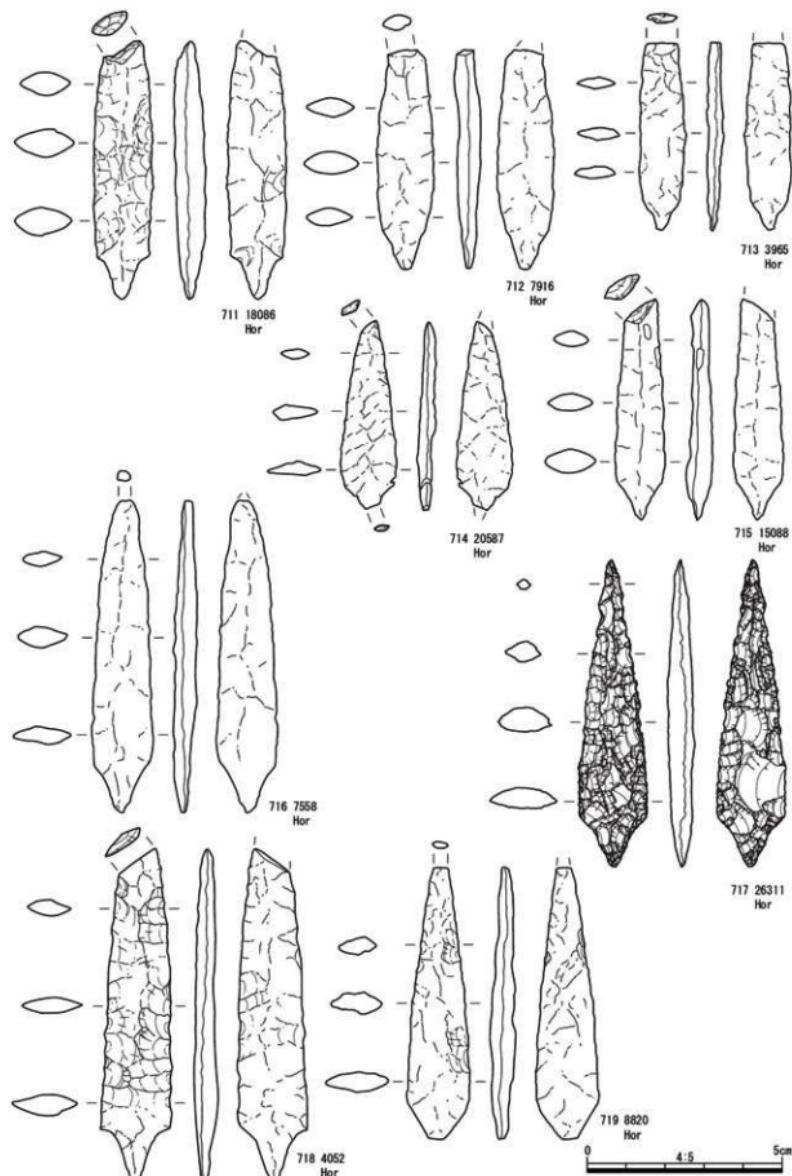
III群 その他 (未製品・欠損品・分類不可)

I群 無茎鎚

A類 凹基無茎鎚

・脚部の長さが全長の1/2以上となる長脚鎚に該当するもの

720は両側縁が大きく外湾して脚部に至り、脚端部は丸く收める。左脚部を欠損する。721は両側縁が



第157図 縄文 有茎尖頭器3

わずかに外湾して脚部に至り脚端部は尖り気味に收める。先端部を欠損する。いずれも黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

・基部の抉りがU字状で、脚部が角状を呈する、鐵形鎌と呼ばれるもの

722は両側縁がわずかに内湾して踏ん張った脚部に至る。723は両側縁が直線的に開き脚部に至る。裏面の剥離調整は周縁部が主体で中央付近には素材剥片の剥離面が残されている。いずれもチャート製である。

724は両側縁が直線的に開き脚部に至り、剥離調整は表裏面ともに周縁部を主体に行われるため中央部には素材剥片の剥離面が残されている。砂岩（細粒）製である。

725は両側縁が先端部直下で角度を変えてから直線的に開いて脚部に至る。剥離調整は表裏面ともに周縁部を主体に行われるため中央部には素材剥片の剥離面が残されている。右脚端部をわずかに欠損する。ガラス質黒色安山岩製である。

726・727・728は平面正三角形に近い形態を呈する。726は両側縁がわずかに外湾して脚部に至り両脚端部を欠損する。平面形状から便宜的にここに分類したが、U字形の抉り形状から前述の長脚鎌となる可能性もある。727・728は両側縁が直線的に開いて脚部に至る。脚端部はやや丸みを帯びている。いずれも黒曜石製である。

729・730・731は平面長二等辺三角形を呈し、両側縁は直線的に開いて脚部に至る。いずれも黒曜石製である。

・抉りが比較的深く、両側縁が直線的に開いて脚部に至るもの

732～738は平面長二等辺三角形、739～746は平面二等辺三角形を呈する。脚端部は尖り気味に收められる。746は水晶製、738はホルンフェルス製で、それ以外は全て黒曜石製である。

・抉りが比較的深く、側縁が緩やかに外湾するもの

平面正三角形～二等辺三角形に近い形態を呈する747～757と平面長二等辺三角形を呈する758・759・760・761に大別できる。755は珪質頁岩製、756はチャート製、761はホルンフェルス製で、それ以外は全て黒曜石製である。

・抉りが浅く、側縁が直線的に伸びるもの

762～777は平面二等辺三角形状を呈し、脚端部を尖り気味に收める。777はガラス質黒色安山岩製で、それ以外は全て黒曜石製である。

・抉りが浅く、側縁が緩やかに外湾するもの

778～792がこれに該当する。787・789・790・791はガラス質黒色安山岩製、792は硬質細粒凝灰岩製で、それ以外は全て黒曜石製である。

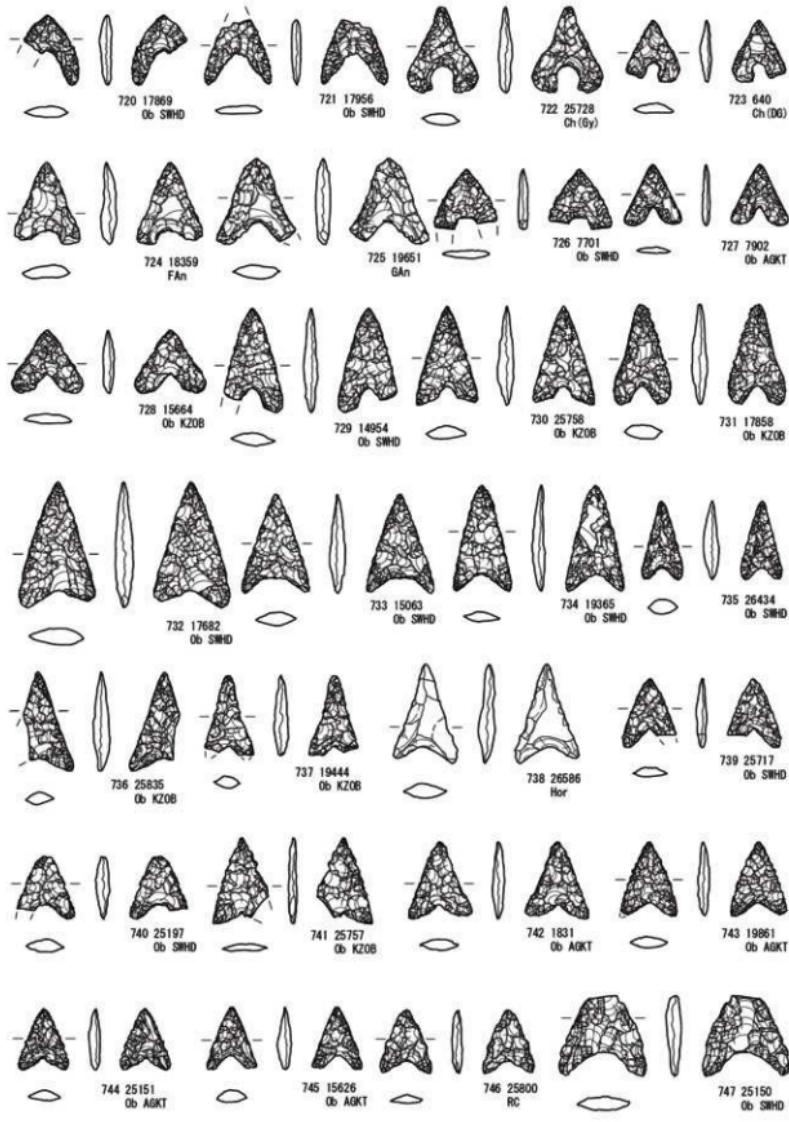
B類 円基鎌

793は基部が丸く加工されている。両側縁はわずかに外湾して開き基部に至る。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

C類 平基無茎鎌

794～803は平面二等辺三角形状を呈し、基部に明確な抉りが認められないことから平基と判断した。両側縁が先端部からほぼ直線的に開くものが多いが、801は両側縁に膨らみを持つ。802は黒曜石（和田鷹山群）製。他はいずれも黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

804～811は黒曜石（神津島恩馳鳥群）製の一群で、長二等辺三角形状を呈する。804・805・806から正三角形に近い810・811まで各形態が認められる。812・813は黒曜石（天城柏崎群）製、814は珪質頁岩製、815はガラス質黒色安山岩製である。



0 4.5 5cm

第158図 繩文 石器 1